

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

東北薬科大学

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	11
基礎資料 4	カリキュラムマップ	79
基礎資料 5	語学教育の要素	81
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	82
基礎資料 7	学生受入状況について	87
基礎資料 8	教員・事務職員数	88
基礎資料 9	専任教員年齢構成	89
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	90
基礎資料11	卒業研究の配属状況	112
基礎資料12	講義室等の数と面積	113
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	114
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	115
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	116

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次							単位数
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		
教養教育・語学教育	論理学	後期	113	3	323	コ		1
	哲学	前期	113	3	331	コ		1
	こころの科学 I	前期	113	3	320	コ	演	1
	こころの科学 II	後期	113	3	322	コ	演	1
	文章の表現 I	前期	57	6	320	コ	タ	1
	文章の表現 II	後期	57	6	322	コ	タ	1
	社会の仕組 I	前期	113	3	320	コ		1
	社会の仕組 II	後期	113	3	322	コ		1
	現代の社会 I	前期	113	3	324	コ		1
	現代の社会 II	後期	113	3	322	コ		1
	くすりと病気	前期	113	3	320	コ	オ	1
	統計学	後期	113	3	324	コ		1
	薬学基礎数学	前期	113	3	323	コ		1
	薬学基礎物理学 I	前期	113	3	330	コ		1
	薬学基礎物理学 II	後期	113	3	327	コ		1
	薬学基礎生物学	前期	113	3	330	コ		1
	薬学早期体験学習	前期	339	1	319	S	タ	1
	一般化学	前期	113	3	331	コ		1
	情報科学 II	後期	113	3	322	S	タ	1
	英語	前期・後期	57	6	322	コ	演	2
	英会話 I	前期	57	6	320	コ		1
	英会話 II	後期	57	6	322	コ		1
	(択必) ドイツ語	前期・後期	57	6	304	コ	演	2
	(択必) フランス語	前期・後期	113	3	25	コ		2
	(択) 生物学演習 (0.5)	前期	113	3	197	コ		0.5
	(択) 物理学演習 I (0.5)	前期	113	3	304	コ		0.5
	(択) 統計学演習 (0.5)	後期	113	3	296	コ	演	0.5
(択) 物理学演習 II (0.5)	後期	113	3	315	コ		0.5	
(択) 一般化学演習	前期	113	3	329	コ	演	1	
(択) 情報科学 I	前期	113	3	317	タ		1	
(択必) 健康スポーツ (実技)	前期	113	3	224	タ		1	
(択必) 健康科学 (講義)	後期	113	3	95	コ		1	
薬学専門教育	ヒトのからだ	前期	113	3	337	コ		1
	無機・有機化学演習	後期	113	3	323	コ	演	1
	有機化学 I	後期	113	3	337	コ		1
	無機化学	後期	113	3	334	コ		1
	物理化学 I	後期	113	3	322	コ		1
	人体生化学 I	後期	113	3	335	コ		1
	人体生化学 II	後期	113	3	324	コ		1
実習	基礎実習 I (生物系) (0.5)	後期	170	2	321	コ	タ	0.5
	基礎実習 II (化学系) (0.5)	後期	170	2	321	コ	タ	0.5
演習								
単位数の合計	(必須科目)							31
	(選択必修科目)							6
	(選択科目)							4
	合計							41

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
 オムニバス=オ その他=タ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	倫理学	前期	123	3	321	コ		1
	総合文化研究Ⅰ	前期	123	3	320	コ		1
	総合文化研究Ⅱ	後期	123	3	321	コ		1
	現代の社会Ⅲ	前期	123	3	320	コ		1
	科学史	前期	123	3	320	コ		1
	薬学英語Ⅰ	前期	62	6	320	コ		1
	薬学英語Ⅱ	後期	62	6	324	コ	S	1
薬学専門教育	有機化学演習	前期	123	3	337	コ	演	1
	有機化学Ⅱ	前期	123	3	336	コ		1
	有機化学Ⅲ	後期	123	3	361	コ		1
	物理化学Ⅱ	前期	123	3	322	コ		1
	物理化学Ⅲ	前期	123	3	320	コ		1
	物理化学Ⅳ	後期	123	3	322	コ		1
	分析化学Ⅰ	前期	123	3	347	コ		1
	分析化学Ⅱ	後期	123	3	330	コ		1
	機器分析Ⅰ	後期	123	3	355	コ		1
	機器分析Ⅱ	後期	123	3	351	コ	演	1
	生薬学Ⅰ	前期	123	3	324	コ		1
	生薬学Ⅱ	後期	123	3	323	コ		1
	人体生化学Ⅲ	前期	123	3	324	コ	S	演
	人体生化学Ⅳ	後期	123	3	323	コ	S	演
	人体生理学Ⅰ	前期	123	3	355	コ		1
	人体生理学Ⅱ	後期	123	3	363	コ		1
	人体生理学Ⅲ	後期	123	3	348	コ		1
	免疫学	前期	123	3	320	コ		1
	微生物学	後期	123	3	323	コ		1
	食品衛生学	後期	123	3	346	コ		1
	病理学Ⅰ	前期	123	3	324	コ		1
	病理学Ⅱ	後期	123	3	335	コ		1
	薬理学Ⅰ	後期	123	3	352	コ		1
臨床検査Ⅰ	後期	123	3	346	コ		1	
実習	実験実習Ⅰ(有機化学系)	前期	185	2	320	タ		1
	実験実習Ⅱ(物理化学・分析系)	後期	185	2	320	コ	タ	1
	実験実習Ⅲ(生化学系)	前期	185	2	320	コ	タ	1
	実験実習Ⅳ(生薬系)	後期	185	2	319	タ		1
演習								
単位数の合計							(必須科目)	35
							(選択科目)	0
							合計	35

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
 オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	薬学英語Ⅲ	前期	108	3	300	コ	タ		1
	薬学英語Ⅳ	後期	108	3	306	コ	演	タ	1
薬学専門教育	有機化学Ⅳ	前期	108	3	317	コ			1
	分子構造解析学	前期	108	3	308	コ			1
	臨床分析化学	後期	108	3	305	コ	演		1
	医薬品化学	前期	108	3	315	コ			1
	創薬化学Ⅰ	後期	108	3	316	コ			1
	天然物化学	前期	108	3	306	コ			1
	医薬品開発Ⅰ	後期	108	3	307	コ	S	演	1
	人体生化学Ⅴ	前期	108	3	305	コ	演		1
	病原微生物学	前期	108	3	299	コ			1
	遺伝子工学	前期	108	3	302	コ			1
	薬物代謝毒性学	前期	108	3	309	コ			1
	環境衛生学	前期	108	3	304	コ			1
	薬理学Ⅱ	前期	108	3	319	コ			1
	薬理学Ⅲ	後期	108	3	319	コ			1
	薬理学Ⅳ	後期	108	3	310	コ			1
	臨床検査学Ⅱ	前期	108	3	304	コ			1
	病態解析学Ⅰ	前期	108	3	304	コ			1
	病態解析学Ⅱ	前期	108	3	300	コ			1
	病態解析学Ⅲ	後期	108	3	305	コ			1
	病態解析学Ⅳ	後期	108	3	305	コ			1
	薬物動態学Ⅰ	前期	108	3	312	コ			1
	薬物動態学Ⅱ	後期	108	3	311	コ			1
	薬物療法学Ⅰ	後期	108	3	320	コ			1
	薬物療法学Ⅱ	後期	108	3	308	コ			1
	医薬品安全性学Ⅰ	後期	108	3	310	コ			1
	調剤学	前期	108	3	324	コ			1
製剤工学概論	後期	108	3	286	コ			1	
(拓必) 特殊臨床検査学	後期	108	3	299	コ			1	
(拓必) 生体分子化学	後期	108	3	299	コ			1	
実習	実験実習Ⅴ(衛生系)	前期	162	2	298	コ	タ		1
	実験実習Ⅵ(安全・病理系)	前期	162	2	298	タ			1
	実験実習Ⅶ(微生物系)	後期	162	2	301	コ	S	タ	1
	実験実習Ⅹ(毒性系)	後期	162	2	302	タ			1
	実験実習(R1)(0.5)	後期	162	2	302	タ			0.5
演習									
単位数の合計							(必須科目)		33.5
							(選択必修科目)		2
							(選択科目)		0
							合計		35.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	創薬化学Ⅱ	前期	144	2	284	コ			1
	漢方医学概論	前期	144	2	284	コ			1
	医薬品開発Ⅱ	前期	144	2	284	コ	演		1
	医療統計学	後期	144	2	284	コ			1
	公衆衛生学	後期	144	2	284	コ			1
	薬理学Ⅴ	前期	144	2	284	コ			1
	病態解析学Ⅴ	前期	144	2	284	コ			1
	薬物療法学Ⅲ	前期	144	2	284	コ			1
	薬物療法学Ⅳ	前期	144	2	284	コ			1
	医薬品安全性学Ⅲ	前期	144	2	284	コ			1
	医薬品安全性学Ⅳ	前期	144	2	284	コ			1
	地域医療Ⅰ	前期	144	2	284	コ			1
	地域医療Ⅱ	後期	144	2	284	コ			1
	製剤工学概論	前期	144	2	286	コ			1
	医療コミュニケーション論	前期	144	2	284	コ	S		1
	医療業務概論	後期	144	2	284	コ			1
	医薬品情報総論	前期	144	2	284	コ	演		1
	実務演習Ⅰ	後期	144	2	285	コ			1
	実務演習Ⅱ	後期	144	2	284	コ			1
	実務実習講義Ⅰ	後期	144	2	284	コ	演		1
	実務実習講義Ⅱ	後期	144	2	284	コ			1
	薬事関連法規Ⅰ	前期	144	2	284	コ			1
	薬事関連法規Ⅱ	後期	144	2	284	コ			1
	薬学統合講義Ⅰ	前期	144	2	287	コ	演		1
	薬学統合講義Ⅱ	前期	144	2	287	タ			1
	薬学統合講義Ⅲ	前期	144	2	287	コ			1
	薬学統合講義Ⅳ	後期	144	2	287	コ	演		1
薬学統合講義Ⅴ	後期	144	2	287	コ	演		1	
薬学統合講義Ⅵ	後期	144	2	287	コ			1	
薬学統合講義Ⅶ	後期	144	2	287	コ			1	
薬学統合講義Ⅷ	後期	144	2	287	コ			1	
(択必) 医薬品合成化学	後期	144	2	134	コ			1	
(択必) ゲノム創薬	後期	144	2	264	コ			1	
(択必) 薬効薬理試験評価概論	後期	144	2	256	コ			1	
実習	実験実習Ⅷ(薬理系)	前期	144	2	284	コ	タ		1
	実験実習Ⅸ(薬剤系)	前期	144	2	284	タ		1	
	実験実習Ⅹ(薬品合成系)	前期	144	2	284	タ		1	
	実務模擬実習(事前教育)	後期	144	2	287	タ	S		1
	実務模擬実習(事前教育)	後期	144	2	287	タ			1
演習									
単位数の合計	(必須科目)								35
	(選択必修科目)								3
	(選択科目)								0
	合計								38

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
オムニバス=オ その他=タ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

		5 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
	薬学専門教育	処方解析 I	前期	92	3	276	S		1
		処方解析 I							
		処方解析 II	前期	92	3	276	S		1
		処方解析 II							
		処方解析 III	前期	92	3	276	S		1
		処方解析 III							
		処方解析 IV	前期	92	3	276	S		1
		処方解析 IV							
		症例解析 I	前期	92	3	276	S		1
		症例解析 I							
		症例解析 II	前期	92	3	276	S		1
		症例解析 II							
		症例解析 III	前期	92	3	276	S		1
		症例解析 III							
		症例解析 IV	前期	92	3	276	S		1
		症例解析 IV							
		処方実務演習 I	前期	92	3	276	S		1
		処方実務演習 I							
		処方実務演習 II	前期	92	3	276	S		1
処方実務演習 II									
実習	実務実習 I (病院)	前期	92	3	276	タ		10	
	実務実習 I (病院)								
	実務実習 I (病院)								
	実務実習 I (病院)								
	実務実習 II (薬局)	後期	92	3	276	タ		10	
	実務実習 II (薬局)								
	実務実習 II (薬局)								
	実務実習 II (薬局)								
演習									
単位数の合計							(必須科目)	30	
							(選択科目)	0	
							合計	30	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
 オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

		6 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育										
	薬学専門教育	特殊医療学Ⅰ	前期	321	1	321	コ	オ		1
		特殊医療学Ⅱ	前期	321	1	321	コ	オ		1
		医療倫理と患者心理	前期	321	1	321	コ	オ		1
		臨床薬剤業務演習Ⅰ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅱ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅲ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅳ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅴ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅵ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅶ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅷ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		臨床薬剤業務演習Ⅸ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		調剤業務演習	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		医療管理業務演習Ⅰ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		医療管理業務演習Ⅱ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		社会薬学演習Ⅰ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		社会薬学演習Ⅱ	後期	161	2	360	コ	演		0.5
		薬事関連法規演習 (択必) 医療経済論	後期 前期	161 321	2 1	360 47	コ	演		0.5 1
		実習								
演習		卒業研究	前期	321		321	タ	S		14
単位数の合計									(必須科目)	24.5
									(選択必修科目)	1
									(選択科目)	0
									合計	25.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習=演
オムニバス=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	14	12 ※
教養教育科目	25	(必修のみ) 18
語学教育科目	9	(必修のみ) 10
医療安全教育科目	10	7 ※
生涯学習の意欲醸成科目	12	5 ※
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	14	6 ※

※4年次:実務模擬実習(事前教育)1単位、5年次:実務実習Ⅰ(病院)、Ⅱ(薬局)、各10単位を除く

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目(選択必修)	選択科目	合計
1 年 次	31 (6)	4	39
2 年 次	35	0	35
3 年 次	33.5 (2)	0	35.5
4 年 次	35 (3)	0	38
5 年 次	30	0	30
6 年 次	24.5	1	25.5
合計	191 (9)	3	203

() は選択必修科目単位数外数

(基礎資料 2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	300	300	300	300	300	330	1,830	A	
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	B	
	入学者数	318	326	334	326	314	348	1,966		
基準日 における	各学年の在籍学生数	339	370	324	287	276	362	1,958	C	
	編入学生数(内)※	0	0	0	0	0	0	0	D	
	留年者数(内)	22	50	26	3	2	41	144		
	留年者の 入学年度	平成18年度						7	7	
		平成19年度						6	6	
		平成20年度			1		2	28	31	
		平成21年度	1			2			3	
		平成22年度		1	8	1			10	
		平成23年度		6	17				23	
		平成24年度		43					43	
平成25年度		21						21		
平成26年度										
C / (A+B)		1.07		※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D / B		0								

- [注] 1 「C / (A+B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍 学生数	1595				1886				1918				1906				1882							
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数
1年次	6	22	10	0	2	21	15	0	4	24	15	0	5	23	8	0	5	21	8	0	/	/	/	/
2年次	3	40	2	0	0	34	15	0	2	41	10	0	1	52	8	0	2	43	19	0	/	/	/	/
3年次	5	38	4	0	5	20	5	0	4	28	5	0	3	27	13	0	3	59	10	0	/	/	/	/
4年次	2	2	1	0	2	5	0	0	3	7	0	0	0	3	0	0	0	2	1	0	/	/	/	/
5年次	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	/	/	/	/
6年次	/	/	/	/	0	28	0	0	0	28	0	0	0	40	1	0	3	53	1	0	/	/	/	/
合計	16	102	17	0	9	110	35	0	13	130	30	0	9	147	30	0	13	180	39	0	/	/	/	/

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		244 名	308 名 <small>(平成24年9月卒業28名含)</small>	292 名 <small>(平成25年9月卒業28名含)</small>	309 名 <small>(平成26年9月卒業40名含)</small>	名	名			
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	238 名	35 名	14 名 <small>(平成25年9月卒業12名含)</small>	7 名 <small>(平成26年9月卒業7名)</small>	名	名	平成18年度	314 名	75.8%
	平成19年度入学者	6 名	273 名	25 名 <small>(平成25年9月卒業16名含)</small>	10 名 <small>(平成26年9月卒業6名含)</small>	名	名	平成19年度	328 名	83.2%
	平成20年度入学者	名	名	253 名	40 名 <small>(平成26年9月卒業27名含)</small>	名	名	平成20年度	339 名	74.6%
	平成21年度入学者	名	名	名	252 名	名	名	平成21年度	348 名	72.4%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	314 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	326 名	0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目																							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																		
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ																								
(1) 生と死																								
【生命の尊厳】																								
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)																			くすりと病気	総合文化研究I				医療倫理と患者心理
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。																			くすりと病気	総合文化研究I				医療倫理と患者心理
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	くすりと病気	総合文化研究I、倫理学				医療倫理と患者心理																		
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	くすりと病気	総合文化研究I、倫理学				医療倫理と患者心理																		
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)	くすりと病気	総合文化研究I																						
【医療の目的】																								
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	くすりと病気			医療コミュニケーション論		医療倫理と患者心理																		
【先進医療と生命倫理】																								
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。						医療倫理と患者心理																		
(2) 医療の担い手としてのこころ構え																								
【社会の期待】																								
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	くすりと病気					医療倫理と患者心理																		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	くすりと病気、薬学早期体験学習					医療倫理と患者心理																		
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)				医療コミュニケーション論		医療倫理と患者心理																		
【医療行為に関わるこころ構え】																								
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。		倫理学				医療倫理と患者心理																		
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。		倫理学		医療コミュニケーション論		医療倫理と患者心理																		
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。		倫理学		医療コミュニケーション論		医療倫理と患者心理																		
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)		倫理学				医療倫理と患者心理																		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						医療倫理と患者心理																		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【研究活動に求められるところ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。					卒業研究	卒業研究
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)		総合文化研究I			卒業研究	卒業研究
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)		総合文化研究I、総合文化研究II			卒業研究	卒業研究
【医薬品の創製と供給に関わるところ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)		科学史				医療倫理と患者心理
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						医療倫理と患者心理
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)					症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	薬学早期体験学習、ドイツ語	総合文化研究I			症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	こころの科学II、英語、ドイツ語					
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	こころの科学II、英語、ドイツ語					
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	こころの科学II、英語、ドイツ語	総合文化研究II、総合文化研究I				
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	こころの科学II					
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)	健康スポーツ、こころの科学II				症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	健康スポーツ、こころの科学II	総合文化研究I、総合文化研究II			症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						医療倫理と患者心理
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						医療倫理と患者心理
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						医療倫理と患者心理
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)		総合文化研究I				医療倫理と患者心理

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	薬学早期体験学習					
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。	健康スポーツ	総合文化研究Ⅱ				
2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)	健康スポーツ	総合文化研究Ⅱ			症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習ⅠⅡ	
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)	健康スポーツ、ドイツ語	総合文化研究Ⅱ			症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習ⅠⅡ	
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。				地域医療Ⅰ		
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)				地域医療Ⅰ		
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。		科学史				
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。			調剤学			
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。	くすりと病気、薬学早期体験学習					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	くすりと病気					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。			調剤学			
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。				医薬品開発Ⅱ		
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。				医薬品開発Ⅱ		
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	くすりと病気					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。		科学史				
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。		科学史	医薬品開発Ⅰ			
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。			医薬品開発Ⅰ			
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。				医薬品安全性学Ⅳ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学早期体験学習		医薬品開発 I			
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。				製剤学 (現: 製剤工学概論)		
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)					症例解析 I ~ IV、処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I、II	
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)					症例解析 I ~ IV、処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I、II	
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学早期体験学習					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	薬学早期体験学習					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	薬学早期体験学習					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	薬学早期体験学習					
C 薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	有機化学 I、無機化学、物理化学 I、一般化学、一般化学演習	有機化学演習				
2) 軌道の混成について説明できる。	有機化学 I、無機化学、物理化学 I、一般化学、一般化学演習					
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	有機化学 I、無機化学、物理化学 I					
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学 I、無機化学	有機化学演習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学、一般化学					
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	有機化学Ⅰ、無機化学、一般化学、一般化学演習					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	有機化学Ⅰ、無機化学、一般化学					
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	無機化学、一般化学					
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	有機化学Ⅰ、無機化学、一般化学、一般化学演習	実験実習Ⅱ (物理化学・分析系)				
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。	無機化学					
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学	物理化学Ⅲ				
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		実験実習Ⅱ (物理化学・分析系)、機器分析学Ⅰ				
6) 偏光および旋光性について説明できる。	物理化学Ⅰ	実験実習Ⅱ (物理化学・分析系)、機器分析学Ⅰ				
7) 散乱および干渉について説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。	物理化学Ⅰ	機器分析学Ⅰ				
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		物理化学Ⅱ	実験実習 (RI)			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。		物理化学Ⅱ	実験実習 (RI)			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理化学Ⅱ	実験実習 (RI)			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理化学Ⅱ	実験実習 (RI)			
5) 放射線の測定原理について説明できる。		物理化学Ⅱ	実験実習 (RI)			
(2) 物質の状態Ⅰ						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学Ⅲ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		物理化学Ⅲ				
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 仕事および熱の概念を説明できる。		物理化学Ⅲ				
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。		物理化学Ⅲ				
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。		物理化学Ⅲ				
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)		物理化学Ⅲ				
7) エンタルピーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。		物理化学Ⅲ				
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
2) 熱力学第二法則について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
4) 熱力学第三法則について説明できる。		物理化学Ⅲ				
5) 自由エネルギーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	物理化学Ⅲ				
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)		物理化学Ⅲ				
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。		物理化学Ⅲ				
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van' t Hoffの式)について説明できる。		物理化学Ⅲ				
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。		物理化学Ⅲ				
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動(Clausius-Clapeyronの式など)について説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 代表的な状態図(一成系、二成分系、三成分系相図)について説明できる。		物理化学Ⅲ				
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		物理化学Ⅳ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。	一般化学	実験実習II (物理化学・分析系)、物理化学III				
6) 界面における平衡について説明できる。			製剤学			
7) 吸着平衡について説明できる。			製剤学			
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理化学III、物理化学IV				
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		物理化学IV				
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学IV				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学IV				
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		物理化学IV				
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。		物理化学IV				
6) イオン強度について説明できる。		物理化学IV				
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。		物理化学IV				
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理化学IV				
2) 標準電極電位について説明できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、物理化学IV				
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。		物理化学IV				
4) Nernstの式が誘導できる。		物理化学IV				
5) 濃淡電池について説明できる。		物理化学IV				
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。		物理化学IV				
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、物理化学IV				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		実験実習II (物理化学・分析系)、物理化学IV				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、物理化学IV				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		実験実習II(物理化学・分析系)、物理化学IV				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学IV				
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。		物理化学IV				
7) 衝突理論について概説できる。		物理化学IV				
8) 遷移状態理論について概説できる。		物理化学IV				
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		実験実習II(物理化学・分析系)、物理化学IV				
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		物理化学IV				
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。			製剤学			
2) 沈降現象について説明できる。			製剤学			
3) 流動現象および粘度について説明できる。			製剤学			
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	有機化学I、無機・有機化学演習	分析化学I				
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)	基礎実習II	実験実習II(物理化学・分析系)				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	有機化学I	分析化学I、実験実習II(物理化学・分析系)				
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。		分析化学I				
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。		分析化学I				
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。		実験実習I(有機化学系)、分析化学I				
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	無機化学	分析化学II				
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。		分析化学II				
3) 酸化還元電位について説明できる。		分析化学II				
4) 酸化還元平衡について説明できる。		分析化学II				
5) 分配平衡について説明できる。		分析化学II				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6) イオン交換について説明できる。		分析化学Ⅱ				
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎実習Ⅱ	分析化学Ⅱ				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	基礎実習Ⅱ	分析化学Ⅱ				
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		実験実習Ⅰ(物理化学・分析系)				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅰ				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅰ				
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。		分析化学Ⅰ				
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		分析化学Ⅰ				
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎実習Ⅱ	分析化学Ⅰ、実験実習Ⅰ(物理化学・分析系)				
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ、実験実習Ⅰ(物理化学・分析系)				
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)		実験実習Ⅰ(物理化学・分析系)				
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学Ⅱ				
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学Ⅱ				
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		実験実習Ⅰ(物理化学・分析系)、機器分析学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、機器分析学II	臨床分析化学			
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)	基礎実習II	実験実習I (有機化学系)、実験実習II (物理化学・分析)				
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)			臨床分析化学			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			臨床分析化学			
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、機器分析学II	臨床分析化学			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			臨床分析化学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		実験実習II (物理化学・分析系)	臨床分析化学			
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			臨床分析化学			
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			臨床分析化学			
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			臨床分析化学			
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。		物理化学II	臨床検査学II、実験実習(RI)			特殊医療学I
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。		物理化学II	臨床検査学II、実験実習(RI)			
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメーキング、マイクロチップなど) について概説できる。			臨床分析化学			
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			臨床分析化学			
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			臨床分析化学			
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			臨床分析化学			
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		実験実習II (物理化学・分析系)、機器分析学 I 機器分析				
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 II				
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 I				
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			分子構造解析学			
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 I				
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		機器分析学 II、 機器分析学 I				
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器分析化学 I				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		機器分析化学 I				
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。			臨床分析化学、分子構造解析学			
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。			臨床分析化学、分子構造解析学			
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			分子構造解析学			
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。			分子構造解析学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		機器分析学Ⅱ、 機器分析学Ⅰ	臨床分析化学			
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造を概説できる。	人体生化学Ⅱ		創薬化学Ⅰ、生 体分子化学			
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	人体生化学Ⅱ		創薬化学Ⅰ、生 体分子化学			
3) タンパク質の立体構造を規定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)について、具体例を用いて説明できる。	生物学演習、人 体生化学Ⅱ		創薬化学Ⅰ、生 体分子化学			
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	人体生化学Ⅱ		生体分子化学			
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子化学			
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	薬学基礎生物学		生体分子化学			
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			創薬化学Ⅱ			
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	薬学基礎生物学		生体分子化学			
3) 脂質の水中における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)について説明できる。	薬学基礎生物学		生体分子化学			
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			創薬化学Ⅱ			
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学Ⅰ、無 機化学	有機化学演習				
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化学Ⅰ、一 般化学演習	有機化学演習				
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
5) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離、転位)の特徴を概説できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ、有 機化学演習				
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	有機化学Ⅰ、一 般化学、一般化 学演習	有機化学演習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅲ、有機化学演習	有機化学Ⅳ			
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
2) キラリティーと光学活性を概説できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
5) 絶対配置の表示法を説明できる。	有機化学Ⅰ、無機・有機化学演習	有機化学演習				
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機化学Ⅰ、無機・有機化学演習	有機化学演習				
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学演習				
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学					
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。	無機化学					
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	無機化学					
2) 配位結合を説明できる。	無機化学					
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	無機化学					
4) 錯体の安定度定数について説明できる。	無機化学					
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。	無機化学					
6) 錯体の反応性について説明できる。	無機化学					
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	無機化学					
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	有機化学Ⅰ、無機・有機化学演習					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	有機化学Ⅰ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	有機化学 I					
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学 I					
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	有機化学 I、無機・有機化学演習					
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。	有機化学 I、無機・有機化学演習					
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 I、無機・有機化学演習					
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。		有機化学 II、有機化学演習				
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。		有機化学 II、有機化学演習				
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。		有機化学 II、有機化学演習、有機化学 III				
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。		有機化学 II、有機化学演習、有機化学 III				
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。		有機化学 III、有機化学演習				
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。		有機化学 II、有機化学演習				
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II、有機化学演習				
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		有機化学 III				
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。		有機化学 III				
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		有機化学 III				
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		有機化学 III				
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		有機化学 III				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	有機化学Ⅰ、無機・有機化学演習	有機化学Ⅲ				
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	無機・有機化学演習	有機化学Ⅲ				
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			創薬化学Ⅰ			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		実験実習Ⅰ(有機化学系)				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		実験実習Ⅰ(有機化学系)				
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	無機・有機化学演習	薬理学Ⅰ、食品衛生学				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
2) 求核置換反応(S _N 1およびS _N 2反応)の機構について、立体化学を含めて説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性(Saytzeff則)を説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ				
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ				
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ				
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ				
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。		有機化学Ⅱ				
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅳ			
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		人体生理学Ⅰ				
【官能基の酸性度・塩基性度】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	無機・有機化学 演習	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ			
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅳ			
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。	無機・有機化学 演習		医薬品化学、有 機化学Ⅳ			
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器分析学Ⅰ	分子構造解析学			
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学Ⅰ				
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
7) ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		機器分析学Ⅰ				
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学Ⅰ				
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析学Ⅰ				
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学Ⅰ				
【マスペクトル】						
1) マスペクトルの概要と測定法を説明できる。			分子構造解析学			
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。			分子構造解析学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。			分子構造解析学			
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。			分子構造解析学			
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。			分子構造解析学			
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。			分子構造解析学			
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			分子構造解析学			
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		機器分析学 I				
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)		機器分析学 I				
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。		機器分析学 I				
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		機器分析学 I				
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		機器分析学 I	分子構造解析学			
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ、有機化学演習				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ				
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ				
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ				
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ				
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅳ			
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅳ			
9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅳ			
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。			有機化学Ⅳ			
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			有機化学Ⅳ	医薬品合成化学(選択)		
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)				実験実習Ⅹ(薬品合成系)		
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。			有機化学Ⅳ			
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。		有機化学Ⅲ				
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。			有機化学Ⅳ			
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学Ⅲ、有機化学演習	有機化学Ⅳ	医薬品合成化学 (選択)		
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学Ⅲ、有機化学演習	有機化学Ⅳ	医薬品合成化学 (選択)		
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。		有機化学Ⅲ		医薬品合成化学 (選択)		
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。			有機化学Ⅳ			
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)				実験実習Ⅹ (薬品合成系)		
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)				実験実習Ⅹ (薬品合成系)		
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)		実験実習Ⅰ (有機化学系)		実験実習Ⅹ (薬品合成系)		
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	人体生化学II		創薬化学 I			
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	薬学基礎生物学		創薬化学 I			
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。	薬学基礎生物学、人体生化学II		創薬化学 I			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。			創薬化学 I			
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学II		創薬化学 I			
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			医薬品化学	創薬化学 II		
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			医薬品化学	創薬化学 II		
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。			医薬品化学	創薬化学 II		
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	無機化学					
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	無機化学					
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	無機化学					
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	人体生化学II		創薬化学 I、生体分子化学			
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。	人体生化学II		創薬化学 I、生体分子化学			
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			創薬化学 I、生体分子化学			
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬品化学	創薬化学 II		
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。			医薬品化学	創薬化学 II		
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			医薬品化学			
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			医薬品化学			
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。			創薬化学 I、医薬品化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)	有機化学 I					
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
3) β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。			創薬化学 I、医薬品化学			
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学 I 生薬学 II				
2) 生薬の歴史について概説できる。		生薬学 I 生薬学 II				
3) 生薬の生産と流通について概説できる。		生薬学 I 生薬学 II				
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		実験実習 IV (生薬系)、生薬学 I、生薬学 II				
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		生薬学 I 生薬学 II				
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学 I 生薬学 II				
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		実験実習 IV (生薬系)、生薬学 I、生薬学 II				
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		生薬学 I 生薬学 II				
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学 I 生薬学 II				
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学 I 生薬学 II				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
【農業、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農業、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学Ⅱ				
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		実験実習Ⅳ(生薬系)、生薬学Ⅰ、生薬学Ⅱ				
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)		実験実習Ⅳ(生薬系)、生薬学Ⅰ、生薬学Ⅱ				
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)		実験実習Ⅳ(生薬系)、生薬学Ⅰ、生薬学Ⅱ				
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			天然物化学			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。			天然物化学			
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。			天然物化学			
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		実験実習IV(生薬系)	天然物化学			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物化学			
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		微生物学	天然物化学			
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			天然物化学			
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			天然物化学			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。				漢方医学概論		
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。				漢方医学概論		
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。				漢方医学概論		
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。				漢方医学概論		
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。				漢方医学概論		
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。				漢方医学概論		
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。				漢方医学概論		
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。				漢方医学概論		
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。				漢方医学概論		
[生物系薬学を学ぶ]						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
C8 生命体の成り立ち												
(1) ヒトの成り立ち												
【概論】												
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	ヒトのからだ		病態解析学Ⅰ、 Ⅱ									
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	ヒトのからだ		病態解析学Ⅰ、 Ⅱ									
【神経系】												
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。		人体生理学Ⅰ										
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。		人体生理学Ⅰ										
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。		人体生理学Ⅰ										
【骨格系・筋肉系】												
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	ヒトのからだ		病態解析学Ⅰ									
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	ヒトのからだ											
【皮膚】												
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	ヒトのからだ											
【循環器系】												
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅰ									
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅰ									
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ										
【呼吸器系】												
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅱ									
【消化器系】												
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅰ									
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅰ									
【泌尿器系】												
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅲ	病態解析学Ⅳ									
【生殖器系】												
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅲ										
【内分泌系】												
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅲ	病態解析学Ⅳ									

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ	病態解析学Ⅱ			
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体生理学Ⅱ				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態のおよび機能的特徴を説明できる。	人体生化学Ⅰ	薬学英語Ⅱ				
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	基礎実習Ⅰ		実験実習Ⅵ(安全・病理系)			
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ		生体分子化学			
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ	薬学英語Ⅱ	生体分子化学			
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ	薬学英語Ⅱ				
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	人体生化学Ⅰ	薬学英語Ⅱ	薬物療法学Ⅱ			
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	薬学基礎生物学、人体生化学Ⅰ					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	人体生化学Ⅰ					
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		人体生理学 I				
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。	ヒトのからだ	人体生理学 I				
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		人体生理学 III	病態解析学 IV			
2) 血糖の調節機構を説明できる。	生物学演習	人体生理学 III		病態解析学 V		
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。		人体生理学 II、人体生理学 II	病態解析学 I			
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		人体生理学 II	病態解析学 II			
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		人体生理学 II	病態解析学 III			
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		人体生理学 III	病態解析学 IV			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		人体生理学 III	病態解析学 IV			
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		人体生理学 II				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。		人体生理学 II				
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。		人体生理学 I、人体生理学 III				
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。	薬学基礎生物学	微生物学				
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学				
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		微生物学				
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学				
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学				
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		微生物学				
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。		微生物学				
【細菌毒素】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。			病原微生物学			
2) ウイルスの分類法について概説できる。			病原微生物学			
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。			病原微生物学			
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。			病原微生物学			
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学	病原微生物学			
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学	実験実習VII (微生物系)			
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)			実験実習VII (微生物系)			
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)			実験実習VII (微生物系)			
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			実験実習VII (微生物系)			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)			実験実習VII (微生物系)			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)			実験実習VII (微生物系)			
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。			特殊臨床検査学、実験実習VII (微生物系)			
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)			実験実習VII (微生物系)			
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生物学演習、人体生化学II、人体生化学I	人体生化学III	創薬化学I	病態解析学V		
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	人体生化学II、人体生化学I	人体生化学III	創薬化学I			
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		人体生化学III				
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。		人体生化学III				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	人体生化学 I		創薬化学 I			
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	人体生化学 I		創薬化学 I			
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	人体生化学 I		創薬化学 I			
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)				
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	人体生化学Ⅱ	人体生化学Ⅲ	創薬化学 I			
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		人体生化学Ⅲ				
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)				
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	人体生化学Ⅱ					
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	人体生化学Ⅱ					
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	人体生化学Ⅱ					
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。		人体生化学Ⅳ				
2) DNAの構造について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ	創薬化学Ⅰ、生体分子化学			
3) RNAの構造について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ				
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ		ゲノム創薬(選択)		
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ				
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ		ゲノム創薬(選択)		
4) 染色体の構造を説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ	臨床検査学Ⅱ			
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ		ゲノム創薬(選択)		
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ		ゲノム創薬(選択)		
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学Ⅳ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学IV				
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学IV				
5) リボソームの構造と機能について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学IV				
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学IV				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。		人体生化学IV	医薬品安全性学I、臨床検査学II	ゲノム創薬(選択)		
3) DNAの修復の過程について説明できる。		人体生化学IV				
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響について概説できる。		人体生化学IV	遺伝子工学			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	薬学基礎生物学、人体生化学II					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	人体生化学II		生体分子化学			
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	人体生化学II		生体分子化学			
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	人体生化学II					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	人体生化学II					
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	人体生化学II					
4) 酵素反応速度論について説明できる。	人体生化学II					
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	人体生化学II					
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		実験実習III(生化学系)				
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。	薬学基礎生物学、人体生化学I	人体生理学I				
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	薬学基礎生物学、人体生化学I、人体生化学II					
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	人体生化学II	臨床検査学I				
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。		人体生理学I				
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	薬学基礎生物学					
【タンパク質の取扱い】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		実験実習Ⅲ(生化学系)				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)	人体生化学II	実験実習Ⅲ(生化学系)				
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	人体生化学II					
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		人体生化学III				
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学III				
2) 解糖系について説明できる。	生物学演習、健康科学、人体生化学I	人体生化学III				
3) クエン酸回路について説明できる。	生物学演習、人体生化学I	人体生化学III				
4) 電子伝達系(酸化的リン酸化)について説明できる。	生物学演習	人体生化学III				
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	生物学演習、人体生化学I	人体生化学III				
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	生物学演習	人体生化学III				
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	薬学基礎生物学	人体生化学III				
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。		人体生化学III				
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。		人体生化学III				
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生物学演習	人体生化学III				
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
2) 糖新生について説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		人体生化学III	人体生化学V			
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。	生物学演習	人体生化学III	人体生化学V			
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		人体生化学III	人体生化学V			
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅲ	病態解析学Ⅳ			
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅲ	病態解析学Ⅳ			
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体生理学Ⅲ	病態解析学Ⅳ			
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。			病態解析学Ⅳ			
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	人体生化学Ⅱ		人体生化学Ⅴ			
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。			人体生化学Ⅴ			
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。			人体生化学Ⅴ			
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。		人体生理学Ⅰ	人体生化学Ⅴ			
5) 主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。			人体生化学Ⅴ			
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。			人体生化学Ⅴ			
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			人体生化学Ⅴ			
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。			人体生化学Ⅴ			
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			人体生化学Ⅴ			
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		人体生理学Ⅰ	人体生化学Ⅴ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。		人体生理学 I	人体生化学V			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。		人体生理学 I	人体生化学V			
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。		人体生理学 I	人体生化学V			
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。			遺伝子工学			
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)				
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)	遺伝子工学			
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		実験実習Ⅲ (生化学系)	遺伝子工学			
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)		実験実習Ⅲ (生化学系)	遺伝子工学			
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。						
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。			遺伝子工学			
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。			遺伝子工学			
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)	遺伝子工学			
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。			遺伝子工学			
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。			遺伝子工学			
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)		実験実習Ⅲ (生化学系)				
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞 (組織) における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。						
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			臨床検査学II、 遺伝子工学			
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。			遺伝子工学			
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			遺伝子工学			
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		免疫学		病態解析学Ⅴ		
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫学				
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		免疫学				
5) クローン選択説を説明できる。		免疫学				
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫学				
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学				
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		免疫学				
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学				
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学	生体分子化学			
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		免疫学				
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		免疫学				
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)を概説できる。		免疫学				
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫学				
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		免疫学				
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学				
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。		免疫学		薬物療法学Ⅳ		
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。		免疫学		薬物療法学Ⅳ		
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。		免疫学				
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学				
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学				
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。		免疫学				
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。		免疫学	病原微生物学、 特殊臨床検査学 (選択)			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン)について基本的特徴を説明できる。		免疫学、微生物学	病原微生物学、特殊臨床検査学(選択)			
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。		免疫学、微生物学	病原微生物学、特殊臨床検査学(選択)	病態解析学V		
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。		免疫学				
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		免疫学				
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)		実験実習Ⅶ(微生物系)				
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)		免疫学				
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス(Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる			病原微生物学	病態解析学V		
2) 主なRNAウイルス(Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる			病原微生物学	病態解析学V		
3) レトロウイルス(HIV、HTLV)が引き起こす疾患について概説できる。			病原微生物学	病態解析学V		
4) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
5) グラム陰性球菌(淋菌、Δ髄膜炎菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
6) グラム陽性桿菌(破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
7) グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、Δブルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
8) グラム陰性スピリルム属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
9) 抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学		病態解析学V		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			病原微生物学			
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。		微生物学	病原微生物学			
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。			病原微生物学			
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			特殊臨床検査学 (選択)	病態解析学 V		
[健康と環境]						
G11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	健康科学	食品衛生学				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品衛生学				
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		食品衛生学				
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。		食品衛生学				
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。	健康科学	食品衛生学				
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。		食品衛生学				
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。	健康科学	食品衛生学				
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品衛生学				
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。		食品衛生学				
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		食品衛生学	実験実習 V (衛生系)			
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。		食品衛生学				
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。		食品衛生学				
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品衛生学				
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生学				
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。		食品衛生学				
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			実験実習 V (衛生系)			
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。		食品衛生学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)		食品衛生学				
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		食品衛生学				
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		一部 微生物学、食品衛生学		病態解析学V		
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品衛生学				
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。		食品衛生学				
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		食品衛生学				
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。				公衆衛生学		
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。				公衆衛生学		
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。				公衆衛生学		
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。				公衆衛生学		
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。				公衆衛生学		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。				公衆衛生学		
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)				公衆衛生学		
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。				公衆衛生学		
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。				公衆衛生学		
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学		
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学		
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。				公衆衛生学		
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。				公衆衛生学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学		
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。				公衆衛生学		
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学		
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。				公衆衛生学		
3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学		
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)				公衆衛生学		
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。		微生物学	病原微生物学、特殊臨床検査学 (選択)	公衆衛生学、病態解析学V		
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。			病原微生物学	公衆衛生学、病態解析学V		
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			病原微生物学	公衆衛生学		
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			病原微生物学 (一部)	公衆衛生学		
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。			病原微生物学 (一部)	公衆衛生学 (一部)		
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。			病原微生物学	公衆衛生学		
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	健康科学			薬物療法学IV、公衆衛生学		
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	健康科学			薬物療法学IV、公衆衛生学		
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	健康科学			薬物療法学IV、公衆衛生学		
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。				公衆衛生学		
G12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			薬物代謝毒性学			
2) 第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝毒性学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝毒性学			
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			薬物代謝毒性学	医薬品安全性学 Ⅳ		
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			薬物代謝毒性学			
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			薬物代謝毒性学	医薬品安全性学 Ⅳ		
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			薬物代謝毒性学			
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			薬物代謝毒性学			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。			薬物代謝毒性学	医薬品安全性学 Ⅲ		
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			薬物代謝毒性学			
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			薬物代謝毒性学			
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			薬物代謝毒性学			
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。			薬物代謝毒性学			
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。			薬物代謝毒性学			
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)			薬物代謝毒性学			
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			医薬品安全性学I			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			医薬品安全性学I			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。		物理化学II	実験実習 (RI)			
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。		物理化学II	実験実習 (RI)			
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。		物理化学II				
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。		物理化学II				
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		物理化学II	実験実習 (RI)			
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。		物理化学II	実験実習 (RI)			
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。			環境衛生学			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			環境衛生学			
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			環境衛生学			
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			環境衛生学			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			環境衛生学			
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)			環境衛生学			
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			環境衛生学			
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			環境衛生学			
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。			環境衛生学			
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			環境衛生学			
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			環境衛生学			
2) 水の浄化法について説明できる。			環境衛生学			
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			環境衛生学			
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			実験実習V (衛生系)、環境衛生学			
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			環境衛生学			
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			環境衛生学			
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)			実験実習V (衛生系)、環境衛生学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			環境衛生学			
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			環境衛生学			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。			環境衛生学			
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			実験実習V (衛生系)、環境衛生学			
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			環境衛生学			
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			実験実習V (衛生系)、環境衛生学			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			環境衛生学			
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			環境衛生学			
4) シックハウス症候群について概説できる。			環境衛生学			
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			環境衛生学			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			環境衛生学			
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			環境衛生学			
4) マニフェスト制度について説明できる。			環境衛生学			
5) PRTR法について概説できる。			環境衛生学			
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			環境衛生学			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			環境衛生学			
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学			
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学			
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I	実験実習X (毒性系)、薬理学 III、医薬品安全性学 I			
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。	くすりと病気	薬理学 I	実験実習X (毒性系)、薬理学 III			
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	くすりと病気	薬理学 I	薬理学 III			
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III			
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学 I	実験実習 X (毒性系)、医薬品安全性学 I			
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学 I	実験実習 X (毒性系)、医薬品安全性学 I			
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I	薬理学 III			
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。	くすりと病気		実験実習 X (毒性系)			
2) 薬物の代表的な投与方法 (剤形、投与経路) を列挙し、その意義を説明できる。			薬物動態学 I			
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化 (崩壊、分散、溶解など) を説明できる。			薬物動態学 I			
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。			薬物動態学 I			
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I			
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。	くすりと病気	薬理学 I	薬物治療学 II、実験実習 X (毒性系)、医薬品安全性学 I	薬物療法学 IV、医薬品安全性学 III		
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。	くすりと病気	薬理学 I	実験実習 X (毒性系)、医薬品安全性学 I	医薬品安全性学 III		
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			実験実習 X (毒性系)	実験実習 VIII (薬理系)		
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			実験実習 X (毒性系)	実験実習 VIII (薬理系)		
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)			実験実習 X (毒性系)	実験実習 VIII (薬理系)		
(2) 薬の効き方 I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	医薬品安全性学 III		
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	医薬品安全性学 III		
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	医薬品安全性学 III		
4) 代表的な中枢神経疾患 (てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物療法学 II、薬理学 III	医薬品安全性学 III		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 代表的な精神疾患 (統合失調症、うつ病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅲ	医薬品安全性学 Ⅲ		
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。				実験実習Ⅷ (薬 理系)		
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学 Ⅲ		
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学 Ⅲ		
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学 Ⅲ		
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない。				実験実習Ⅷ (薬 理系)		
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学 Ⅲ		
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学 Ⅲ		
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)				実験実習Ⅷ (薬 理系)		
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ	医薬品安全性学 Ⅲ		
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅳ	医薬品安全性学 Ⅲ		
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅳ、医薬品化学、薬理学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の働き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学IV	薬物療法学IV、医薬品安全性学III		
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学IV	医薬品安全性学III		
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学IV	医薬品安全性学III		
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II	医薬品安全性学III		
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II	医薬品安全性学III		
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学II	医薬品安全性学III		
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II	医薬品安全性学III		
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学II	医薬品安全性学III		
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学IV	医薬品安全性学III		
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物療法学II	薬物療法学IV、薬理学V、医薬品安全性学III		
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物療法学II	薬物療法学IV、薬理学V、医薬品安全性学III		
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物療法学IV、薬理学V、医薬品安全性学III		
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学IV	薬物療法学IV、医薬品安全性学III		
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学IV	薬物療法学IV、医薬品安全性学III		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅳ	薬物療法学Ⅳ、 医薬品安全性学Ⅲ		
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅳ	薬物療法学Ⅳ、 医薬品安全性学Ⅲ		
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、医薬品 安全性学Ⅲ		
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、医薬品 安全性学Ⅲ		
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、医薬品 安全性学Ⅲ		
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学Ⅳ、医薬品化学、薬理学Ⅱ	薬理学Ⅴ		
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			薬物動態学Ⅰ			
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
4) 能動輸送の特徴を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
【分布】						
到達目標：			薬物動態学Ⅰ			
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。			薬物動態学Ⅰ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態学 I			
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、医薬品安全学Ⅰ	実験実習Ⅹ(薬剤系)		
8) 初回通過効果について説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)、薬物代謝毒性学			
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物動態学 I、 実験実習Ⅹ(毒性系)			
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物動態学 I			
2) 腎クリアランスについて説明できる。			薬物動態学 I			
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬物動態学 I			
4) 胆汁中排泄について説明できる。			薬物動態学 I、薬物代謝毒性学			
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。			薬物動態学 I、薬物代謝毒性学			
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			薬物動態学 I			
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。			薬物動態学 I			
【相互作用】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学Ⅰ、 実験実習Ⅰ(毒性系)、 医薬品安全性学Ⅰ			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学Ⅰ、 医薬品安全性学Ⅰ			
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学Ⅱ			
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物動態学Ⅱ			
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬物動態学Ⅱ			
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学Ⅱ			
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学Ⅱ			
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。			薬物療法学Ⅱ、 薬物動態学Ⅱ	薬物療法学Ⅳ、 実験実習Ⅳ(薬劑系)		
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。			薬物療法学Ⅱ、 薬物動態学Ⅱ	薬物療法学Ⅳ、 実験実習Ⅳ(薬劑系)		
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)			薬物動態学Ⅱ	実験実習Ⅲ(薬劑系)		
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			病態解析学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、薬物療法学Ⅱ	病態解析学Ⅴ、薬物療法学Ⅳ		
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅰ			
2) 代表的な腎臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅳ			
3) 代表的な呼吸機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			特殊臨床検査学、臨床検査学Ⅱ、病態解析学Ⅱ			
4) 代表的な心臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅰ、臨床検査学Ⅱ、特殊臨床検査学			
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅲ	薬物療法学Ⅳ		
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			臨床検査学Ⅱ、病態解析学Ⅳ	病態解析学Ⅴ、薬物療法学Ⅳ		
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。		臨床検査学Ⅰ	薬物療法学Ⅱ、病態解析学Ⅱ・Ⅳ	一部 病態解析学Ⅴ		
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列举し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅰ、Ⅲ、薬物療法学Ⅱ			
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学Ⅰ				
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列举し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			臨床検査学Ⅱ、病態解析学Ⅱ			
11) 代表的なバイタルサインを列举できる。		臨床検査学Ⅰ	病態解析学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	薬物療法学Ⅳ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。	くすりと病気		病態解析学Ⅰ、Ⅲ、薬物療法学Ⅱ	薬物療法学Ⅳ		特殊医療学Ⅰ
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)			薬物療法学Ⅱ			
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ	病態解析学Ⅴ		
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ			
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ			
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ			
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ、薬物療法学Ⅱ			
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			病態解析学Ⅰ、薬物療法学Ⅰ			
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅳ、薬理学Ⅴ		特殊医療学Ⅰ
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅳ、薬理学Ⅴ		特殊医療学Ⅰ
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅳ		
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅳ、薬理学Ⅴ		
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅳ		特殊医療学Ⅰ
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅰ	病態解析学Ⅴ		特殊医療学Ⅰ
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ		
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ			
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ			
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			病態解析学Ⅰ			特殊医療学Ⅰ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)					症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅲ		
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石				病態解析学Ⅴ、薬物療法学Ⅲ		
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物療法学Ⅰ、病態解析学Ⅱ			特殊医療学Ⅰ
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅰ、病態解析学Ⅱ			
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌			薬物療法学Ⅰ、病態解析学Ⅱ・Ⅳ	病態解析学Ⅴ		特殊医療学Ⅰ
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病			病態解析学Ⅳ	薬物療法学Ⅲ		
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	くすりと病気			病態解析学Ⅴ、 薬物療法学Ⅳ		特殊医療学Ⅰ
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				病態解析学Ⅴ、 薬物療法学Ⅳ		
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				病態解析学Ⅴ、 薬物療法学Ⅳ		
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ			
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ			
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅲ			
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅲ			
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅲ			特殊医療学Ⅱ
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆			病態解析学Ⅲ、 薬物療法学Ⅱ	病態解析学Ⅴ		
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。					症例解析Ⅰ～ Ⅳ、処方解析Ⅰ ～Ⅳ、処方実務 演習ⅠⅡ	
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅲ、 薬理学Ⅲ、薬物 療法学Ⅱ			
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬理学Ⅲ、薬物 療法学Ⅱ			特殊医療学Ⅱ
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ、 薬理学Ⅲ、薬物 療法学Ⅱ			特殊医療学Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症			病態解析学Ⅲ、 薬理学Ⅲ			
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物療法学Ⅰ、 病態解析学Ⅱ			特殊医療学Ⅱ
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅰ			
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎			薬物療法学Ⅰ、 病態解析学Ⅱ			特殊医療学Ⅱ
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、病態 解析学Ⅴ		
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ		
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				病態解析学Ⅴ		
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物療法学Ⅰ	薬理学Ⅴ		
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅰ、 病態解析学Ⅱ	薬理学Ⅴ		
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅰ、 病態解析学Ⅱ	薬理学Ⅴ		
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症			薬物療法学Ⅰ、 病態解析学Ⅱ			
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態解析学Ⅲ	薬物療法学Ⅳ		
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態解析学Ⅲ	薬物療法学Ⅳ		特殊医療学Ⅱ
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、病態 解析学Ⅴ		特殊医療学Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症			病態解析学Ⅲ	薬物療法学Ⅳ		特殊医療学Ⅱ
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、病態 解析学Ⅴ		
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 病態解析学Ⅴ		
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ、 薬理学Ⅴ、病態 解析学Ⅴ		特殊医療学Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物療法学Ⅳ		
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						特殊医療学Ⅰ
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬物療法学Ⅱ、 薬理学Ⅲ			
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。				病態解析学Ⅴ		
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)					症例解析Ⅰ～ Ⅳ、処方解析Ⅰ ～Ⅳ、処方実務 演習Ⅰ、Ⅱ	
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			病原微生物学	病態解析学Ⅴ		
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		微生物学				
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
7) ペリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物学		病態解析Ⅴ		
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。		微生物学				
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。		微生物学				
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。		免疫学				
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。		微生物学		病態解析学Ⅴ		
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。				病態解析学Ⅴ		
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学	病原微生物学			
【抗真菌薬】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			病原微生物学			
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			病原微生物学			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			病原微生物学			
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		微生物学				
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。		微生物学				
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			病態解析学Ⅰ、Ⅲ			特殊医療学Ⅱ
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。			病態解析学Ⅰ、Ⅲ、薬物療法学Ⅱ			
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。			病態解析学Ⅰ、Ⅲ、薬物療法学Ⅱ			
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。	くすりと病気		薬物療法学Ⅱ			
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。			薬物療法学Ⅱ			
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。			薬物療法学Ⅱ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。				医薬品情報総論		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。				医薬品情報総論		
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。				医薬品情報総論		
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。				医薬品情報総論		
5) 医薬品情報に関する代表的な法律と制度について概説できる。				医薬品情報総論		
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。	情報科学Ⅱ			医薬品情報総論		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。	情報科学Ⅱ			医薬品情報総論		
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報総論		
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。				医薬品情報総論		
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。				医薬品情報総論		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。				医薬品情報総論		
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）				医薬品情報総論		
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				医薬品情報総論		
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報総論		
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）				医薬品情報総論		
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）				医薬品情報総論		
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報総論		
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報総論		
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）	情報科学Ⅱ			医薬品情報総論		
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）	情報科学Ⅱ			医薬品情報総論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。				医薬品情報総論		
2) EBM実践のプロセスを概説できる。				医薬品情報総論		
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。				医薬品情報総論		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)				医薬品情報総論		
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。				医薬品情報総論		
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。				医薬品情報総論		
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。					症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、临床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)		薬学英語Ⅱ			症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。					症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。					症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				医療コミュニケーション論		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)				医療コミュニケーション論		
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)				医療コミュニケーション論		
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)				医療コミュニケーション論	症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ、Ⅱ	
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)				医療コミュニケーション論		
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)				医療コミュニケーション論		
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)				医療コミュニケーション論		
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医薬品安全性学I			
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医薬品安全性学I			
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医薬品安全性学I			
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I			
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I			
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品安全性学I		症例解析I～IV、処方解析I～IV、処方実務演習I、II	
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)			薬物動態学II	実験実習区(薬剤系)		
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態学II	実験実習区(薬剤系)		
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)			薬物動態学II	実験実習区(薬剤系)		
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				実験実習区(薬剤系)		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
[医薬品をつくる]						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)	実験実習Ⅹ (薬 剤系)		
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
4) 粉体の性質について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)	実験実習Ⅹ (薬 剤系)		
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
7) 粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			製剤工学概論 (旧：製剤学)			
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)				実験実習Ⅹ (薬 剤系)		
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。				製剤学 (現：製 剤工学概論)		
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学 (現：製 剤工学概論)		
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学 (現：製 剤工学概論)		
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学 (現：製 剤工学概論)		
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学 (現：製 剤工学概論)		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)				実験実習Ⅸ(薬剤系)		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)				実験実習Ⅸ(薬剤系)		
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる				製剤学(現:製剤工学概論)		
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				製剤学(現:製剤工学概論)		
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。	くすりと病気		医薬品開発 I			
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。	くすりと病気		医薬品開発 I			
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。	くすりと病気		医薬品開発 I			
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。	くすりと病気		医薬品開発 I			
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。	くすりと病気		医薬品開発 I			
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。			医薬品開発 I			
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品開発 I	薬効薬理試験評価概論、医薬品開発 II		
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品開発 I	医薬品開発 II		
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。			医薬品開発 I	医薬品開発 II		
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。			医薬品開発 I	医薬品開発 II		
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。			医薬品開発 I			
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				医薬品開発 II		
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬品開発 II		
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				医薬品開発 II		
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品開発 I	医薬品開発 II		
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			医薬品開発 I			
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			医薬品開発 I、医薬品安全性学 I			
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。			医薬品開発 I	創薬化学 II		
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				創薬化学 II		
2) 医薬品と標的の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				創薬化学 II		
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。				創薬化学 II		
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				創薬化学 II		
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				創薬化学 II		
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				創薬化学 II		
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				創薬化学 II		
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。				創薬化学 II		
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				創薬化学 II		
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			遺伝子工学、医薬品安全性学 I			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			遺伝子工学、医薬品安全性学 I			
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			遺伝子工学、医薬品安全性学 I			
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			遺伝子工学			
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)	くすりと病気					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			遺伝子工学	ゲノム創薬 (選択)		
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。			遺伝子工学	ゲノム創薬 (選択)		
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。			遺伝子工学	ゲノム創薬 (選択)		
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			遺伝子工学	ゲノム創薬 (選択)		
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。			遺伝子工学			
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。			遺伝子工学	薬物療法学Ⅳ		
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。				医薬品開発Ⅱ		
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
3) 治験 (第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相) の内容を説明できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)				医薬品開発Ⅱ		
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。			医薬品開発Ⅰ	医薬品開発Ⅱ		
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。			医薬品開発Ⅰ			
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)				医薬品開発Ⅱ		
(5) バイオスタティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。	統計学			医療統計学		
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。	統計学			医療統計学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)	統計学			医療統計学		
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)	統計学			医療統計学		
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)	統計学			医療統計学		
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。				医療統計学		
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。				医療統計学		
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。				医薬品開発 II		
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。				医療統計学		
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。				医療統計学		
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)				医療統計学		
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。				医療統計学		
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)						医療倫理と患者心理
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						医療倫理と患者心理
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬事関連法規 I		
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				医薬品開発 II、薬事関連法規 I		
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				薬事関連法規 I		
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。				薬事関連法規 I		
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。				薬事関連法規 I		
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。			医薬品開発 I	医薬品開発 II、薬事関連法規 I		
7) 製造物責任法を概説できる。				医薬品開発 II、薬事関連法規 I		
【管理薬】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関連法規 I、医薬品安全 性学IV		
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関連法規 I、医薬品安全 性学IV		
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。				薬事関連法規 I、医薬品安全 性学IV		
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。				薬事関連法規 I、医薬品安全 性学IV		
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。				医薬品安全性学 IV		
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。				医薬品安全性学 IV		
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				薬事関連法規II		
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				薬事関連法規II		
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				薬事関連法規II		
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				薬事関連法規II		
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				薬事関連法規II		
2) 医療保険のしくみを説明できる。				薬事関連法規II		
3) 医療保険の種類を列挙できる。				薬事関連法規II		
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。				薬事関連法規II		
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。			医薬品開発I	薬事関連法規II		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。				薬事関連法規II		
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				薬事関連法規II		
4) 医療費の内訳を概説できる。				薬事関連法規II		
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				薬事関連法規II		
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）				薬事関連法規II		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				地域医療 I		
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				地域医療 I		
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。				地域医療 I		
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。				地域医療 I		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				地域医療 I		
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。				地域医療 I		
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				地域医療 I		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				地域医療 I		
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				地域医療 I		
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。				地域医療 I		
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				地域医療 II		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				地域医療 II		
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。		生薬学 I		地域医療 II、漢方医学		

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学	医療業務概論	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	調剤学	医療業務概論	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		医療業務概論	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		医療業務概論	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		医療業務概論	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		医療業務概論	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		医療業務概論	

(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅰ、実務実習講義Ⅱ	
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	調剤学	医療業務概論	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	

(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
2. 代表的な配合変化の組み合わせとその理由を説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	処方解析Ⅰ～Ⅳ
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
9. 疑義照会の流れを説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ	
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		実務模擬実習、実務実習講義Ⅱ	
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ、医薬品安全性学Ⅳ	
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
8. 生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ	
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		実務演習Ⅰ、実務模擬実習	
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ、医薬品安全性学Ⅳ	
11. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ、医薬品安全性学Ⅳ	

《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		実験実習Ⅸ
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		実務実習講義Ⅱ、実務模擬実習
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		実務模擬実習
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		実務模擬実習
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。	調剤学	実務実習講義Ⅱ
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		実務模擬実習
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ、実務模擬実習
(5) リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	調剤学	実務演習Ⅰ
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	調剤学	実務演習Ⅰ
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		実務演習Ⅰ
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務演習Ⅱ
《リスクマネジメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		実務演習Ⅱ
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		実務演習Ⅱ
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		実務演習Ⅱ

(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		医療コミュニケーション論	
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を挙げる。	調剤学		
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を挙げる。		薬物療法学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		医療コミュニケーション論	
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		医療コミュニケーション論	
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		医療コミュニケーション論	
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を挙げる。		医療コミュニケーション論	
《患者情報の重要性に注目する》			
8. 服薬指導に必要な患者情報を挙げる。	調剤学	医療コミュニケーション論	
9. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能)		医療コミュニケーション論、実務模擬実習	
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	調剤学	医療コミュニケーション論	
《服薬指導入門》			
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)		実務模擬実習	
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)		医療コミュニケーション論、実務模擬	
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)		医療コミュニケーション論、実務模擬	
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)		実務模擬実習	
(7) 事前学習のまとめ			

1年		2年		3年		4年		5年	6年	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前・後期	前・後期	
<ul style="list-style-type: none"> 哲学 社会の仕組みⅠ 薬学基礎数学 ★情報科学Ⅰ 薬学基礎生物学 薬学基礎物理学Ⅰ くずりと病気 現代の社会Ⅰ 一般化学 ★一般化学演習 ★生物学演習/物理学演習Ⅰ ★体育Ⅰ 英語 ★ドイツ語 ★フランス語 こころの科学Ⅰ 英会話Ⅰ 文章の表現Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 論理学 現代の社会Ⅱ 社会の仕組みⅡ 情報科学Ⅱ 統計学 薬学基礎物理学Ⅱ ★統計学演習/物理学演習Ⅱ ★体育Ⅱ 英語 ★ドイツ語 ★フランス語 こころの科学Ⅱ 英会話Ⅱ 文章の表現Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 論理学 総合文化研究Ⅰ 社会の仕組みⅢ 科学史 薬学英語Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 総合文化研究Ⅱ 薬学英語Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> 薬事関係法規Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 薬事関係法規Ⅱ 		<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理と患者心理 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師 国家試験
<p>医療人としての自覚</p>										
<p>薬剤師としてのコミュニケーション能力</p>										
<p>薬剤師として必要な健康・福祉への貢献力</p>										
<p>薬剤師として必要な薬物療法能力</p>										
<p>薬剤師として必要な基礎科学力</p>										
<p>薬剤師として必要な自己研鑽能力</p>										

平成24年度以後入学生

1年		2年		3年		4年		5年	6年	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前・後期	前・後期		
<ul style="list-style-type: none"> 哲学 社会の仕組み I 薬学基礎数学 ★情報科学 I 薬学基礎生物学 薬学基礎物理学 I くすりと病気 現代の社会 I 一般化学 ★一般化学演習 ★生物学演習/物理学演習 I ★健康スポーツ(実技) 英語 ★ドイツ語 ★フランス語 	<ul style="list-style-type: none"> 論理学 現代の社会 II 社会の仕組み II 情報科学 II 統計学 薬学基礎物理学 II 基礎実習 I, II 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理学 総合文化研究 I 科学史 	<ul style="list-style-type: none"> 総合文化研究 II 							<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師 国家試験 	
<ul style="list-style-type: none"> ★健康科学(講義) ★統計学演習/物理学演習 II 英語 ★ドイツ語 ★フランス語 	<ul style="list-style-type: none"> ★統計学演習/物理学演習 II 英語 ★ドイツ語 ★フランス語 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語 I 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語 II 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語 III 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学英語 IV 	<ul style="list-style-type: none"> 薬事関係法規 I 	<ul style="list-style-type: none"> 薬事関係法規 II 		<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理と患者心理 		<ul style="list-style-type: none"> 医療人としての自覚
<ul style="list-style-type: none"> このころの科学 I 英会話 I 文章の表現 I 	<ul style="list-style-type: none"> このころの科学 II 英会話 II 文章の表現 II 					<ul style="list-style-type: none"> 医療ITとコミュニケーション論 				<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師としてのコミュニケーション能力 	
	<ul style="list-style-type: none"> ★健康科学(講義) 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会 III 	<ul style="list-style-type: none"> 食品衛生学 微生物学 	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生学 薬物代謝毒性学 病原微生物学 衛生学実習 	<ul style="list-style-type: none"> 微生物系実習 			<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生学 医療統計学 	<ul style="list-style-type: none"> ★医療経済論 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師として必要な健康・福祉への貢献力 	
		<ul style="list-style-type: none"> 免疫学 		<ul style="list-style-type: none"> 薬理学 I 臨床検査学 I 病理学 II 	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学 II 臨床検査学 II 病態解析学 I 病態解析学 II 安全・病理系実習 	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学 III 薬理学 IV 病態解析学 III 病態解析学 IV 薬物療法学 I 薬物療法学 II 薬物動態学 I 薬物動態学 II 毒性系実習 	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学 V 薬理系実習 病態解析学 V 薬物療法学 III 薬物療法学 IV 		<ul style="list-style-type: none"> 症例解析 I 症例解析 II 症例解析 III 症例解析 IV 処方解析 I 処方解析 II 	<ul style="list-style-type: none"> 特殊医療学 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師として必要な薬物療法能力
<ul style="list-style-type: none"> 薬学早期体験学習 		<ul style="list-style-type: none"> 病理学 I 		<ul style="list-style-type: none"> 調剤学 	<ul style="list-style-type: none"> ★特殊臨床検査学 		<ul style="list-style-type: none"> 実務演習 I 実務演習 II 医療業務概論 実務実習講義 I 実務実習講義 II 実務模擬実習 	<ul style="list-style-type: none"> 処方解析 III 処方解析 IV 処方実務演習 I 処方実務演習 II 実務実習 I (病院) 実務実習 II (薬局) 			
<ul style="list-style-type: none"> ヒトのからだ 	<ul style="list-style-type: none"> 人体生化学 I 人体生化学 II 物理化学 I 	<ul style="list-style-type: none"> 生薬学 I 人体生化学 I 生化学系実習 人体生化学 III 物理化学 II 物理化学 III 	<ul style="list-style-type: none"> 生薬学 II 人体生化学 IV 人体生理学 II 人体生理学 III 物理化学 IV 	<ul style="list-style-type: none"> 天然物化学 人体生化学 V ★遺伝子工学 	<ul style="list-style-type: none"> ★生体分子化学 	<ul style="list-style-type: none"> 製剤工学概論 医薬品開発 I 	<ul style="list-style-type: none"> 漢方医学概論 製剤学 医薬品開発 II 	<ul style="list-style-type: none"> ★ゲノム創薬 ★薬効薬理試験評価概論 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師として必要な基礎科学力 	
	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 I 無期・有機化学演習 無機化学 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 II 有機化学演習 有機化学系実習 分析化学 I 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 III 機器分析学 I 機器分析学 II 物理化学・分析系実習 分析化学 II 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 IV 医薬品化学 分子構造解析学 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全性学 I FD実習 創薬化学 I 臨床分析化学 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全性学 II 医薬品安全性学 III 創薬化学 II 	<ul style="list-style-type: none"> ★医薬品合成化学 				
						<ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全性学 I 創薬化学 I 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全性学 II 創薬化学 II 			<ul style="list-style-type: none"> 臨床薬理業務演習 I~III 医療管理業務演習 I, II 社会薬学演習 I, II 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師として必要な自己研鑽能力
						<ul style="list-style-type: none"> 薬学統合講義 I 薬学統合講義 II 薬学統合講義 III 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学統合講義 IV 薬学統合講義 V 薬学統合講義 VI 	<ul style="list-style-type: none"> 薬学統合講義 VII 薬学統合講義 VIII 	<ul style="list-style-type: none"> 調剤業務演習 薬事関連法規演習 		

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語	1	○	○	○	
英会話Ⅰ	1	○	○	○	○
英会話Ⅱ	1	○	○	○	○
ドイツ語	1	○	○	○	○
フランス語	1	○		○	○
薬学英語Ⅰ	2	○	○	○	
薬学英語Ⅱ	2	○	○		
薬学英語Ⅲ	3	○	○		
薬学英語Ⅳ	3	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

平成26年4月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限
	月	14日		S101, 102講義 (調剤学 : 5, 6組)	S101, 102講義 (調剤学 : 3, 4組)	S101, 102講義 (調剤学 : 1, 2組)
	水	23日		S201, 202, 203講義 (調剤学 : 5, 6組)	S201, 202, 203講義 (調剤学 : 3, 4組)	S201, 202, 203講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	28日		S301, 302, 303, 305講義 (調剤学 : 5, 6組)	S301, 302, 303, 305講義 (調剤学 : 3, 4組)	S301, 302, 303, 305講義 (調剤学 : 1, 2組)
平成26年5月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	午後 (実習)
	月	12日		S204, 205, 206講義 (調剤学 : 5, 6組)	S204, 205, 206講義 (調剤学 : 3, 4組)	S204, 205, 206講義 (調剤学 : 1, 2組)
	水	21日		S204, 205, 206講義 (調剤学 : 5, 6組)	S204, 205, 206講義 (調剤学 : 3, 4組)	S204, 205, 206講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	26日		S207, 208, 209講義 (調剤学 : 5, 6組)	S207, 208, 209講義 (調剤学 : 3, 4組)	S207, 208, 209講義 (調剤学 : 1, 2組)
平成26年6月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	午後 (実習)
	月	2日		S408, 409, 412, 413講義 (調剤学 : 5, 6組)	S408, 409, 412, 413講義 (調剤学 : 3, 4組)	S408, 409, 412, 413講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	9日		S201, 203講義 (調剤学 : 5, 6組)	S201, 203講義 (調剤学 : 3, 4組)	S201, 203講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	16日		S401, 402講義 (調剤学 : 5, 6組)	S401, 402講義 (調剤学 : 3, 4組)	S401, 402講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	23日		S403, 404, 405, 407, 414講義 (調剤学 : 5, 6組)	S403, 404, 405, 407, 414講義 (調剤学 : 3, 4組)	S403, 404, 405, 407, 414講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	30日		S501, 502講義 (調剤学 : 5, 6組)	S501, 502講義 (調剤学 : 3, 4組)	S501, 502講義 (調剤学 : 1, 2組)
平成26年7月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	午後 (実習)
	月	7日		S602講義 (調剤学 : 5, 6組)	S602講義 (調剤学 : 3, 4組)	S602講義 (調剤学 : 1, 2組)
	月	14日		S605講義 (調剤学 : 5, 6組)	S605講義 (調剤学 : 3, 4組)	S605講義 (調剤学 : 1, 2組)
	水	16日		S605講義 (調剤学 : 5, 6組)	S605講義 (調剤学 : 3, 4組)	S605講義 (調剤学 : 1, 2組)

平成26年4月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	
	金	11日		S601, S603講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S601, S603講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	18日		S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	25日		S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
平成26年5月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	
	金	2日		S603, S605講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S605講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	9日		S603, S604講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S604講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	16日		S603, S604, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S604, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	23日		S603, S605講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S605講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	30日		S605講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S605講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
平成26年6月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	
	金	6日		S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	13日		S604, S605講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S604, S605講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	20日		S603, S604講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S603, S604講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	27日		S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
平成26年7月						
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	
	金	4日		S601, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S601, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	
	金	11日		S601, S606講義 (医療コミュニケーション論：4～6組)	S601, S606講義 (医療コミュニケーション論：1～3組)	

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年9月										
(週)	(曜日)	(日)	1時限		2時限		3時限		4時限	
			1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組
	土	13日			S401講義(実務演習 I)	S201講義(実務実習講義 I)	S501講義(実務演習 II)	S401講義(実務演習 I)	S201講義(実務実習講義 I)	S501講義(実務演習 II)
	火	16日			S101講義(医療業務概論)			S101講義(医療業務概論)		
	水	17日		講義・演習(実務実習講義 II)			講義・演習(実務実習講義 II)			
第4週	月	22日			S402講義(実務演習 I)	S202・S203講義・演習(実務実習講義)	S501講義(実務演習 II)	S402講義(実務演習 I)	S202・S203講義・演習(実務実習講義)	S501講義(実務演習 II)
	水	24日		S210講義(実務実習講義 II)			S210講義(実務実習講義 II)			
第5週	月	29日			S403講義(実務演習 I)	S203・S204講義(実務実習講義 I)	S502講義(実務演習 II)	S403講義(実務演習 I)	S203・S204講義(実務実習講義 I)	S502講義(実務演習 II)
	火	30日		S210講義(実務実習講義 II)	S102講義(医療業務概論)		S210講義(実務実習講義 II)	S102講義(医療業務概論)		
平成26年10月										
(週)	(曜日)	(日)	1時限		2時限		3時限		4時限	
			1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組
第2週	月	6日				S205講義(実務実習講義 I)			S205講義(実務実習講義 I)	
	火	7日			S103講義・演習(医療業務概論)			S103講義・演習(医療業務概論)		
	水	8日		S301講義(実務実習講義 II)			S301講義(実務実習講義 II)			
	土	18日		S403・S406講義(実務演習 I)	S205講義(実務実習講義 I)		S506講義(実務演習 II)	S403・S406講義(実務演習 I)	S205講義(実務実習講義 I)	S506講義(実務演習 II)
第4週	月	20日		S404講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)		S506講義(実務演習 II)	S404講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)	S506講義(実務演習 II)
	火	21日			S102講義(医療業務概論)			S102講義(医療業務概論)		
	水	22日		S302講義(実務実習講義 II)			S302講義(実務実習講義 II)			
第5週	月	27日		S404講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)		S506講義(実務演習 II)	S404講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)	S506講義(実務演習 II)
	火	28日			S104講義(医療業務概論)			S104講義(医療業務概論)		
	水	29日		S303講義(実務実習講義 II)			S303講義(実務実習講義 II)			
平成26年11月										
(週)	(曜日)	(日)	1時限		2時限		3時限		4時限	
			1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組
	土	1日			S405講義(実務演習 I)		S507講義(実務演習 II)	S405講義(実務演習 I)		S507講義(実務演習 II)
	火	4日			講義(医療業務概論)			講義(医療業務概論)		
	水	5日		S305講義(実務実習講義 II)			S305講義(実務実習講義 II)			
第3週	月	10日		S405講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)		S504講義(実務演習 II)	S405講義(実務演習 I)	S206講義・演習(実務実習講義 I)	S504講義(実務演習 II)
	火	11日			S104・S105講義(医療業務概論)			S104・S105講義(医療業務概論)		
	水	12日		S305講義(実務実習講義 II)			S305講義(実務実習講義 II)			
第4週	月	17日		S407講義(実務演習 I)	S207講義・演習(実務実習講義 I)		S504講義(実務演習 II)	S407講義(実務演習 I)	S207講義・演習(実務実習講義 I)	S504講義(実務演習 II)
	火	18日			S104・S105講義(医療業務概論)			S104・S105講義(医療業務概論)		
	水	19日		S305講義(実務実習講義 II)			S305講義(実務実習講義 II)			
第5週	月	24日		S414講義(実務演習 I)	S207講義・演習(実務実習講義 I)		S504講義(実務演習 II)	S414講義(実務演習 I)	S207講義・演習(実務実習講義 I)	S504講義(実務演習 II)
	火	25日			S105講義(医療業務概論)			S105講義(医療業務概論)		
	水	26日		S408講義(実務実習講義 II)			S408講義(実務実習講義 II)			

平成26年12月										
(週)	(曜日)	(日)	1時限		2時限		3時限		4時限	
			1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組
第1週	月	1日			S414講義(実務演習I)	S414講義(実務演習I)	S504講義(実務演習II)	S414講義(実務演習I)	S208講義・演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)
	火	2日			S105講義(医療業務概論)			S105講義(医療業務概論)		
	水	3日		S411講義(実務実習講義II)			S411講義(実務実習講義II)			
	金	5日		S412講義(実務実習講義II)	S412講義(実務実習講義II)					
	月	8日			S501講義(実務演習I)	S208講義・演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)	S501講義(実務演習I)	S208講義・演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)
第2週	火	9日			S107講義(医療業務概論)			S107講義(医療業務概論)		
	水	10日		S413講義(実務実習講義II)			S413講義(実務実習講義II)			
	金	12日			S209講義(医療業務概論)			S209講義(医療業務概論)		
	月	15日			S502講義(実務演習I)	S203・S204演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)	S502講義(実務演習I)	S203・S204演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)
	火	16日			S106講義・演習(医療業務概論)			S106講義・演習(医療業務概論)		
第3週	月	22日		S413講義(実務実習講義II)			S413講義(実務実習講義II)			
平成27年1月										
(週)	(曜日)	(日)	1時限		2時限		3時限		4時限	
			1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組	1~3組	4~6組
	火	13日			講義(医療業務概論:1~3)			講義(医療業務概論)		
	水	14日			S503講義(実務演習I)	S203・S204演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)	S503講義(実務演習I)	S203・S204演習(実務実習講義I)	S504講義(実務演習II)

平成26年度実務模擬実習日程

1～3組

回数	月日	A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2
1	9月16日	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3
2	9月17日	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4
3	9月18日	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1
4	9月19日	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2
5	9月24日	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1
6	9月25日	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2
7	9月26日	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3
8	9月30日	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4
9	10月1日	無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1	
10	10月2日	無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2	
11	10月3日	無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3	
12	10月7日	無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4	
13	10月8日	コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1	
14	10月9日	コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2	
15	10月15日	コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3	
16	10月16日	コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4	

4～6組

回数	月日	A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2
1	10月21日	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3
2	10月22日	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4
3	10月23日	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1
4	10月24日	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2
5	10月28日	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1
6	10月29日	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2
7	10月30日	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3
8	10月31日	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4
9	11月4日	無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1		コミュニケーション-1	
10	11月5日	無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2		コミュニケーション-2	
11	11月6日	無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3		コミュニケーション-3	
12	11月7日	無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4		コミュニケーション-4	
13	11月11日	コミュニケーション-1		無菌調製-1	無菌調製-1	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅰ-1	
14	11月12日	コミュニケーション-2		無菌調製-2	無菌調製-2	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅰ-2	
15	11月13日	コミュニケーション-3		無菌調製-3	無菌調製-3	調剤Ⅱ-3	調剤Ⅱ-1	調剤Ⅰ-3	
16	11月14日	コミュニケーション-4		無菌調製-4	無菌調製-4	調剤Ⅱ-4	調剤Ⅱ-2	調剤Ⅰ-4	

項目	調剤Ⅰ				調剤Ⅱ				無菌調整				コミュニケーション			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
LS	S210	S210	S210	S210	S210	S210, S302	S406	S701	S411	S411	S411	S411	S606	S606	S606	S306, S606

(基礎資料7) 学生受入状況について

学部	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(20年度実施)	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	641	609	528	464	677	800		107.9%
			合格者数	319	272	307	264	249	244		
			入学者数(A)	205	172	189	177	160	160		
			募集定員数(B)	170	155	155	155	152	152		
		A/B*100(%)	120.6%	111.0%	121.9%	114.2%	105.3%	105.3%			
		大学入試センター入試	受験者数	316	342	335	329	443	537		
			合格者数	102	110	125	142	163	166		
			入学者数(A)	5	8	13	22	31	26		
			募集定員数(B)	25	20	20	20	23	23		
		A/B*100(%)	20.0%	40.0%	65.0%	110.0%	134.8%	113.0%			
		指定校推薦	受験者数	48	49	39	48	48	53		
			合格者数	48	49	39	48	48	53		
			入学者数(A)	48	49	39	48	48	53		
			募集定員数(B)	55	50	50	50	50	50		
		A/B*100(%)	87.3%	98.0%	78.0%	96.0%	96.0%	106.0%			
		公募推薦入試	受験者数	134	137	116	143	165	166		
			合格者数	90	85	85	87	87	79		
			入学者数(A)	90	85	85	87	87	79		
			募集定員数(B)	80	75	75	75	75	75		
		A/B*100(%)	112.5%	113.3%	113.3%	116.0%	116.0%	105.3%			
	受験者数										
	合格者数										
	入学者数(A)										
	募集定員数(B)										
A/B*100(%)											
学科計	受験者数	1139	1137	1018	984	1333	1556				
	合格者数	559	516	556	541	547	542				
	入学者数(A)	348	314	326	334	326	318				
	募集定員数(B)	330	300	300	300	300	300				
	A/B*100(%)	105.5%	104.7%	108.7%	111.3%	108.7%	106.0%				

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬科学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	37名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	7名

* 1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	講師	助教	助手	備考
教養教育	5	1		1		
語学教育	2	1	1			
薬学基礎教育	25(3)	16(2)	15(3)	18(3)	12	・()内は、実務家教員数
専門薬学教育						
実務実習教育						
小計	32(3)	18(2)	16(3)	19(3)	12	
専任教員数	85(11)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	2	9	38(5)	5(2)	・()内は、臨時職員数 ・その他の職種は、医療職員3名、用務職員2名
法人業務関連						
小計	1	2	9	38(5)	5(2)	
事務職員数	50(5)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2) = 6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1) = 3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	17	14	1	0	0	32
	0%	46%	44%	2%	0%	0%	100%
准教授	0	1	6(1)	11	0	0	18(1)
	0%	5%	33%	61%	0%	0%	100%
専任講師	0	2	1	7(4)	6(1)	0	16(5)
	0%	13%	6%	44%	38%	0%	100%
助教	0	0	0	3(3)	16(2)	0	19(5)
	0%	0%	0%	16%	84%	0%	100%
合計	0	20	21(1)	22(7)	22(3)	0	85(11)
	0%	24%	25%	26%	26%	0%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1)=2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科		学長	高柳元明	男				くすりとは病気	0.3						0.3		0.2	東北大学医学部医学科卒業 医学博士
								医療倫理と患者心理(生命含)	0.1						0.1			
									0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0			
薬学科	放射薬品学	教授	大久保恭仁	男				医薬品安全性学Ⅳ	2.3						2.3		5.1	東北薬科大学薬学研究科博士課程 修了 薬学博士
								薬物管理概論(生命)		1.2					1.2			
								処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
								※演習科目(15科目)		0.3				0.3				
								基礎実習Ⅱ					0.6	0.6				
								実験実習(RⅠ)(0.5)					2.3	2.3				
								RⅠ実習					2.3	2.3				
									3.5	1.5	0.0	0.0	0.0	5.2	3.5	6.7		
薬学科	薬物治療学	教授	石川正明	男				薬物療法学Ⅳ	2.3					2.3		12.2	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業 薬学博士	
								疾病と治療Ⅰ	1.2					1.2				
								くすりとは病気	0.3					0.3				
								薬物療法学Ⅱ		3.5				3.5				
								疾病と治療Ⅱ(生命)		1.2				1.2				
								薬学統合講義Ⅷ		0.3				0.3				
								処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2				1.2				
								※演習科目(15科目)		0.3				0.3				
								実験実習Ⅸ(薬剤系)					4.7	4.7				
								実務模擬実習					9.3	9.3				
	3.8	6.5	0.0	0.0	4.7	9.3	8.5	15.8										

薬学科	創薬化学	教授	遠藤泰之	男			創薬化学Ⅱ	2.3						2.3		東京大学薬学研究科博士課程中退薬学博士
							くすりと病気	0.3					0.3			
							創薬化学Ⅰ		3.5					3.5		
							医薬品分子設計学		1.2					1.2		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2					1.2		
							実験実習Ⅰ（有機化学系）				4.7			4.7		
							有機化学系実習				2.3			2.3		
							基礎実習Ⅱ						0.6	0.6		
							基礎化学実習						1.2	1.2		
						2.6	5.9	0.0	0.0	7.0	1.8	9.6	7.7	8.7		
薬学科	医薬情報科学	教授	佐藤憲一	男			情報科学Ⅰ	3.5						3.5		東北大学理学研究科博士課程修了理学博士
							情報科学Ⅲ（生命）	1.2						1.2		
							情報科学Ⅰ（生命）	1.2						1.2		
							情報科学Ⅱ		3.5					3.5		
							情報科学Ⅱ（生命）		1.2					1.2		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2						1.2		
							基礎実習Ⅱ						0.6	0.6		
						7.1	4.7	0.0	0.0	0.0	0.6	7.1	5.3	6.2		
薬学科	病態生理学	教授	大野勲	男			くすりと病気	0.5						0.5		東北大学医学部医学科卒業医学博士
							病態解析学Ⅱ	3.5						3.5		
							病態解析学Ⅴ	0.8						0.8		
							病態解析学Ⅳ		3.5					3.5		
							特殊臨床検査学		0.8					0.8		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2					1.2		
							※演習科目（15科目）		0.3					0.3		
							実験実習Ⅵ（安全・病理系）				4.7			4.7		
							基礎実習Ⅰ						0.6	0.6		
						4.8	5.8	0.0	0.0	4.7	0.6	9.5	6.4	8.0		
薬学科	医薬合成化学	教授	加藤正	男			くすりと病気	0.3						0.3		星薬科大学薬学研究科博士課程修了薬学博士
							有機化学Ⅳ	3.5						3.5		
							有機化学Ⅲ		3.5					3.5		
							合成戦略論（生命）		1.2					1.2		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2						1.2		
							実験実習Ⅹ（薬品合成系）				2.3			2.3		
							基礎実習Ⅱ						0.6	0.6		
							基礎化学実習						1.2	1.2		
							薬品合成・天然物系実習						1.2	1.2		
						5.0	4.7	0.0	0.0	2.3	3.0	7.3	7.7	7.5		

薬学科	物理学	教授	原田 邦	男			薬学基礎物理学Ⅰ	3.5						3.5		5.9	東北大学理学研究科博士課程修了理学博士
							物理学演習Ⅰ	1.8					1.8				
							薬学基礎物理学Ⅱ	3.5					3.5				
							物理学演習Ⅱ	1.8					1.8				
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
	5.3	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	6.5									
薬学科	哲学	教授	渡辺 義嗣	男			哲学（生命含）	3.5						3.5		6.0	大阪大学文学研究科修士課程修了文学修士
							倫理学（生命含）	3.5					3.5				
							論理学（生命含）	3.5					3.5				
							薬学統合講義Ⅷ	0.3					0.3				
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
	7.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	5.0									
薬学科	数学	教授	棚橋 浩太郎	男			薬学基礎数学	3.5						3.5		6.5	東北大学理学研究科修士課程修了博（理）
							数学Ⅰ（生命）	1.2					1.2				
							統計学	3.5					3.5				
							統計学演習	1.8					1.8				
							数学演習（生命）	0.6					0.6				
							数学Ⅱ（生命）	1.2					1.2				
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
	4.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	8.3									
生命薬科学科	天然物化学	教授	浪越 通夫	男			天然物化学	3.5						3.5		6.8	東京大学薬学研究科博士課程修了薬学博士
							薬品資源学（生命）	1.2					1.2				
							生薬学Ⅱ（生命）	1.2					1.2				
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
							基礎実習Ⅱ					0.6		0.6			
							実験実習Ⅳ（生薬系）					4.7		4.7			
							薬品合成・天然物系実習					1.2		1.2			
	5.9	1.2				6.5	5.9	7.7									
薬学科	機能病態分子学	教授	井ノ口 仁一	男			人体生化学Ⅴ	3.5						3.5		7.1	福岡大学薬学研究科修士課程修了薬学博士
							くすりと病気	0.3					0.3				
							薬科学概論（生命）	1.2					1.2				
							最新生命科学概論（生命）		0.4					0.4			
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2				
							分子生物学系実習					2.3		2.3			
							基礎実習Ⅰ					0.6		0.6			
							実験実習Ⅹ（毒性系）					4.7		4.7			
	6.2	0.4			2.3	5.3	8.5	5.7									

薬学科	環境衛生学	教授	永田 清	男			薬物代謝毒性学	3.5					3.5		九州大学薬学 研究科博士課程修了 薬学博士
							くすりと病気	0.3				0.3			
							医薬品安全性学 I		3.5				3.5		
							処方解析 I～IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I～IV	1.2				1.2			
							※演習科目 (15科目)		0.6				0.6		
							実験実習 V (衛生系)			4.7		4.7			
							衛生系実習			2.3		2.3			
							基礎実習 I				0.6		0.6		
							実験実習 X (毒性系)			4.7		4.7			
			5.0	4.1		7.0	5.3	12.0	9.4	10.7					
生命薬科学科	生体膜情報学	教授	東 秀好	男			施設見学体験学習 (生命)	1.3					1.3		北海道大学 獣医学研究科 修士課程修了 獣医学博士
							人体生化学 II		3.5				3.5		
							細胞情報学 (生命)		0.3				0.3		
							最新生命科学概論 (生命)		0.3				0.3		
							処方解析 I～IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I～IV		1.2				1.2		
							実験実習 VI (安全・病理系)			4.7		4.7			
							分子生物学系実習			2.3		2.3			
							基礎実習 I				0.6		0.6		
	1.3	5.3		7.0	0.6	8.3	5.9	7.1							
生命薬科学科	細胞制御学	教授	願 建国	男			くすりと病気	0.3					0.3		大阪大学医 学研究科博士 課程修了 博 (医)
							薬学英语 IV		1.8				1.8		
							細胞情報学 (生命)		0.3				0.3		
							最新生命科学概論 (生命)		0.4				0.4		
							処方解析 I～IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I～IV	1.2				1.2			
							実験実習 VI (安全・病理系)			4.7		4.7			
							分子生物学系実習			2.3		2.3			
							基礎実習 I				0.6		0.6		
	1.5	2.5		7.0	0.6	8.5	3.1	5.8							
薬学科	薬剤学	教授 (実務家)	鈴木 常義	男			くすりと病気	0.3					0.3		東北薬科大 学薬学部衛 生薬学科卒 業 薬学士
							調剤学	3.5					3.5		
							医療倫理と患者心理 (生命含)	0.1					0.1		
							実務演習 II		2.3				2.3		
							処方解析 I～IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I～IV	1.2	1.2			1.2	1.2		
							※演習科目 (15科目)		0.4				0.4		
							実験実習 IX (薬剤系)			4.7		4.7			
							実務模擬実習				9.3		9.3		
	5.1	3.9	0.0	0.0	4.7	9.3	9.8	13.2	11.5						

薬学科	実験動物センター	教授	安藤 隆一郎	男			薬学基礎生物学	3.5						3.5						東北薬科大学薬学研究科博士課程修了 薬学博士
							生物学演習	1.0					1.0							
							生物学	1.2					1.2							
							生物学演習（生命）	0.6					0.6							
							非臨床試験概論（生命）		1.2					1.2						
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2							
							基礎実習Ⅰ					0.6		0.6						
							基礎生物学実習					14.0		14.0						
								7.5	1.2			0.0	14.6	7.5	15.8	11.6				
薬学科	臨床薬剤学	教授 (実務家)	中村 仁	男			くすりと病気	0.3						0.3						東北大学薬学研究科修士課程修了 博（薬）
							医薬品情報総論	2.3					2.3							
							薬物療法学Ⅰ		3.5					3.5						
							薬学統合講義Ⅵ		0.3					0.3						
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2	1.2				1.2	1.2						
							※演習科目（15科目）		0.4					0.4						
							実験実習Ⅸ（薬剤系）				4.7		4.7							
							実務模擬実習					9.3		9.3						
								3.8	5.4	0.0	0.0	4.7	9.3	8.5	14.7	11.6				
薬学科	臨床分析化学	教授	山下 幸和	男			分析化学Ⅰ	3.5					3.5						東北大学薬学研究科修士課程修了 薬学博士	
							臨床分析化学		3.5					3.5						
							臨床分析化学（生命）		1.2					1.2						
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2					1.2							
							※演習科目（15科目）		0.1					0.1						
							基礎実習Ⅱ					0.6		0.6						
							基礎化学実習					1.2		1.2						
							実験実習Ⅱ					4.7		4.7						
							物理化学・分析系実習					1.2		1.2						
	4.7	4.8			0.0	7.7	4.7	12.5	8.6											

薬学科	独乙語学	教授	山下 剛	男			ドイツ語 (通年)	3.5	3.5						3.5	3.5	6.5	東北大学文学研究科修士課程修了 文学修士
							総合文化研究 I (生命含)	3.5					3.5					
							ドイツ語 II (生命)		1.2					1.2				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV		1.2					1.2				
								7.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	5.9			
薬学科	保健管理センター	教授	大河原 雄一	男			くすりと病気	0.3						0.3			8.1	東北大学医学研究科博士課程修了 博(医)
							病態解析学 I	3.5					3.5					
							病態解析学 V	0.5					0.5					
							病態解析学 III		3.5					3.5				
							特殊臨床検査学		1.2					1.2				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV		1.2					1.2				
							※演習科目 (15科目)		0.6					0.6				
							実験実習 VI (安全・病理系)				4.7			4.7				
							基礎実習 I					0.6		0.6				
								4.3	6.5			4.7	0.6	9.0	7.1			
薬学科	微生物学	教授	久下周佐	男			病原微生物学	3.5						3.5			6.5	東京大学薬学研究科博士課程修了 薬学博士
							微生物学 (生命)		1.2					1.2				
							特殊臨床検査学		0.5					0.5				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV		1.2					1.2				
							※演習科目 (15科目)		0.1					0.1				
							基礎実習 I					0.6		0.6				
							実験実習 VII (微生物系)				4.7			4.7				
							微生物学系実習					1.2		1.2				
	3.5	3.0	0.0	0.0	0.0	6.5	3.5	9.5										
生命薬科学科	感染生体防御学	教授	柴田 信之	男			栄養化学 (生命)	1.2						1.2			8.9	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了 薬学博士
							中毒学概論 (生命)	1.2						1.2				
							食品衛生学		3.5					3.5				
							薬学統合講義 VII		1.2					1.2				
							衛生化学 (生命)		1.2					1.2				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV		1.2					1.2				
							※演習科目 (15科目)		0.6					0.6				
							実験実習 V (衛生系)				4.7			4.7				
							衛生系実習				2.3			2.3				
							基礎実習 I					0.6		0.6				
	2.4	7.7	0.0	0.0	7.0	0.6	9.4	8.3										
薬学科	薬理学	教授	丹野 孝一	男			薬理学 I (生命)	1.2						1.2			9.1	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了 博(薬)
							薬理学 II	3.5						3.5				
							薬理学 I		3.5					3.5				
							薬理学 II (生命)		1.2					1.2				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV		1.2					1.2				
							実験実習 VIII (薬理系)				4.7			4.7				
							薬理学系実習				2.3			2.3				
							基礎実習 I					0.6		0.6				
								4.7	5.9			7.0	0.6	11.7	6.5			
	分子構造解析学	3.5						3.5										
	分子構造解析学 (生命)	1.2						1.2										

薬学科	薬学教育センター	教授	町田浩一	男			機器分析学 I	3.5						3.5	8.8	東北薬科大学薬学研究科博士課程修了薬学博士
							構造解析演習(生命)	0.2					0.2			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	1.2					1.2			
							※演習科目(15科目)	0.3					0.3			
							基礎実習 II				0.6		0.6			
							基礎化学実習				1.2		1.2			
							実験実習 II				4.7		4.7			
							物理化学・分析系実習				1.2		1.2			
								5.9	4.0	0.0	0.0	0.0	7.7	5.9		
薬学科	薬物動態学	教授	富田幹雄	男			薬物動態学 I	3.5					3.5	11.5	東京薬科大学薬学研究科博士課程中退博(薬)	
							くすりと病氣	0.3					0.3			
							薬物動態学 II	3.5					3.5			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	1.2					1.2			
							※演習科目(15科目)	0.4			4.7		0.4			
							実験実習 IX(薬剤系)					4.7	4.7			
							実務模擬実習				9.3		9.3			
								3.8	5.1	0.0	0.0	4.7	9.3			8.5
薬学科	臨床感染症学	教授	藤村茂	男			病原微生物学(生命)	1.2					1.2	7.5	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業博(医)	
							病態解析学 V	1.0					1.0			
							微生物学	3.5					3.5			
							特殊臨床検査学	1.0					1.0			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3					2.3			
							※演習科目(15科目)	0.1					0.1			
							実験実習 VII(微生物系)				4.7		4.7			
							微生物学系実習				1.2		1.2			
	2.2	6.9	0.0	0.0	0.0	5.9	2.2	12.8								
薬学科	生化学	教授	関政幸	男			人体生化学 III	3.5					3.5	13.7	東京大学薬学系研究科博士課程修了薬学博士	
							人体生化学 IV	3.5					3.5			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	1.2					1.2			
							実験実習 III(生化学系)				4.7		4.7			
							基礎実習 I				0.6		0.6			
							基礎生物学実習				14.0		14.0			
	3.5	4.7	0.0	0.0	4.7	14.6	8.2	19.3								
薬学科	分子認識学	教授	細野雅祐	男			薬学英語 III	1.8					1.8	13.7	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							生化学 III(生命)	1.2					1.2			
							人体生化学 I	3.5					3.5			
							細胞情報学(生命)	0.3					0.3			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	1.2					1.2			
							※演習科目(15科目)	0.1					0.1			
							実験実習 III(生化学系)				4.7		4.7			
							基礎実習 I				0.6		0.6			
							基礎生物学実習				14.0		14.0			
	3.0	5.1			4.7	14.6	7.7	19.7								

生命薬科学科	分子薬化学	教授	吉村 祐一	男			有機反応化学Ⅰ(生命)	1.2						1.2		北海道大学 薬学研究所 修士課程修了 薬学博士
							施設見学体験学習(生命)	1.3						1.3		
							有機化学Ⅱ	3.5						3.5		
							医薬品開発Ⅰ		3.5						3.5	
							医薬品開発概論(生命)		1.2						1.2	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3						2.3	
							※演習科目(15科目)		0.3						0.3	
							実験実習Ⅰ(有機化学系)					4.7			4.7	
							有機化学系実習					2.3			2.3	
							基礎実習Ⅱ							0.6	0.6	
							基礎化学実習							1.2	1.2	
					6.0	7.3	0.0	0.0	7.0	1.8	13.0	9.1	11.1			
薬学科	体育学	教授	佐々木 克之	男			健康スポーツ(生命含)					3.5		3.5		日本体育大 学体育学部 体育学科卒 業 体育学士
							健康科学(生命含)		2.3						2.3	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2						1.2	
							0.0	3.5	0.0	0.0	3.5	0.0	3.5	3.5	3.5	
薬学科	薬学教育センター	教授	米澤 章彦	男			薬物療法学Ⅲ	2.3						2.3		東北薬科大 学薬学研 究科修士 課程修了 薬学博士
							生理学Ⅱ(生命)	1.2							1.2	
							薬学統合講義Ⅲ	0.7							0.7	
							薬学早期体験学習	1.2							1.2	
							人体生理学Ⅲ		3.5						3.5	
							生理学Ⅲ(生命)		1.2						1.2	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2						1.2	
							※演習科目(15科目)		0.6						0.6	
							実験実習Ⅷ(薬理系)					4.7			4.7	
							薬理学系実習					2.3			2.3	
基礎実習Ⅰ							0.6	0.6								
					5.4	6.5	0.0	0.0	7.0	0.6	12.4	7.1	9.8			
薬学科	機能形態学	特任教授	櫻田 忍	男			ヒトのからだ	3.5						3.5		東北薬科大 学薬学研 究科修士 課程修了 薬学博士
							人体生理学Ⅱ		3.5						3.5	
							実験実習Ⅷ(薬理系)					4.7			4.7	
							薬理学系実習					2.3			2.3	
							基礎実習Ⅰ							0.6	0.6	
					3.5	3.5	0.0	0.0	7.0	0.6	10.5	4.1	7.3			
薬学科	放射線核医学	特任教授	福田 寛	男			臨床検査学Ⅱ	1.0						1.0		東北大学医 学研究科 博士課程 修了 医学博士
							特殊医療学Ⅰ	0.2							0.2	
							1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.6	
薬学科	医療管理学	特任教授	濃 沼 信 夫	男												東北大学医 学部医学科 卒業 医学博士
							0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

薬学科	臨床薬剤学	特任教授 (実務家)	土屋 節夫	男			実験実習Ⅸ (薬剤系)					4.7		4.7		
							実務模擬実習					9.3		9.3		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2	1.2					1.2	1.2	
							1.2	1.2	0.0	0.0	4.7	9.3	5.9	10.5	8.2	大阪薬科大学薬学部製薬学科卒業薬学士
薬学科	独乙語学	特任教授	松山 雄三	男			ドイツ語 (通年)	3.5	3.5					3.5	3.5	
							ドイツ語Ⅰ (生命)	1.2						1.2		
							総合文化研究Ⅱ (生命含)		3.5					3.5		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2						1.2		
							5.9	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	7.0	6.5	東北大学文学研究科修士課程修了文学修士
薬学科	英語学	准教授	小島 良一	男			英語 (通年)	3.5	3.5					3.5	3.5	
							薬学英語Ⅰ	3.5						3.5		
							英語 (生命)	1.2						1.2		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2						1.2	
							8.2	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2	4.7	6.5	東北学院大学文学研究科修士課程修了文学修士
薬学科	薬学教育センター	准教授	川村 俊介	男			薬事関連法規Ⅰ	2.3						2.3		
							薬事関連法規Ⅱ		2.3						2.3	
							薬学統合講義Ⅵ		1.7						1.7	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	1.2							1.2	
							※演習科目 (15科目)		0.7						0.7	
							基礎実習Ⅱ						0.6		0.6	
							基礎生物学実習						9.3		9.3	
	3.5	4.7	0.0	0.0	0.0	9.9	3.5	14.6	9.1	東北薬科大学薬学研究科博士課程修了薬学博士						
薬学科	薬品物理化学	准教授	高橋 央宜	男			物理化学Ⅲ	3.5						3.5		
							原子と分子の構造 (生命)	1.2						1.2		
							薬学統合講義Ⅰ	0.8						0.8		
							物理化学Ⅰ		3.5						3.5	
							化学熱力学 (生命)		1.2						1.2	
							物理化学演習 (生命)		0.9						0.9	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3						2.3	
							※演習科目 (15科目)		0.3						0.3	
							基礎実習Ⅱ						0.6		0.6	
							基礎化学実習						1.2		1.2	
							実験実習Ⅱ						4.7		4.7	
							物理化学・分析系実習						1.2		1.2	
	5.5	8.2	0.0	0.0	0.0	7.7	5.5	15.9	10.7	筑波大学化学研究科博士課程修了博 (理)						
薬学科	機能形態学	准教授	溝口 広一	男			人体生理学Ⅰ	3.5						3.5		
							薬理学Ⅲ (生命)	1.2						1.2		
							薬理学Ⅲ		3.5						3.5	
							生理学Ⅰ (生命)		1.2						1.2	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3						2.3	
							※演習科目 (15科目)		0.4						0.4	
							実験実習Ⅷ (薬理系)						4.7		4.7	
							薬理学系実習						2.3		2.3	

							基礎実習 I						0.6		0.6											
								4.7	7.4	0.0	0.0	7.0	0.6	11.7	8.0					9.9						
薬学科	薬物動態学	准教授	伊藤 邦 郎	男			製剤工学概論 (生命)	1.2						1.2												
							薬学統合講義 V							0.7					0.7							
							製剤工学概論							3.5						3.5						
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV							1.2				4.7		4.7						
							※演習科目 (15科目)							0.6												
							実験実習 IX (薬剤系)																			
							実務模擬実習												9.3		9.3					
							1.2	6.0	0.0	0.0	4.7	9.3	5.9	15.3					10.6							
薬学科	創薬化学	准教授	猪股 浩 平	男			有機反応化学 III (生命)	1.2						1.2												
							コンピュータ化学 (生命)	1.2						1.2												
							薬学統合講義 II	0.8						0.8												
							有機化学 I						3.5							3.5						
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV						2.3							2.3						
							実験実習 I (有機化学系)										4.7			4.7						
							有機化学系実習									2.3				2.3						
							基礎実習 II											0.6			0.6					
							基礎化学実習											1.2			1.2					
							5.5	3.5	0.0	0.0	7.0	1.8	12.5	5.3					8.9							
薬学科	生薬学	准教授	佐々木 健 郎	男			生薬学 I	3.5						3.5												
							漢方医学概論	2.3						2.3												
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV							2.3						2.3						
							※演習科目 (15科目)							0.1						0.1						
							基礎実習 I											0.6		0.6						
							基礎生物学実習											9.3		9.3						
							実験実習 IV (生薬系)											4.7		4.7						
							5.8	2.4	0.0	0.0	0.0	14.6	5.8	17.0					11.4							
薬学科	心理学	准教授	杉山 雅 宏	男			こころの化学 I (生命含)	3.5						3.5												
							こころの化学 II (生命含)							3.5					3.5							
							薬学統合講義 VIII							0.3					0.3							
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV							2.3						2.3						
														3.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	6.1				4.8	
薬学科	放射薬品学	准教授	山本文彦	男			薬学統合講義 I	0.3						0.3												
							物理化学 II	3.5						3.5												
							放射化学 (生命)						1.2						1.2							
							物理化学演習 (生命)						0.3						0.3							
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV						2.3						2.3							
							※演習科目 (15科目)						0.1						0.1							
							基礎実習 II											0.6		0.6						
							実験実習 (R I) (0.5)											2.3		2.3						
							R I 実習											2.3		2.3						
							3.8	3.9	0.0	0.0	0.0	5.2	3.8	9.1					6.5							

薬学科	生化学	准教授	安 保 明 博	男			臨床検査学Ⅱ	2.3						2.3	14.1	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							薬学統合講義Ⅲ	0.8					0.8				
							臨床検査学Ⅰ		3.5					3.5			
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3					2.3			
							※演習科目(15科目)		0.1					0.1			
							実験実習Ⅲ(生化学系)				4.7		4.7				
							基礎実習Ⅰ					0.6	0.6				
							基礎生物学実習					14.0	14.0				
					3.1	5.9	0.0	0.0	4.7	14.6	7.8	20.5					
薬学科	薬学教育センター	准教授	古 澤 忍	男			薬学早期体験学習	1.2						1.2	2.7	東北薬科大学薬学研究科博士課程修了薬学博士	
							薬学統合講義Ⅳ		2.3					2.3			
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2					1.2			
							基礎実習Ⅱ					0.6	0.6				
									1.2	3.5	0.0	0.0	0.0	0.6			1.2
薬学科	薬学教育センター	准教授	佐 藤 厚 子	女			一般化学演習	3.5						3.5	6.2	東北薬科大学薬学部衛生薬学卒業博(薬)	
							一般化学	3.5						3.5			
							無機・有機化学演習		3.5								3.5
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2					1.2			
							※演習科目(15科目)		0.1					0.1			
							基礎実習Ⅱ					0.6	0.6				
		8.2	3.6	0.0	0.0	0.0	5.3	8.2	4.2								
生命薬科学科	細胞制御学	准教授	福 田 友 彦	男			生態情報制御学(生命)	1.2						1.2	12.6	大阪府立大学農学研究科博士課程修了博(農)	
							生体分子化学		3.5								3.5
							生体分子構造学(生命)		1.2								1.2
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3					2.3			
							※演習科目(15科目)		0.1					0.1			
							実験実習Ⅵ(安全・病理系)				4.7		4.7				
							分子生物学系実習				2.3		2.3				
							基礎実習Ⅰ					0.6	0.6				
							基礎生物学実習					9.3	9.3				
		1.2	7.1	0.0	0.0	7.0	9.9	8.2	17.0								
薬学科	臨床薬剤学	准教授(実務家)	岸 川 幸 生	男			医療コミュニケーション	2.3						2.3	10.9	東北大学薬学研究科博士課程修了博(医療薬学)	
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ	2.3						2.3			2.3
							※演習科目(15科目)		0.9					0.9			
							実験実習Ⅸ(薬剤系)				4.7		4.7				
							実務模擬実習					9.3	9.3				
									4.6	3.2	0.0	0.0	4.7	9.3			9.3
薬学科	薬理学	准教授	中川西 修	男			薬理学Ⅴ	2.3						2.3	10.6	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							薬理学Ⅴ(生命)		1.2					1.2			
							薬効薬理試験評価概論		2.3					2.3			
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		2.3					2.3			
							※演習科目(15科目)		0.6					0.6			
							実験実習Ⅷ(薬理系)				4.7		4.7				
							薬理学系実習				2.3		2.3				
基礎実習Ⅰ					0.6	0.6											

							製剤工学概論	2.3	6.4	0.0	0.0	7.0	0.6	9.3	7.0	8.2	
薬学科	薬剤学	准教授 (実務家)	我妻 恭行	男			薬学統合講義V	2.3						2.3			東北薬科大学薬学研究科修士課程 修了 博(薬)
							製剤学(生命)		0.7						0.7		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV		1.2						1.2		
							※演習科目(15科目)		2.3						2.3		
							実験実習Ⅸ(薬剤系)		0.4			4.7			0.4		
							実務模擬実習						4.7				
														9.3		9.3	
							2.3	4.6	0.0	0.0	4.7	9.3	7.0	13.9	10.5		
薬学科	機能病態分子学	准教授	稲森 啓一郎	男			生化学I(生命)		1.2						1.2		九州大学医学系研究科 博士課程修了 博(理)
							生化学IV(生命)		1.2						1.2		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3					2.3		2.3		
							分子生物学系実習										
							基礎実習I						0.6		0.6		
							実験実習X(毒性系)						4.7		4.7		
							2.3	2.4	0.0	0.0	2.3	5.3	4.6	7.7	6.2		
薬学科	薬学教育センター	准教授	八百板 康範	男			分析化学II(生命)	1.2							1.2		東北薬科大学薬学研究科 博士課程修了 博(薬)
							薬学統合講義I	1.2							1.2		
							薬学英语III	1.8							1.8		
							機器分析学II(生命)		1.2						1.2		
							構造解析演習(生命)		0.3						0.3		
							分析化学II		3.5						3.5		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3							2.3		
							※演習科目(15科目)		0.1						0.1		
							基礎実習II						0.6		0.6		
							基礎化学実習						1.2		1.2		
							実験実習II						4.7		4.7		
							物理化学・分析系実習						1.2		1.2		
							6.5	5.1	0.0	0.0	0.0	7.7	6.5	12.8	9.7		
薬学科	薬物治療学	准教授	菅野 秀一	男			医薬品安全性学III	2.3							2.3		東北薬科大学薬学研究科 博士課程修了 博(薬)
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV		2.3						2.3		
							※演習科目(15科目)		0.3						0.3		
							実験実習Ⅸ(薬剤系)					4.7			4.7		
							実務模擬実習						9.3		9.3		
							2.3	2.6	0.0	0.0	4.7	9.3	7.0	11.9	9.5		
生命薬科学科	感染生体防御学	准教授	佐々木 雅人	男			薬品毒性学(生命)		1.2						1.2		東北大学医学系研究科 博士課程修了 博(医)
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV		2.3						2.3		
							実験実習V(衛生系)					4.7			4.7		
							衛生系実習					2.3			2.3		
							基礎実習I						0.6		0.6		
							0.0	3.5	0.0	0.0	7.0	0.6	7.0	4.1	5.6		
薬学科	環境衛生学	講師	坂口 修平	男			処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3							2.3		東北薬科大学薬学研究科 博士課程修了 薬学博士
							実験実習V(衛生系)					4.7			4.7		
							衛生系実習					2.3			2.3		
							基礎実習I						0.6		0.6		
							実験実習X(毒性系)						4.7		4.7		

薬学科	薬学教育センター	講師	奈良 修	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3	0.0	0.0	0.0	7.0	5.3	9.3	5.3	7.3	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了薬学博士		
							基礎実習 II		1.2					1.2				0.6	0.6
							基礎化学実習								1.2			1.2	
							実験実習 II								4.7			4.7	
							物理化学・分析系実習								1.2			1.2	
								0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	8.9			4.5	
薬学科	薬学教育センター	講師	渡部 俊彦	男			分子免疫学 (生命)	1.2						1.2		7.6	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博 (薬)		
							免疫学	3.5						3.5					
							薬学早期体験学習	1.2						1.2					
							免疫学概論 (生命)		1.2									1.2	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		1.2									1.2	
							※演習科目 (15科目)		0.3									0.3	
							基礎実習 I							0.6				0.6	
							実験実習 VII (微生物系)							4.7				4.7	
							微生物学系実習							1.2				1.2	
								5.9	2.7	0.0	0.0	0.0	6.5	5.9	9.2				
薬学科	英語学	講師	菅原 美佳	女			英語 (通年)	3.5	3.5					3.5	3.5	6.5	東北大学文学研究科博士課程修了博 (文学)		
							薬学英語 I	3.5						3.5					
							英語 (生命)		1.2									1.2	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		1.2									1.2	
								7.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	5.9				
薬学科	環境衛生学	講師	熊谷 健	男			環境衛生学	3.5						3.5		12.3	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博 (薬)		
							環境科学概論 (生命)	1.2						1.2					
							環境衛生学 (生命)	1.2						1.2					
							公衆衛生学		2.3						2.3				
							薬学統合講義 VII		1.2						1.2				
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3						2.3					
							※演習科目 (15科目)		0.6						0.6				
							実験実習 V (衛生系)					4.7		4.7					
							衛生系実習					2.3		2.3					
							基礎実習 I						0.6		0.6				
							実験実習 X (毒性系)						4.7		4.7				
								8.2	4.1	0.0	0.0	7.0	5.3	15.2	9.4				
生命薬科学科	生体膜情報学	講師	三吉 純也	男			遺伝子工学 (生命)	1.2						1.2		7.7	九州大学理学研究科博士課程修了博 (理)		
							ゲノム情報概論 (生命)	1.2						1.2					
							ゲノム創薬		2.3						2.3				
							生化学 II (生命)		1.2					1.2					
							細胞情報学 (生命)		0.3					0.3					
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	1.2						1.2					
							※演習科目 (15科目)		0.3					0.3					
							実験実習 VI (安全・病理系)					4.7		4.7					
							分子生物学系実習					2.3		2.3					
							基礎実習 I						0.6		0.6				
								3.6	4.1	0.0	0.0	7.0	0.6	10.6	4.7				

薬学科	薬学教育センター	講師	諸根美恵子	女			一般化学演習	3.5						3.5	東北薬科大学薬学部薬学科博(薬)
							化学(生命)	1.2					1.2		
							化学演習	1.2					1.2		
							無機・有機化学演習	3.5					3.5		
							分析化学I(生命)	1.2					1.2		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	1.2					1.2		
							※演習科目(15科目)	0.1					0.1		
							基礎実習II					0.6	0.6		
								7.1	4.8	0.0	0.0	0.0	0.6	7.1	
薬学科	創薬化学	講師	太田公規	男			施設見学体験学習(生命)	1.3						1.3	東京大学薬学系研究科博士課程修了博(薬)
							薬学統合講義II	0.8					0.8		
							無機化学(生命)	1.2					1.2		
							無機化学	3.5					3.5		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3					2.3		
							※演習科目(15科目)	0.3					0.3		
							実験実習I(有機化学系)				4.7		4.7		
							有機化学系実習				2.3		2.3		
							基礎実習II					0.6	0.6		
							基礎化学実習					1.2	1.2		
	5.6	3.8	0.0	0.0	7.0	1.8	12.6	5.6	9.1						
薬学科	医薬合成化学	講師	渡邊一弘	男			有機化学演習	3.5						3.5	東北薬科大学薬学研究科博士課程修了博(薬)
							有機化学演習I(生命)	1.2					1.2		
							構造解析演習(生命)	0.3					0.3		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3					2.3		
							※演習科目(15科目)	0.1					0.1		
							実験実習X(薬品合成系)				2.3		2.3		
							基礎実習II					0.6	0.6		
							基礎化学実習					1.2	1.2		
							薬品合成・天然物系実習					1.2	1.2		
	5.8	1.6	0.0	0.0	2.3	3.0	8.1	4.6	6.4						
薬学科	薬物治療学	講師(実務家)	蓬田伸	男			薬学統合講義III	0.7					0.7	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							実務実習講義II	2.3					2.3		
							薬学統合講義VIII	0.3					0.3		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	1.2					1.2		
							※演習科目(15科目)	0.9					0.9		
							実験実習IX(薬剤系)				4.7		4.7		
							実務模擬実習					9.3	9.3		
	1.9	4.7	0.0	0.0	4.7	9.3	6.6	14.0	10.3						
薬学科	臨床薬剤学	講師(実務家)	勝山壮	男			実務実習講義I	2.3					2.3	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							薬学統合講義VI	0.3					0.3		
							処方解析I~IV、処方実務演習I・II、症例解析I~IV	2.3					2.3		
							※演習科目(15科目)	0.6					0.6		
							実験実習IX(薬剤系)				4.7		4.7		
実務模擬実習					9.3	9.3									
	2.3	1.2	0.0	0.0	4.7	9.3	7.0	12.5	9.8						
						医薬品開発II	2.3				2.3				
						機器分析学I	1.2				1.2				

薬学科	臨床分析化学	講師	大野賢一	男			機器分析学Ⅱ	2.3	3.5						2.3	3.5	昭和大学薬学研究科博士課程修了博(薬)
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ										
							基礎実習Ⅱ										
							基礎化学実習										
							実験実習Ⅱ										
							物理化学・分析系実習										
5.8	3.5	0.0	0.0	0.0	7.7	5.8	11.2	8.5									
薬学科	医薬情報科学	講師	川上準子	女			情報科学Ⅰ	3.5							3.5	3.5	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業博(薬)
							情報科学Ⅲ(生命)										
							情報科学Ⅰ(生命)										
							情報科学Ⅱ										
							情報科学Ⅱ(生命)										
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ										
							基礎実習Ⅱ										
5.9	7.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.9	7.6	6.8									
薬学科	機能形態学	講師	渡辺千寿子	女			処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ		1.2						1.2	1.2	東北薬科大学薬学部製薬学科卒業博(薬)
							※演習科目(15科目)										
							実験実習Ⅷ(薬理系)										
							薬理学系実習										
							基礎実習Ⅰ										
0.0	1.6	0.0	0.0	7.0	0.6	7.0	2.2	4.6									
薬学科	薬物動態学	講師	森本かおり	女			薬物動態学Ⅰ(生命)	1.2							1.2	1.2	千葉大学医学薬学府博士課程修了博(薬)
							薬物動態学Ⅱ(生命)										
							薬学統合講義Ⅴ										
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ										
							※演習科目(15科目)										
							実験実習Ⅸ(薬剤系)										
							実務模擬実習										
1.2	5.1	0.0	0.0	4.7	9.3	5.9	14.4	10.2									
薬学科	医薬情報科学	講師	星憲司	男			情報科学Ⅰ	3.5							3.5	3.5	東北大学工学研究科博士課程修了博(工)
							情報科学Ⅲ(生命)										
							情報科学Ⅰ(生命)										
							情報科学Ⅱ										
							情報科学Ⅱ(生命)										
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ										
							基礎実習Ⅱ										
5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.6	5.9	6.5	6.2									
薬学科	臨床薬剤学	講師(実務家)	薄井健介	男			地域医療Ⅰ	2.3							2.3	2.3	北里大学薬学研究科博士課程修了博(臨床薬学)
							医療業務概論										
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ										
							※演習科目(15科目)										
							実験実習Ⅹ(薬剤系)										
2.3	5.2	0.0	0.0	4.7	9.3	7.0	14.5	10.8									

生命薬科学科	薬品反応化学	助教	若松秀章	男			医薬品化学	3.5					3.5						北海道大学薬学研究科博士課程修士(薬)	
							有機構造化学(生命)							1.2						1.2
							医薬品合成化学							2.3						2.3
							有機反応化学Ⅱ(生命)							1.2						1.2
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ							1.2						1.2
							※演習科目(15科目)							0.1						0.1
							実験実習Ⅹ(薬品合成系)									2.3				2.3
							基礎実習Ⅱ										0.6			0.6
							基礎化学実習										1.2			1.2
														3.5	6.0	0.0	0.0	2.3		1.8
薬学科	分子認識学	助教	菅原栄紀	男			基礎科学	0.6						0.6					東北薬科大学薬学研究科博士課程修士(薬)	
							遺伝子工学	3.5						3.5						
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ							2.3						2.3
							実験実習Ⅲ(生化学系)									4.7				4.7
							基礎実習Ⅰ										0.6			0.6
							基礎生物学実習										14.0			14.0
							4.1	2.3	0.0	0.0	4.7	14.6	8.8	16.9		12.8				
生命薬科学科	生体膜情報学	助教	中川哲人	男			生物統計学(生命)	1.2						1.2				九州大学生物資源環境科学府博士課程修士(農)		
							生物学演習	1.0						1.0						
							英文論文講読	0.2						0.2						
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ							2.3						2.3
							実験実習Ⅵ(安全・病理系)									4.7				4.7
							分子生物学系実習									2.3				2.3
							基礎実習Ⅰ										0.6			0.6
							2.4	2.3	0.0	0.0	7.0	0.6	9.4	2.9		6.2				
生命薬科学科	天然物化学	助教	鵜飼和代	女			最新天然物化学(生命)	1.2						1.2				東京水産大学水産学研究科博士課程修士(水産学)		
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ							1.2						1.2
							基礎実習Ⅱ									0.6				0.6
							実験実習Ⅳ(生薬系)									4.7				4.7
							薬品合成・天然物系実習									1.2				1.2
														1.2	1.2	0.0	0.0		0.0	6.5
生命薬科学科	細胞制御学	助教	伊左治知弥	男			薬学統合講義Ⅲ	0.5						0.5				大阪大学医学系研究科博士課程修士(医)		
							薬学英語Ⅳ							1.8						1.8
							処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ							1.2						1.2
							実験実習Ⅵ(安全・病理系)									4.7				4.7
							分子生物学系実習									2.3				2.3
							基礎実習Ⅰ										0.6			0.6
														0.5	3.0	0.0	0.0		7.0	0.6
薬学科	薬剤学	助教(実務家)	林貴史	男			処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ、症例解析Ⅰ～Ⅳ											2.3	東北薬科大学薬学研究科修士課程修士(薬)	
							※演習科目(15科目)													0.6
							実務演習Ⅰ													2.3
							実験実習Ⅸ(薬剤系)									4.7				4.7
							実務模擬実習										9.3			9.3
														0.0	5.2	0.0	0.0	4.7		9.3
							薬理学Ⅳ(生命)	1.2						1.2						
							薬理学Ⅳ							3.5						

薬学科	薬理学	助教	八百板 富紀枝	女			処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV	2.3	0.4					2.3	0.4	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業博(薬)								
							※演習科目(15科目)																	
							実験実習 VII(薬理系)										4.7	4.7						
							薬理学系実習										2.3	2.3						
							基礎実習 I											0.6	0.6					
	3.5	3.9	0.0	0.0	7.0	0.6	10.5	4.5	7.5															
薬学科	機能病態分子学	助教	永福 正和	男			施設見学体験学習(生命)	1.3						1.3	1.2	3.5	大阪大学医学系研究科博士課程修了博(保健学)							
							生命科学論文講読(生命)																	
							薬学英语 II																	
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV	1.2															1.2	3.5
							分子生物学系実習													2.3			2.3	
							基礎実習 I															0.6		0.6
							実験実習 X(毒性系)															4.7		4.7
	2.7	4.7	0.0	0.0	2.3	5.3	4.8	10.0	7.4															
薬学科	薬剤学	助教(実務家)	佐藤 祥子	女			地域医療 II	1.2						1.2	1.2	0.4	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)							
							薬学統合講義 VII											2.3	0.5	0.5				
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV																	
							※演習科目(15科目)																	
							実験実習 IX(薬剤系)														4.7		4.7	
							実務模擬実習																9.3	9.3
	1.2	4.4	0.0	0.0	4.7	9.3	5.9	13.7	9.8															
薬学科	薬剤学	助教(実務家)	及川 淳子	女			薬学統合講義 VII	1.2						1.2	1.2	0.3	東北薬科大学薬学部薬学科卒業薬学士							
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV																	
							※演習科目(15科目)																	
							実験実習 IX(薬剤系)														4.7		4.7	
							実務模擬実習																9.3	9.3
																		1.2	2.0	0.0	0.0	4.7	9.3	5.9
薬学科	薬学教育センター	助教	奥山 祐子	女			物質科学論文講読	1.2						1.2	3.5	2.3	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業博(薬)							
							有機化学演習																	
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV																	
							実験実習 X(薬品合成系)														2.3		2.3	
							基礎実習 II																0.6	0.6
							基礎化学実習																1.2	1.2
																		4.7	2.3	0.0	0.0	2.3	1.8	7.0
薬学科	生薬	助教	小林 匡子	女			薬学統合講義 II	0.7	1.2					0.7	1.2	0.6	東北薬科大学薬学部製薬学科卒業博(薬)							
							処方解析 I ~ IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I ~ IV																	
							基礎実習 I																0.6	0.6
							基礎生物学実習																9.3	9.3
							実験実習 IV(生薬系)																4.7	4.7
	0.7	1.2	0.0	0.0	0.0	14.6	0.7	15.8	8.3															
薬学科	環境衛生学	助教	佐々木 崇光	男													東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)							
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0															

薬学科	病態生理学	助教	河野 資	男			薬学早期体験学習	1.2						1.2				東北薬科大学薬学研究科博士課程修了博(薬)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3						2.3				
							実験実習 VI (安全・病理系)				4.7			4.7					
							基礎実習 I				0.6			0.6					
																	4.4		
生命薬科学科	分子薬化学	助教	名取良浩	男			有機化学演習 II	1.2						1.2				北海道大学生命科学院博士課程修了博(生命科学)	
							分子医薬化学(生命)		1.2					1.2					
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3					
							実験実習 I (有機化学系)				4.7			4.7					
							有機化学系実習				2.3			2.3					
							基礎実習 II						0.6	0.6					
							基礎化学実習						1.2	1.2					
																6.8			
薬学科	放射薬品学	助教	齋藤陽平	男			薬学早期体験学習	1.2						1.2				東京理科大学薬学研究科博士課程修了博(薬)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3					
							基礎実習 II						0.6	0.6					
							実験実習 (R I) (0.5)						2.3	2.3					
							R I 実習						2.3	2.3					
																	4.4		
薬学科	体育学	助教	深瀬友香子	女			健康スポーツ(生命含)					3.5		3.5				筑波大学体育研究科修士課程修了修(体育学)	
							健康科学(生命含)		2.0					2.0					
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		1.2					1.2					
																		3.4	
薬学科	機能病態分子学	助教	郷慎司	男			薬学英語 II		3.5								3.5	名古屋大学生命農学研究科博士課程修了博(農)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3					
							分子生物学系実習				2.3			2.3					
							基礎実習 I						0.6	0.6					
							実験実習 X (毒性系)						4.7	4.7					
																	6.7		
薬学科	生薬学	助教	村田敏拓	男			生薬学 I	1.2						1.2				京都大学農学研究科修士課程修了博(薬)	
							構造解析演習(生命)		0.3					0.3					
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3					
							基礎実習 I						0.6	0.6					
							基礎生物学実習						9.3	9.3					
							実験実習 IV (生薬系)						4.7	4.7					
																	9.2		
薬学科	臨床分析化学	助教	加藤 創	男			基礎科学	0.6						0.6				名城大学総合学術研究科博士課程中退博(学術)	
							薬学早期体験学習	1.2						1.2					
							英文論文講読	0.2						0.2					
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3					
							基礎実習 II						0.6	0.6					
							基礎化学実習						1.2	1.2					
							実験実習 II						4.7	4.7					
							物理化学・分析系実習						1.2	1.2					

薬学科	微生物学	助教	岩井 健太	男			英文論文講読	2.0	2.3	0.0	0.0	0.0	7.7	2.0	10.0	6.0	東北大学薬学研究科博士課程修了博(薬)
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	0.2	2.3					0.2	2.3		
							基礎実習 I							0.6	0.6		
							実験実習 VII (微生物系)						4.7	4.7			
							微生物学系実習						1.2	1.2			
	0.2	2.3	0.0	0.0	0.0	6.5	0.2	8.8	4.5								
生命薬科学科	天然物化学	助教	山崎 寛之	男			薬学早期体験学習	1.2					1.2			5.3	千葉大学医学薬学府修士課程修了博(薬)
							英文論文講読	0.2					0.2				
							構造解析演習(生命)		0.3					0.3			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3					2.3				
							基礎実習 II						0.6	0.6			
							実験実習 IV (生薬系)						4.7	4.7			
							薬品合成・天然物系実習						1.2	1.2			
	3.7	0.3	0.0	0.0	0.0	6.5	3.7	6.8									
薬学科	病態生理学	助教	宮坂 智充	男			英文論文講読	0.2	2.3				0.2	2.3	3.9	東北大学医学系研究科博士課程修了博(保健学)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV										
							実験実習 VI (安全・病理系)					4.7	4.7				
							基礎実習 I					0.6	0.6				
								0.2	2.3	0.0	0.0	4.7	0.6	4.9			2.9
生命薬科学科	分子薬化学	助教	斎藤 有香子	女			薬学早期体験学習	1.2					1.2		6.3	東北薬科大学薬学部衛生薬学科卒業博(薬)	
							英文論文講読	0.2					0.2				
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3			
							実験実習 I (有機化学系)					4.7	4.7				
							有機化学系実習					2.3	2.3				
							基礎実習 II					0.6	0.6				
							基礎化学実習					1.2	1.2				
	1.4	2.3	0.0	0.0	7.0	1.8	8.4	4.1									
薬学科	分子認識学	助教	立田 岳生	男			英文論文講読	0.2	2.3				0.2	2.3	10.9	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了博(薬)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV										
							実験実習 III (生化学系)					4.7	4.7				
							基礎実習 I					0.6	0.6				
							基礎生物学実習					14.0	14.0				
	0.2	2.3	0.0	0.0	4.7	14.6	4.9	16.9									
薬学科	薬品物理化学	助教	真鍋 法義	男			化学反応速度論	1.2					1.2		7.4	東北大学工学研究科博士課程修了博(工)	
							物理化学IV		3.5					3.5			
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					2.3			
							基礎実習 II					0.6	0.6				
							基礎化学実習					1.2	1.2				
							実験実習 II					4.7	4.7				
							物理化学・分析系実習					1.2	1.2				
	1.2	5.8	0.0	0.0	0.0	7.7	1.2	13.5									

薬学科	臨床分析化学	助手	小松祥子	女			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3						2.3				5.0	東北薬科大学薬学部製薬学科卒業学士(薬)		
							基礎実習 II						0.6	0.6							
							基礎化学実習						1.2	1.2							
							実験実習 II						4.7	4.7							
							物理化学・分析系実習						1.2	1.2							
							2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	2.3	7.7							
薬学科	薬物治療学	助手	富澤亜也子	女			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3											8.2	東北薬科大学薬学研究科修士課程修士(薬)	
							実験実習 IX (薬剤系)							4.7	4.7						
							実務模擬実習							9.3	9.3						
														0.0	2.3	0.0	0.0	4.7			9.3
薬学科	臨床薬剤学	助手	八木朋美	女			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3											8.2	東北薬科大学薬学部薬科学士(薬)	
							実験実習 IX (薬剤系)							4.7	4.7						
							実務模擬実習								9.3	9.3					
														2.3	0.0	0.0	0.0	4.7			9.3
薬学科	医薬合成化学	助手	成田紘一	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3											3.8	東北薬科大学薬学研究科修士課程修士(薬)	
							実験実習 X (薬品合成系)							2.3	2.3						
							基礎実習 II							0.6	0.6						
							基礎化学実習							1.2	1.2						
							薬品合成・天然物系実習							1.2	1.2						
							2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	3.0	4.6	3.0							
薬学科	医薬情報科学	助手	青木空真	男			情報科学 I	3.5											6.8	東北薬科大学薬学研究科修士課程修士(薬)	
							情報科学 III (生命)	1.2													1.2
							情報科学 I (生命)	1.2													1.2
							情報科学 II					3.5									3.5
							情報科学 II (生命)					1.2									1.2
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV					2.3									2.3
							基礎実習 II											0.6			0.6
							5.9	7.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.9	7.6							
生命薬科学科	感染生体防御学	助手	伊藤文恵	女			薬学早期体験学習	1.2											5.6	東北薬科大学薬学研究科修士課程修士(薬)	
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV							2.3	2.3						
							実験実習 V (衛生系)								4.7	4.7					
							衛生系実習								2.3	2.3					
							基礎実習 I									0.6	0.6				
							1.2	2.3	0.0	0.0	7.0	0.6	8.2	2.9							
薬学科	放射薬品学	助手	山本由美	女			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3											3.8	九州大学薬学府創薬科学専攻博士課程中退修(薬)	
							基礎実習 II										0.6	0.6			
							実験実習 (R I) (0.5)										2.3	2.3			
							R I 実習										2.3	2.3			
							2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	2.3	5.2							
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV											東北薬科大			
							実験実習 V (衛生系)														

生命薬科学科	感染生体防御学	助手	田 中 大	男			衛生系実習					2.3		2.3				5.0	学薬学研究科修士課程修了修(薬)	
							基礎実習 I					0.6		0.6						
								0.0	2.3	0.0	0.0	7.0	0.6	7.0	2.9					
薬学科	薬理学	助手	根 本 互	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					4.7		4.7			5.0	東北大学薬学研究科修士課程修了修(薬)
							実験実習VIII(薬理系)						2.3		2.3					
							薬理学系実習													
							基礎実習 I					0.6		0.6						
								0.0	2.3	0.0	0.0	7.0	0.6	7.0	2.9					
薬学科	生化学	助手	中 林 悠	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3					4.7		4.7			3.8	東北大学薬学研究科博士課程中退修(薬)
							実験実習III(生化学系)													
							基礎実習 I							0.6		0.6				
								0.0	2.3	0.0	0.0	4.7	0.6	4.7	2.9					
薬学科	創薬化学	助手	皆 瀬 麻 子	女			施設見学体験学習(生命)	1.3								1.3			6.2	東北薬科大学薬学研究科修士課程修了修(薬科学)
							処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV	2.3								2.3				
							実験実習 I(有機化学系)						4.7		4.7					
							有機化学系実習						2.3		2.3					
							基礎実習 II							0.6		0.6				
							基礎化学実習							1.2		1.2				
							3.6	0.0	0.0	0.0	7.0	1.8	10.6	1.8						
薬学科	薬物動態学	助手	石 井 敬	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3							2.3			8.2	星薬科大学薬学研究科博士課程修了博(薬)
							実験実習IX(薬剤系)						4.7		4.7					
							実務模擬実習							9.3		9.3				
								0.0	2.3	0.0	0.0	4.7	9.3	4.7	11.6					
薬学科	微生物学	助手	色 川 隼 人	男			処方解析 I~IV、処方実務演習 I・II、症例解析 I~IV		2.3							2.3			4.4	東北薬科大学薬学研究科博士課程修了博(薬)
							基礎実習 I							0.6		0.6				
							実験実習VII(微生物系)							4.7		4.7				
							微生物学系実習							1.2		1.2				
								0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	8.8					
薬学科	薬品物理化学	助手	桐 越 亮 太	男			基礎実習 II								0.6		0.6	3.9	東北薬科大学薬学部薬学科卒業学士(薬)	
							基礎化学実習							1.2		1.2				
							実験実習 II							4.7		4.7				
							物理化学・分析系実習						1.2		1.2					
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7					

- [注]
- 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
 - 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
 - 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
 - 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
 - 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○教員が担当時間3.0時間、◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
 - 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
 - 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

※演習科目は6年次に開講する次の15科目：臨床薬剤業務演習Ⅰ～Ⅸ、調剤業務演習、薬事関連法規演習、社会薬学演習Ⅰ・Ⅱ、医療管理業務演習Ⅰ、Ⅱ(各科目0.5単位)

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数 276 名

6年生の在籍学生数 362 名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	創薬化学	4	11	13	24
2	分子薬化学	4	10	13	23
3	医薬合成化学	3	10	11	21
4	臨床分析化学	4	12	15	27
5	微生物学	3	12	12	24
6	感染生体防御学	4	12	12	24
7	環境衛生学	4	11	13	24
8	薬理学	4	11	12	23
9	機能形態学	3	11	13	24
10	病態生理学	3	11	13	24
11	天然物化学	3	13	15	28
12	生薬学	3	10	14	24
13	放射薬品学	4	11	13	24
14	生化学	3	12	13	25
15	分子認識学	3	11	14	25
16	機能病態分子学	4	8	14	22
17	生体膜情報学	3	10	13	23
18	細胞制御学	3	13	12	25
19	医薬情報科学	4	9	13	22
20	薬品物理化学	3	11	13	24
21	臨床薬剤学	6	13	15	28
22	薬物動態学	4	13	15	28
23	薬剤学	5	13	15	28
24	薬物治療学	4	13	15	28
25	臨床感染症学	1	3		3
26	薬学教育センター	11	2	41	43
27					
28					
29					
30					
	合計	100	276	362	638

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積 (㎡) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積 (㎡) (A/B)	備考
小松島キャンパス (全学共通)	講義室	27	4262	共用	3655	2,098	2.03	1～6年生 生命薬科学科 (1～4年140名)
	演習室	12	231	共用	120	276	0.84	5年生
	物理化学系分析系 実習室	4	602	共用	188	410	1.47	2年生 生命薬科学科 (1年生40名)
	薬理系実習室	3	526	共用	160	1,026	0.51	1、3、4年生 生命薬科学科 (1、3年生76名)
	薬剤学系実習室	11	769	専用	182	287	2.68	4年生
	(模擬薬局) ※内数	(2)	(162)	専用	(16)	287	0.56	4年生
	微生物・病態系 実習室	6	442	共用	148	393	1.12	3年生 生命薬科学科 (2、3年生69名)
	基礎化学系・生薬系 実習室	3	641	共用	192	443	1.45	2年生 生命薬科学科 (1、2年生73名)
	生化学・衛生化学系 実習室	3	521	共用	192	1,106	0.47	1～3年生 生命薬科学科 (1、2年生73名)
	RIセンター実習室	2	209	共用	90	357	0.59	3年生 生命薬科学科 (2年生33名)
	情報教室	2	457	共用	180	1,160	0.39	1～4年生 生命薬科学科 (1～4年生140 名)
	学生自習室	6	629	共用	370	2,098	0.30	1～6年生 生命薬科学科 (1～4年生140 名)
	体育館	1	2496	共用	-	379	6.59	1年生 生命薬科学科 (1年生40名)
講堂	1	370	共用	418	2,098	0.18	1～6年生 生命薬科学科 (1～4年生140 名)	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
東北薬科大学附属 図書館	215	2,048	10.5				薬学部薬学科 1,830人 薬学部生命薬科学科 160 人 大学院 58人
計							

[注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
東北薬科大学附属 図書館	107,296	96,226	534	480	472	4,239	2,185	2,185	2,336	
計	107,296	96,226	534	480	472	4,239	2,185	2,185	2,336	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 放射薬品学教室	職名 教授	氏名 大久保 恭仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>第1回目の講義の始めにシラバスとこの講義科目を学ぶ意義と概要を書いたプリントを配り、十分に説明をしている。シラバスはできるだけ細かい項目も書くようにしている。講義にはプリントを前もって配布しておき、講義の前日にプリントの該当頁を10分程度でいいので目を通しだけの予習をするように指導している。プリントの該当頁はシラバスで確認することも指導している。ちょっとした予習をすることにより講義内容の理解が深まることを理解してもらいたい。講義が終わった後はその日の講義の理解度をシラバスの該当箇所に色分けしておくように指導している。これにより、試験前にどの項目にどれだけの時間を掛けなければならないのかがおおよそ分かるようにさせている。講義の前半と後半に分けて、まとめを行なっているが、その時に講義内容で過去に国家試験に出題されたものを引用し、内容の理解を深めるようにしている。講義内容に関する質問はオフィスアワーに関係なく随時受け付けている。</p> <p>演習科目については、C B Tや国家試験を意識した実践的な試験問題の演習と解説を、プリントと受講者が過去に履修した科目で実際に使用した授業スライドを示しながら解説し、復習に役立つ内容を実施している。</p> <p>学生実習については、R Iの安全利用に役立つよう密封線源、非密封線源の取扱いや放射線測定に重点を置いた教育を行っている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年10月 平成23年5月 毎年度	<p>薬学生のための実習実験安全ガイド (第8, 10章担当) 東京化学同人 (共著)</p> <p>薬学テキストシリーズ 放射化学・放射性医薬品学 朝倉書店 (共著) (第5, 6章、付録、担当)</p> <p>講義プリント、学生実習用テキスト</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Radiosynthesis and initial evaluation of ^{18}F labeled nanocarrier composed of poly(L-lactic acid)-block-poly(sarcosine) amphiphilic polydepsiptide	共著	2013	Nucl. Med. Biol., 40 (3), 387-394
Effect of aging on norepinephrine-related proliferative response in primary cultured periportal and perivenous hepatocytes	共著	2012	Am. J. Physiol., 303, G861-9
Norepinephrine modulates the zonally different hepatocyte proliferation through the regulation of transglutaminase activity	共著	2010	Am. J. Physiol., 299, G106-114

Transglutaminase down-regulates the dimerization of epidermal growth factor receptor in rat perivenous and periportal hepatocytes	共著	2009	Cell Prolif., 42, 647-656
Effect of aging on EGF-induced proliferative response in primary cultured periportal and perivenous hepatocytes	共著	2008	J. Hepatol., 48, 246-254
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヨウ素125標識ラクトソーム放射能の生体内分布における血流の影響		平成26年9月	第14回放射性医薬品・画像診断薬研究会
Synthesis and initial evaluation of radioiodine labeled A ₃ B-type Lactosome as an imaging probe of tumor and/or inflammation		平成26年6月	The Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 61th Annual Meeting
脳COX-2 を標的とした indomethacin dibenzoyl thiamideの合成と評価		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝がん細胞株 HepG2の放射線耐性獲得に対する Transglutaminase 2 の関与		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝再生における脂質代謝への加齢の影響		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝がん細胞のTG2による増殖応答制御		平成26年3月	第87回日本薬理学会年会シンポジウム4
¹²⁵ I標識A ₃ B型ラクトソームの病態モデル動物を用いた基礎評価		平成25年11月	第53回日本核医学会学術総会
COX イメージングを目的としたニメスリド誘導体の合成と評価		平成25年11月	第53回日本核医学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
日本薬学会	理事（平成25年4月～平成27年3月）		
日本薬学会東北支部	幹事（平成24年4月～平成27年3月）		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物治療学教室	職名 教授	氏名 石川 正明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 担当教科：薬学科3年・薬物療法学Ⅱ、生命科3年・疾病と治療Ⅰ、薬学科4年・薬物療法学Ⅳ、生命科4年・疾病と治療Ⅱ、薬剤学基礎実習、実務事前実習、薬学科6年国家試験対策講義、大学院講義関連内容（病態、薬理学）を随時復習しながら、体系的に理解できるように講義した。			要点のプリント、演習問題を活用し、わかりやすい授業を行うように工夫した。 実習では、学生が将来、薬剤師として医療に貢献できるような実務的内容を積極的に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業の予備教材（要点、演習問題）		毎年度	プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 宮城県立多賀城高等学校（出前講義） 青森県立青森南高等学校（出前講義） 宮城県立多賀城高等学校（出前講義）		平成23年11月10日 平成24年11月12日 平成25年11月14日	演題「がんと制がん薬」 演題「がんと薬物による治療」 演題「がんと制がん薬」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Albumin modulates docosahexaenoic acid-induced cytotoxicity in human hepatocellular carcinoma cell lines.	共著	2011年2月	Toxicol Lett. 200(3):154-61.
（論文）Involvement of p21waf1/cip1 expression in the cytotoxicity of the potent histone deacetylase inhibitor spiruchostatin B towards susceptible NALM-6 human B cell leukemia cells.	共著	2012年5月	Int J Oncol. 40(5):1391-6.
（論文）Characterization of cells resistant to the potent histone deacetylase inhibitor spiruchostatin B (SP-B) and effect of overexpressed p21waf1/cip1 on the SP-B resistance or susceptibility of human leukemia cells.	共著	2012年9月	Int J Oncol. 41(3):862-8.
（論文）Exogenous albumin inhibits sorafenib-induced cytotoxicity in human cancer cell lines.	共著	2013年1月	Mol Clin Oncol. 1(1):29-34.
（論文）Papuamine causes autophagy following the reduction of cell survival through mitochondrial damage and JNK activation in MCF-7 human breast cancer cells.	共著	2013年11月	Int J Oncol. 43(5):1413-9.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ヒト白血病細胞株における新規ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬spiruchostatin B (SP-B)による感受性と耐性に関するp21waf1/cip1の影響		平成25年・9月	日本薬理学会北部会
（演題名）ヒト白血病細胞NALM-6におけるCaffeic acid undecyle esterの殺細胞作用について（3）		平成26年・3月	日本薬学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
1984. 4～現在	日本薬理学会評議員
1998. 4～現在	医薬品相互作用研究会評議委員
1996. 4～現在	医薬品相互作用研究会理事
2001. 1～2005. 1	日本医療薬学会評議員
2005. 4～2007. 4	仙台市薬剤師会理事
2006. 4～現在	宮城県薬剤師会理事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 創薬化学教室	職名 教授	氏名 遠藤泰之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義で理解すべきチェック事項リストを初回の講義で示し、目標をはっきり示すよう工夫している。 質問はオフィスアワーにこだわらず、積極的に受け、理解を深めるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年1月15日 平成17年9月13日 平成17年1月21日 平成19年10月20日 各年度	スタンダード薬学シリーズ3化学系薬学Ⅰ化学物質の性質と反応(東京化学同人)(共著)SB058担当 スタンダード薬学シリーズ3化学系薬学Ⅱターゲット分子の合成と生体分子・医薬品の化学(東京化学同人)(共著)SB038, 39担当 スタンダード薬学シリーズ8医薬品の開発と生産(東京化学同人)(共著)SB025, 26担当 ベーシック薬学教科書シリーズ 創薬科学・医薬化学(化学同人)(共著)8, 9, 10章担当 プリント・パワーポイント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Novel Estrogen Receptor (ER) Modulators: Carbamate and Thiocarbamate Derivatives with m-Carborane Bisphenol Structure	共著	2009年	Bioorg. Med. Chem., 17: 7958-7963
Design and Synthesis of Potent Androgen Receptor (AR) Antagonists Bearing a p-Carborane Cage: Promising Ligand for Antiandrogen Withdrawal Syndrome	共著	2010年	J. Med. Chem., 53: 4917-4926
Boron Cluster-based Development of Potent Non-Secosteroidal Vitamin D Receptor Ligands: Direct Observation of Hydrophobic Interaction between Protein Surface and Carborane	共著	2011年	J. Am. Chem. Soc., 133: 20933-20941
Estrogenic Activity of B-Fluorinated o-Carborane-1,2-bisphenol Synthesized via SNAr Reaction	共著	2012年	Bioorg. Med. Chem. Lett. 22, 4728-4730
Enhanced estrogen receptor beta (ERβ) selectivity of fluorinated carborane-containing ER modulators	共著	2013年	Bioorg. Med. Chem. Lett. 23, 6555-6558
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
臭球摘出マウスの認知障害に対する新規化合物BE360の改善効果		2013年8月	第17回活性アミンに関するワークショップ
臭球摘出マウスのうつ様行動に対する新規化合物BE360の改善効果		2013年8月	生体機能と創薬シンポジウム2013

アダマンタンを疎水性骨格とするエストロゲン受容体リガンドの探索：疎水性構造の変換による活性制御	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
疎水性構造の変換によるジフェニルメタン誘導体のERサブタイプ選択性	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
キサンチンオキシダーゼ阻害活性を有するトリアジン誘導体	2013年11月	第31回メディシナルケミストリーシンポジウム
カルボラニルフェニルグリセロール誘導体におけるカルボラン環上炭素の位置異性と抗アンドロゲン活性の関係	2013年11月	第31回メディシナルケミストリーシンポジウム
新規キサンチンオキシダーゼ阻害剤の創製	2014年3月	日本薬学会第133年会
新規カルボラン含有ARアンタゴニストの開発：カルボラン環上炭素の位置異性と活性との関係	2014年3月	日本薬学会第133年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動

平成20年7月～平成21年6月	厚生労働省 第94回薬剤師国家試験委員会・委員長
平成20年4月～平成22年3月	文部科学省 大学設置・学校法人審議会大学設置分科会 薬学専門委員会委員
平成20年4月～平成22年3月	日本薬学会理事
平成22年4月～平成27年3月	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 研究代表者

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医薬情報科学教室	職名 教授	氏名 佐藤 憲一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義&(授業内での)実践的な演習を行うよう工夫している。 スタッフ(+TA)が演習中は巡回して個々にサポートして全員が習熟できるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		H21年3月 H25年4月 毎年度	「Windows Vistaによるコ・メディカルのための情報リテラシー」(共立出版)(共著)(1-3, 5-14章担当) 「Windows7によるコ・メディカルのための情報リテラシー」(共立出版)(共著)(1-3, 5-14章担当) Word, Excel, PP, PDF形式などのデジタル教材を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 医薬品相互作用研究, 34, 105-109, 2010 日本医療薬学会第21回年会		H22年12月 H23年10月	論文名: 東北薬科大学薬学部6年制実務実習進捗ネットワークツールの活用 演題: 初年度教育における大学間合同遠隔授業での学習支援システムを活用した取り組み
4 その他教育活動上特記すべき事項 相馬高等学校(出前講義) 福島県病院薬剤師会医療情報委員会学術講演会 福島西高等学校(出前講義)		H22年12月 H25年3月 H25年6月	演題「コ・メディカルのための情報リテラシーと薬剤師」 演題「医療現場における情報活用～医薬品情報のビジュアル化、最新のIT活用」 演題「薬学分野の紹介とインフォマティクスを用いた医療分野における情報科学的研究と臨床応用」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 抗菌薬サークル図データブック 第2版	共著	平成22年11月	じほう社
(著書) 薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方～病院・薬局に活かせる新しい取り組み	共著	平成25年12月	医薬ジャーナル社
(論文) Assisting the diagnosis of Graves' hyperthyroidism with Bayesian-type and SOM-type neural networks by making use of a set of three routine tests and their correlation with free T4	共著	平成22年1月	Biomed Pharmacother. vol. 64 No. 1
(論文) Assisting the diagnosis of overt hypothyroidism with pattern recognition methods making use of a set of routine tests, and their multiple correlation with total T4	共著	平成24年4月	Biomed Pharmacother. vol. 66 No. 3
(論文) 複数の基本的検査を組み合わせて甲状腺機能異常を発見する診断支援ツールの改良—心拍数と服薬補正を加えた予測モデル	共著	平成24年6月	日本人間ドック学会研究誌 27巻
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 血液の基本的検査データからクッシング症候群を予測する診断支援システム～術後のステロイド補充と副腎皮質機能低下症の解析		H25年4月	日本内分泌学会
(演題名) 複数の基本的検査項目セットによる甲状腺機能異常症の診断支援～東北公済病院におけるスクリーニング結果と検査値時系列解析の試み		H25年11月	日本甲状腺学会
III 学会および社会における主な活動			
H21.4～H24.3	私立大学情報教育協会IT活用委員会(薬学分野)委員		
H24.6～	薬学共用試験統括委員会委員		
H23.4～	宮城県薬剤師会ICT委員		
H25.2～H27.1	日本薬学会代議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名 教授	氏名 大野 勲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>教育内容のup-to-date (最新の知見を教授する)</p> <p>授業内容の基礎となる関連科目との連続性・整合性を保つために、関連科目の授業内容やプリントを参考にプリントを作成し授業する</p> <p>授業中の集中力を継続させるため、能動的な授業参加のために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な字句は空欄とし、授業中に記入させる ・質問を投げかける <p>復習のために、プリントの最後に練習問題を追記</p> <p>授業アンケートを実施し、学生達の意見を参考に授業の内容や進め方を改善している</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年3月 毎年度	<p>やさしい臨床医学テキスト (薬事日報社) (共著、編集) (第5章担当)</p> <p>プリント、PBLシナリオ、パワーポイント作成</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第134年会		2014年3月28日	PBLチュートリアルの実施時期と実務実習の関連性について
日本薬学会第134年会		2014年3月28日	5年次PBLチュートリアルにおけるプレゼンテーション力の習得についてー形式的ピア評価と自己評価を基にー
4 その他教育活動上特記すべき事項			
みやぎ薬剤師学術研修会 (講演)		2009年5月16日	地域医療における薬剤師と医師の連携について～現状と課題～
第2回神戸薬科大学シンポジウムー薬剤師はバイタルサインを薬物治療にどのように活かすか (講演)		2009年7月26日	バイタルサインと薬剤師業務ー薬学における医師の立場からー
保険薬局研究会オープンセミナー (講演)		2009年8月23日	地域医療における薬剤師と医師の連携についてー現状と課題ー
「今、薬剤師に求められるフィジカルアセスメント!!」 (講演)		2010年2月27日	フィジカルアセスメントの実施～薬剤師教育に携わる医師の立場から～
「今、薬剤師に求められるフィジカルアセスメント!!」 (講演)		2010年2月28日	フィジカルアセスメントの実施～薬剤師教育に携わる医師の立場から～
秋田県立横手高等学校出前授業		2010年9月1日	病気とくすりー気管支喘息を例にー
仙台COPDの会 (講演)		2010年11月19日	医師と薬剤師による地域医療連携の現状
第60回日本アレルギー学会秋季学術大会 (講演)		2010年11月27日	アレルギー診療におけるチーム医療を目指して：医師と薬局薬剤師による地域医療連携の現状とあり方
ドクターサーチみやぎ健康セミナー (講演)		2011年2月13日	アレルギーと花粉症. 「アレルギーについて」
平成22年度新しい業務展開に向けた特別委員会主催研修会 (講演)		2011年8月20日	『フィジカルアセスメントの実際』 『意識レベル』 『呼吸』
平成22年度新しい業務展開に向けた特別委員会主催研修会 (講演)		2011年8月21日	『フィジカルアセスメントの実際』 『意識レベル』 『呼吸』
日本病院薬剤師会第一回東北ブロック学術大会 (講演)		2011年11月26日	シンポジウム3 『チーム医療および薬業連携における薬学的介入の実践』 患者情報を活用した薬学的管理の実践を目指して
第28回褥創治療薬サミット (講演)		2011年12月3日	シンポジウム 『褥創のチーム医療に薬剤師としてどう関わるか? その関わり方と役割について』 医政局長通知に基づく薬剤師の関わり
ドクターサーチみやぎ健康セミナー (講演)		2012年2月11日	花粉症と小児喘息
青森県薬剤師研究会 (講演)		2012年9月22日	再考：医薬品適正使用のための薬剤師の役割-患者をみる
宮城県仙台向山高等学校アカデミック・インターンシップ		2013年9月3日	気管支喘息の病態と治療

宮城県仙台向山高等学校出前授業	2013年10月29日	病気とくすりー気管支喘息を例にー	
地域における医薬連携シンポジウム（講演）	2014年10月19日	地域における医薬情報交換の現状とあり方	
輸液栄養講演会（講演）	2014年2月8日	薬剤師に求められるフィジカルアセスメント	
宮城県仙台二華中学校スタディーツアー	2014年7月11日	気管支喘息とは	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Allergic airway hyperresponsiveness, inflammation, and remodeling do not develop in phosphoinositide 3-kinase gamma-deficient mice	共著	2009	J Allergy Clin Immunol. Vol.123
The involvement of μ -opioid receptors in the central nervous system in the worsening of allergic airway inflammation by psychological stress in mice	共著	2010	Int Arch Allergy Immunol vol.152
CD4 and CD8 T cells require different membrane gangliosides for activation	共著	2012	Proc Natl Acad Sci USA vol.109
μ -opioid receptor-mediated alterations of allergen-induced immune responses of bronchial lymph node cells in a murine model of stress asthma	共著	2012	Allergol Int vol.61
The involvement of glucocorticoids in psychological stress-induced exacerbations of experimental allergic asthma	共著	2014	Int Arch Allergy Immunol vol.163
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
精神的ストレスによるアレルギー性気道炎症の悪化における中枢神経性1型ヒスタミン受容体の関与		2013・4月	第53回日本呼吸器学会学術講演会
喘息病態における抗原特異的Th2サイトカイン産生の性差		2013・4月	第53回日本呼吸器学会学術講演会
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息発症		2013・5月	第25回日本アレルギー学会春季学術大会
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD4+TおよびCD8+T細胞の関与		2013・5月	第25回日本アレルギー学会春季学術大会
内臓肥満と気管支喘息増悪の関係 - マウスモデルを用いた検討 -		2013・5月	第25回日本アレルギー学会春季学術大会
中枢性1型ヒスタミン受容体を介した精神的ストレスによる気管支喘息悪化		2013・5月	第25回日本アレルギー学会春季学術大会
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症		2013・5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
精神的ストレスによるアレルギー性気道炎症の悪化における中枢神経系1型ヒスタミン受容体の関与		2013・5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD4+TおよびCD8+T細胞の関与		2013・5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症		2013・6月	アレルギー・好酸球研究会2013
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD4+TおよびCD8+T細胞の関与		2013・6月	アレルギー・好酸球研究会2013
The involvement of H1 receptors in the central nervous system in psychological stress-induced asthma exacerbation		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
Contribution of CD4+ T cells and dendritic cells to female-dominant antigen-induced Th2 cytokine production by bronchial lymph node cells		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
The contribution of CD4+ T and CD8+ T cells to sex differences in allergic airway inflammation		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
Respiratory tolerance is inhibited by the exposure to psychological stress in mice		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
Impact of obesity and glucose intolerance on allergic airways inflammation in a murine asthma model		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
The effects of psychological stress on asthma exacerbations		2013・6月	The 23rd Congress of Interasma Japan / North Asia
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症		2013・7月	第47回東北アレルギー懇話会
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD8+T細胞の関与		2013・10月	第52回日本薬学会東北支部大会
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息病態の発症		2013・10月	第52回日本薬学会東北支部大会
気管支喘息におけるストレス誘発性気道炎症の悪化に対する中枢性ヒスタミン受容体の関与		2013・11月	第17回日本ヒスタミン学会

免疫寛容に対する精神的ストレスの影響と喘息の病態発症	2013・11月	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会
中枢神経系1型および2型ヒスタミン受容体を介した精神的ストレスによるアレルギー性気道炎症の悪化	2013・11月	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会
Possible roles for CD4+ T cells and CD8+ T cells in sex differences in Th2 cytokine-mediated allergic airway inflammation	2013・12月	第42回日本免疫学会学術集会
T細胞分化制御機構におけるスフィンゴ糖脂質発言の意義	2014・2月	第一回糖鎖免疫学術集会 Glycoimmunology 2014
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症	2014・4月	第54回日本呼吸器学会学術講演会
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD8+T細胞の関与	2014・4月	第54回日本呼吸器学会学術講演会
アレルギー性気道炎症におけるCD8+T細胞の関与	2014・5月	第26回日本アレルギー学会春期臨床大会
喘息の病態発症と精神的ストレスによる免疫寛容の抑制	2014・5月	第26回日本アレルギー学会春期臨床大会
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD8陽性T細胞の関与	2014・6月	平成26年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息発症の感受性増大	2014・6月	平成26年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
肺炎球菌に対する防御機構とワクチン	2014・7月	第25回日本生体防御学会学術総会
アレルギー性気道炎症の性差におけるCD4+T細胞ならびにCD8+T細胞の役割	2014・7月	第48回東北アレルギー懇話会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成8年度～	東北感染症研究会世話人	
平成8年度～	南東北化学療法シンポジウム世話人	
平成9年度～	日本アレルギー学会代議員	
平成14年度～	東北臨床感染症研究会世話人	
平成15～21年度	せんだい医薬連携セミナー代表幹事	
平成16年度～	アレルギー・好酸球研究会幹事	
平成18年度～	アレルギー協会東北支部評議員	
平成21年度～	東北心不全協議会倫理委員	
平成21年度	厚生労働省医道審議会薬剤師分科会委員	
平成21～23年度	日本病院薬剤師会新しい業務委員会委員	
平成23年度～	日本ヒスタミン学会世話人	
平成23年度～	東北喘息・COPDフォーラム幹事	
平成24年度～	東北大学病院卒後研修センター研修管理委員会委員	
平成24年8月1日～平成26年7月31日	宮城県立精神医療センター倫理審査委員会委員	
平成25年度～	呼吸器疾患・感染症研究会幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医薬合成化学教室	職名 教授	氏名 加藤 正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			毎年2回行われる授業アンケートの結果をもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。「対話型授業」「学生参加型授業」を取り入れて、授業に対する学生の理解度の向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年3月 毎年度	基礎有機化学問題集(廣川書店)(共著)(第14章担当) 授業プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 仙台南高等学校 (出前講義) 仙台二華高等学校 (出前講義)		平成22年7月9日 平成25年5月8日	高校生のための薬学への招待 高校生のための薬学への招待
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)天然物の全合成: 2000~2008 (日本)	共著	2009	化学同人, p. 163-164 and p. 200-201
(著書)Studies in Natural Products Chemistry	共著	2014	Elsevier, Vol. 43, p. 1-39
(論文)Total Synthesis of (+)-Stachyflin: A Potential Anti-Influenza A Virus Agent	共著	2010	Chem. Commun., Vol. 46, p. 40 55-4057
(論文)Total Synthesis of Bicyclic Depsipeptides Spiruchostatins C and D and Investigation of Their Histone Deacetylase Inhibitory and Antiproliferation Activities	共著	2013	Eur. J. Med. Chem., Vol. 60, p. 295-304
(論文)Enantioselective Total Synthesis of Dysidavarone A, a Novel Sesquiterpenoid Quinone from the Marine Sponge Dysidea avara	共著	2014	Chem. Eur. J., Vol. 20, p. 243 6-2439
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
サブタイプ選択的な HDAC アッセイ系を用いた bicyclic depsipeptide HDAC 阻害剤のサブタイプ選択性の評価		2014・5	化学療法基盤支援活動第3 回シンポジウム
膠芽腫治療薬の創製を指向したセスキテルペンキノンおよびセスキテルペンベンゾキサゾール類の合成研究		2014・6	平成26年度東北薬科大学創 薬研究センターシンポジウ ム
in vitro および in vivo における PI3K/HDAC 2重阻害剤としての FK228 類縁体の抗腫瘍効果の評価		2014・6	第18回日本がん分子標的治 療学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月~平成22年3月	日本薬学会東北支部 役員		
平成21年4月~平成24年3月	有機合成化学協会東北支部 幹事		
平成21年4月~現在	東北大学ナノテク融合技術支援センター 課題審査委員会委員		
平成21年4月~現在	日本国際賞受賞候補者推薦委員		
平成21年4月~現在	日本学術振興会科学研究費審査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 物理学教室	教授	氏名 原田 邦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			高等学校での未履修者が約半数いることを考慮して、講義と平行して演習を隔週で実施している。また、学期中間地点での実態把握を目的として中間試験を実施し、丁寧な解答解説を行っている。さらには、定期試験においても、不合格者に対する解答解説を行っている。このようなサポート学習の機会を設けることにより、未履修者への対応が機能している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	前・後期演習用プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
一般教育研究(5) -第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会-	共著	2009年3月1日	東北薬科大学 一般教育関係論集 22
いつ物理学の学力が低下し始めたか? -入学時における物理学の基礎学力の動向-	単著	2011年3月1日	東北薬科大学 一般教育関係論集 24
超対称ゲージ理論における軸性異常項(1) -定式化と計算結果の提示-	単著	2012年3月1日	東北薬科大学 一般教育関係論集 26
超対称ゲージ理論におけるカイラル異常項(2)	単著	2013年3月1日	東北薬科大学 一般教育関係論集 27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 哲学教室	職名 教授	氏名 渡辺義嗣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ケーススタディの導入 演習形式の導入 アンケートの実施		毎年 毎年 随時	倫理学ではケーススタディ、論理学では演習形式による学習法を取り入れている。 アンケートの結果については、有益な意見のみを参考にしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 (教科書) ケーススタディによる薬剤師の倫理 (教科書) 薬学と社会 (参考書) 薬剤師のモラルディレンマ (参考書) 薬学生のための医療倫理 プリント作成		2010. 3. 2004. 9. 2010. 2. 2010. 7. 毎年度	共立出版 共立出版 南山堂 編著 丸善 共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 いわき明星大学薬学セミナー (講演)		2010. 7	演題 「薬剤師と倫理」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 薬剤師のモラルディレンマ	編著	2010. 2.	南山堂
(著書) ケーススタディによる薬剤師の倫理	単訳	2010. 3.	共立出版
(著書) 薬学生のための医療倫理	共著	2010. 7.	丸善
(著書) 薬の小箱	共著	2011. 3.	南山堂
(著書) 健康とは何か (改訂第2版)	単訳	2011. 4.	共立出版
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
日本高等教育評価機構	評価員	2010年度調査実施	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名	数学教室	教授 棚橋 浩太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートなどをもとに、わかりやすい講義を行うよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) On extensions of some Fuglede-Putnam type Theorems involving (p, k) -quasihyponormal, spectral, and dominant operators	共著	2009	Mathematische Nachrichten (282)
(論文) SVEP and Bishop's property for k^* -paranormal operators	共著	2011	Operators and Matrices (5)
(論文) The single valued extension property for hereditarily normaloid operators	共著	2012	Scientiae Mathematicae Japonicae online e-2012
(論文) Invertible weighted shift operators which are m -isometries	共著	2013	Proceedings of American Mathematical Society (141)
(論文) On polynomially k^* -paranormal operators	共著	2013	Functional Analysis, Approximation and Computation (5)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月から27年3月	国際数理科学協会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 天然物化学教室	職名 教授	氏名 浪越 通夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>パワーポイントで行った講義の内容を、毎回、PDFファイルにして研究室のホームページで公開し、復習の便を図っている。</p> <p>講義内容に関連する薬剤師国家試験問題の解説、各章の演習問題の解説を行い、その内容をホームページでも公開している。</p> <p>授業アンケートでの指摘事項をもとに、分かりやすい講義を行うように、毎年新たに工夫をしている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		<p>毎年度</p> <p>毎年度</p>	<p>自著の「東北薬科大学薬学部薬学科のための天然物化学」を教科書として印刷、製本し、配付している。新しい知見や日本薬局方の改訂、追加に合わせて、毎年度改訂・加筆を行っている。</p> <p>薬剤師国家試験問題（授業内容と関連する問題）、各章の演習問題、およびこれらの解答例のプリントを配付。パワーポイントの作成並びにそのプリントアウトを配付。</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
生涯教育講演会（講演）		平成21年5月30日	「医薬探索資源としてのホヤ由来アルカロイド」
元気・健康フェスティバル（講演）		平成22年2月28日	「くすりの探索最前線」
高大連携事業（公開講義）		平成23年8月20日	「くすりの探索研究における論理性」
安積黎明高等学校（出前講義）		平成23年12月7日	「生物の生態の化学とくすりの探索」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Two new Tryptamine Derivatives, Leptoclinidamide and (-)-Leptoclinidamine B, from an Indonesian Ascidian <i>Leptoclinides dubius</i> .	共著	平成24年	Marine Drugs, vol. 10
A New Dibenz[b, e]oxepine Derivative, 1-Hydroxy-10-Methoxy-Dibenz[b, e]oxepin-6, 11-dione, from a Marine-derived Fungus <i>Beauveria bassiana</i> TPU942.	共著	平成24年	Marine Drugs, vol. 10
Euryspongins A-C, Three New Unique Sesquiterpenes from a Marine Sponge <i>Euryspongia</i> sp.	共著	平成25年	Bioorganic and Medicinal Chemistry Letters, vol. 23
Papuamine and haliclonadamine, obtained from an Indonesian sponge <i>Haliclona</i> sp., inhibited cell proliferation of human cancer cell lines.	共著	平成25年	Natural Products Research, vol. 27
A Polybromodiphenyl Ether from an Indonesian Marine Sponge <i>Lamellodysidea herbacea</i> and its Chemical Derivatives Inhibit Protein Tyrosine Phosphatase 1B, an Important Target for Diabetes Treatment.	共著	平成25年	Journal of Natural Medicines, vol. 67
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

ヒトデの自切におけるキサントンの影響	平成25年3月	日本薬学会第134年会
肝がん細胞株から産生するインターロイキン8への天然物の効果	平成25年3月	日本薬学会第134年会
パラオ産海洋糸状菌 <i>Trichoderma</i> sp. から単離した epipolythiodiketopiperazine 類の抗結核活性	平成25年3月	日本薬学会第134年会
青森県で採集した水圏由来糸状菌からの protein tyrosine phosphatase 1B 阻害剤の探索	平成25年3月	日本薬学会第134年会
巻貝コナガニシに付着するカイメンが含有するヒトデ摂餌忌避物質	平成26年6月	化学生態学研究会
インドネシア産海洋生物資源から単離した新規 PTP1B 阻害物質の構造と生物活性	平成26年10月	天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年8月～平成24年7月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員	
平成24年7月～平成25年3月	日本学術振興会国際事業委員会書面評価員	
平成25年2月～平成27年1月	日本薬学会代議員	
平成25年4月～平成27年3月	日本薬学会東北支部幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名	機能病態分子学教室	職名 教授 氏名 井ノ口仁一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績			概要
1 教育内容・方法の工夫 双方向型授業の展開			1回前の授業の要点を学生に解説後、直接質問し、双方向型授業を展開し、学習記憶の定着を計っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成18、20、22、25年	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 白石高校（出前講義） 秋田県湯沢高校（出前講義） 秋田県本庄情高校（出前講義） 仙台市育英高等学校（出前講義） 利府高等学校（出前講義） 二華中学校（スタディーツアー） 宮城野高等学校（出前講義）		(FDを含む) 平成20年6月 平成20年9月 平成21年9月 平成22年10月 平成23年6月 平成25年7月 平成26年5月	演題「生活習慣病の病態を細胞膜から探る」 演題「糖尿病の発症メカニズムの解明と新しい治療法の開発」 演題「2型糖尿病の新しい治療法の開発を目指して」 演題「2型糖尿病の新しい治療法の開発を目指して」 演題「生活習慣病の病態を細胞膜から探る」 演題「2型糖尿病の新しい治療法マイクロドメイン矯正療法」 演題「学問の世界」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）GM3 and Diabetes	単著	2014	Glycoconj. J. 31:193-197.
（論文）CD4 and CD8 T cells require different membrane gangliosides for activation.	共著	2012	Proc. Natl. Acad. Sci. USA 109. E336-E342
（論文）Physiopathological function of hematoside (GM3 ganglioside)	単著	2011	Proc. Jpn. Acad., Ser. B. 87, 179-198
（論文）The Cytoplasmic tail of GM3 synthase defines its subcellular localization, stability, and in vivo activity.	共著	2009	Mol. Biol. Cell 20, 3088-3100
（論文）Mice lacking ganglioside GM3 synthase exhibit complete hearing loss due to selective degeneration of the organ of Corti.	共著	2009	Proc. Natl. Acad. Sci. USA 106, 9483-9488
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ガングリオシドGM3は蝸牛有毛細胞の構造と機能維持に必須である。		2014年・8月	第33回日本糖質学会
0-GlcNAc修飾によるスフィンゴ糖脂質代謝制御機構。		2014年・8月	第33回日本糖質学会
筋分化過程におけるスフィンゴ糖脂質の発現		2014年・8月	第33回日本糖質学会
マクロファージは内臓脂肪細胞のスフィンゴ糖脂質発現を制御し、脂肪細胞の生理的分化成熟と肥満によるインスリン抵抗性を制御している		2014年・6月	第56回日本脂質生化学会
T細胞の分化制御および免疫疾患におけるスフィンゴ糖脂質の発現の意義		2014年・2月	糖鎖免疫シンポジウム
GM3 and Diabetes.		2014年・1月	Gordon Research Conference on Glycolipid and Sphingolipid, Ventura, CA.
Distinct expression profile of sphingolipid species during T cell development.		2013年・12月	2013年度日本免疫学会総会
生体恒常性の破綻とスフィンゴ糖脂代謝		2013年・10月	第11回日本糖質科学コンソーシアムシンポジウム (JCGG)

G M 3 合成酵素欠損マウスの聴覚障害発症機序	2013年・9月	第7回東北糖鎖研究会
筋分化過程におけるスフィンゴ糖脂質発現変化とその意義	2013年・9月	第7回東北糖鎖研究会
T細胞の分化成熟におけるスフィンゴ脂質の発現と機能的役割	2013年・9月	第7回東北糖鎖研究会
CD4 and CD8T cells require different gangliosides for activation.	2013年・9月	The 54nd International Conference on Bioscience of Lipids
炎症性シグナルメディエーターとしてのガングリオシドの脂肪組織、視床下部および免疫疾患における病態生理学的意義	2013年・9月	第86回日本生化学会大会
マクロファージは内臓脂肪細胞のガングリオシド発現量を支配し、脂肪細胞の分化成熟とインスリン抵抗性を制御している	2013年・8月	第32回日本糖質学会年会
聴覚におけるガングリオシドの役割。	2013年・6月	第55回日本脂質生化学会
CD4 and CD8T cells require different gangliosides for activation.	2013年・3月	The 14th International Membrane Research Forum.
Lipids in Metabolic Syndrome.	2013年・2月	
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成18年～	日本生化学会評議委員	
平成19年～	日本糖質学会評議委員	
平成22年～	日本脂質生化学会幹事	
平成23年～	日本糖質科学コンソーシアム幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 環境衛生学教室	職名 教授	氏名 永田清
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 授業終了後にミニ試験を行い、重要な点を認識させている 成績が振るわないものは、レポートを提出させ、理解できるまで何度も口頭試問を行い、知識の向上を図っている			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 積極的に質問を受け付け、考察を深めるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年2月 平成21年2月 平成22年3月 平成25年2月 平成25年8月 平成25年7月	「予防医学としての衛生薬学」(広川書店)(共著)(第12章担当) 「薬物代謝学(第3版)医療薬学・医薬品開発の基礎として」(東京化学同人)(第5章担当) 「New 医薬品安全性学」(広川書店)(共著)(第4章担当) 「考える衛生薬学」(東京化学同人書店)(共著)(第7章担当) 「図解 薬害 副作用学」(南山堂書店)(共著)(第1章担当) 「血症の診断/治療の実情と病態・メカニズムをふまえた開発戦略」(技術情報協会)(共著)(第1章担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 宮城労働協会 特定化学物質四アルキル鉛等作業主任技能講師 第11回健康食品講座(神戸薬科大学主催) 第25回地域医療懇談会(宮城県保険医協会)		毎年 平成26年3月1日 平成26年5月27日	演題「知っておきたいサプリメントの知識」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Drug Metabolism Catalyzed by Cytochrome P450.	共著	2009	<i>Folia Pharmacol. Jpn.</i> 134,146-148
Unveiling a new essential cis-element for the transactivation of the CYP3A4 gene by xenobiotics.	共著	2009	<i>Mol Pharmacol.</i> 75, 677-684
Simultaneous expression of plural forms of human cytochrome P450 at desired ratios in HepG2 cells: adenovirus-mediated tool for cytochrome P450 reconstitution.	共著	2009	<i>Drug Metab Pharmacokinet.</i> 24,209-217.
Involvement of Vitamin D receptor in the intestinal induction of human ABCB1.	共著	2009	<i>Drug Metab Dispos.</i> 7, 1604-1610
Malondialdehyde-modified low density lipoprotein (MDA-LDL)-induced cell growth was suppressed by polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs).	共著	2010	<i>J. Toxicol. Sci.</i> 35, 137-147
Functional characterization of genetic polymorphisms identified in the promoter region of the xanthine oxidase gene.	共著	2010	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> , 599-603

Progression of Alcoholic and Non-alcoholic Steatohepatitis: Common Metabolic Aspects of Innate Immune System and Oxidative Stress.	共著	2011	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 26, 30-46
Tumor Necrosis Factor-Alpha-Nuclear Factor-Kappa B-Signaling Enhances St2b2 Expression during 12-O-Tetradecanoylphorbol-13-acetate-Induced Epidermal Hyperplasia.	共著	2011	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 34, 183-190
Association between Cancer Risk and Drug-metabolizing Enzyme Gene (CYP2A6, CYP2A13, CYP4B1, SULT1A1, GSTM1, and GSTT1) Polymorphisms in Cases of Lung Cancer in Japan.	共著	2011	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 26, 516-522
Polycyclic Aromatic Hydrocarbons Activate CYP3A4 Gene Transcription through Human Pregnane X Receptor.	共著	2011	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 27, 200-206
Effects of Hypoxia-inducible Factor-1 α Chemical Stabilizer, CoCl ₂ and Hypoxia on Gene Expression of CYP3As in Human Fetal Liver Cells.	共著	2012	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 27, 398-404
Mechanisms of CYP3A Induction by Glucocorticoids in Human Fetal Liver Cells.	共著	2012	<i>Drug Metab Pharmacokinet.</i> 27, 653-657
TNF- α /actinomycin D-mediated Hepg2 cells in the presence of iron as a model of hepatocyte injury.	共著	2012	J ohoku Pharm Univ.59, 67-74,
Hepatocyte nuclear factor 6 activates the transcription of CYP3A4 in hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.	共著	2013	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 28,250-259
Alteration of the function of the UDP-glucuronosyltransferase 1A subfamily by cytochrome P450 3A4: different susceptibility for UGT isoforms and UGT1A1/7 variants.	共著	2014	<i>Drug Metab Dispo</i> ,42, 229-238
Differentiation of human induced pluripotent stem cells into functional enterocyte-like cells using a simple method.	共著	2014	<i>Drug Metab Pharmacokinet</i> ,29, 44-51
An efficient method for differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells retaining drug metabolizing activity.	共著	2014	<i>Drug Metab Pharmacokinet.</i> 29, 237-243
Histone deacetylase inhibitor valproic Acid promotes the differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells.	共著	2014	PLoS One.
調剤薬局来局者を対象とした健康食品の使用実態調査とその情報に基づいたCYP2D6活性阻害評価	共著	2014	医療薬学、40(印刷中)
健康食品と医薬品の併用は薬物相互作用をおこす？	共著	2014	医薬品相互作用研究、38(印刷中)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
CYP3A4転写活性に影響を与えるFBS中成分の同定		2010年10月	第49回日本薬学会東北支部大会、福島
MRP3における新規転写誘導機構の解明		2010年10月	第49回日本薬学会東北支部大会、福島
iPS細胞を用いた肝分化誘導法の検討		2011年10月	第50回記念日本薬学会東北支部大会、仙台
板藍根によるCYP3A4活性誘導の検討		2011年10月	第50回記念日本薬学会東北支部大会、仙台
凍結P450発現アデノウイルス感染細胞を用いた薬物代謝評価系の構築		2011年10月	第50回記念日本薬学会東北支部大会、仙台
Hepatocyte nuclear factor-6 enhances expression of CYP3A4 in HepG2 cells and hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.		November, 2011.	26th JSSX annual meeting, Hiroshima.
Indirubin, a component of Ban-Lan-Gen, activates CYP3A4 gene transcription through human pregnane X receptor.		November, 2011.	26th JSSX annual meeting, Hiroshima.

In vitroでの酸化ストレスモデルとしての鉄存在下actinomycinDによるTNF- α 誘導肝細胞障害の構築とNOの影響	2012年3月	日本薬学会第132年会、札幌
Enhanced expression of Cytochrome P450 genes by hepatocyte nuclear factor-6 in hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.	July, 2012.	19 th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations, 12 th European Regional ISSX Meeting, Netherlands.
健康食品と医薬品における薬物相互作用解明を目指した健康食品使用実態調査	2012年7月	医療薬学フォーラム2012 第20回クリニカルファーマシーシンポジウム、福岡
microRNA導入による肝薬物代謝酵素発現への影響	2012年10月	第51回日本薬学会東北支部大会、青森
HNF6導入時期による肝分化iPS細胞の薬物代謝酵素発現への影響	2012年10月	第51回日本薬学会東北支部大会、青森
健康食品によるシトクロムP450活性阻害の検討	2012年10月	第51回日本薬学会東北支部大会、青森
健康食品によるCYP3A4遺伝子発現誘導の検討	2012年10月	第51回日本薬学会東北支部大会、青森
Identification of a novel transactivation mechanism of the MRP3 gene.	November, 2012.	27 th, JSSX annual meeting, Tokyo.
MicroRNA enhances the expression of CYP genes in HepG2 cells and hepatocyte-like cells differentiated from human induced pluripotent stem cells.	November, 2012.	27 th, JSSX annual meeting, Tokyo.
Hepatic differentiation of human induced pluripotent stem cells by using factors involved in liver function and development.	2013年2月	International Symposium for Neurosciences 2013、仙台
健康食品によるCYP1A1/1A2遺伝子発現誘導の検討	2013年3月	日本薬学会第133年会、横浜
HepG2細胞を用いた鉄存在下actinomycin DによるTNF- α 誘導肝細胞死に対するNOの防御効果とHO-1の関与	2013年3月	日本薬学会第133年会、横浜
多環芳香族炭化水素によるCYP2D6およびCYP3A4の発現調節機構の解析	2013年6月	2013年度P450、UGT、SULT研究会、宮崎
肝分化iPS細胞へのLETf同時導入によるCYP3A4発現影響	2013年6月	2013年度P450、UGT、SULT研究会、宮崎
CYP3A4遺伝子発現誘導に及ぼす健康食品の影響	2013年9月	フォーラム2013衛生薬学・環境トキシコロジー、福岡
新規P450活性阻害実験系の開発と健康食品による薬物代謝活性阻害評価	2013年9月	フォーラム2013衛生薬学・環境トキシコロジー、福岡
CYP2D6活性阻害評価系の構築と健康食品の使用実態調査に基づいた薬物相互作用の解析	2013年9月	第23回日本医療薬学会年会、仙台
Effect of Ban-Lan-Gen on transactivation of the CYP1A1 and CYP1A2 genes.	October, 2014.	19 th ISSX/29 th JSSX annual meeting, Sanfrancisco.
Cyclin dependent kinase 1 involved in regulation of CYP2D6 expression.	October, 2014.	19 th ISSX/29 th JSSX annual meeting, Sanfrancisco.
A novel evaluation system for inhibition of CYP3A4 activity by dietary supplements.	October, 2014.	19 th ISSX/29 th JSSX annual meeting, Sanfrancisco.
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成15年4月～	日本薬物動態学会評議委員	
平成15年4月～	日本薬物動態学会評議委員Editorial Advisory Board	
平成17年4月～平成19年3月	日本毒性学会 Associate Editors	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生体膜情報学教室	職名 教授	氏名 東 秀好
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 積極的に質問を受け付け、考察を深めるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年10月 毎年度	「病理学実習ノート」(東北薬科大学) (共著) プリント、PowerPoint作製
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 秋田県立湯沢高校 (出前講義) 秋田県立湯沢高校 (出前講義) 山形県立鶴岡北高校 (出前講義)		H22. 9. 15 H23. 9. 14 H25. 6. 3	演題「糖とアミノ酸について」 演題「糖とアミノ酸について」 演題「糖について」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Intraplantar injection of gangliosides produces nociceptive behavior	共著	2011.02	Pain
(論文) Gangliosides stimulate bradykinin B2 receptors to promote calmodulin kinase	共著	2012.01	Journal of Biochemistry
(論文) Sialidase NEU4 hydrolyzes polysialic acids of neural cell adhesion	共著	2012.03	Biochemical and Biophysical Research Communications
(論文) Sialidase NEU4 hydrolyzes polysialic acids of neural cell adhesion	共著	2012.04	Journal of Biological Chemistry
(論文) Involvement of ganglioside GT1b in glutamate release from neuroblastoma cells	共著	2012.05	Neuroscience Letters
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 細胞外グルタミン酸レベルの調節を介したガングリオシドによる痛覚過敏		2014.03	薬理学会
(演題名) 糖脂質ガングリオシドによる痛覚過敏の惹起		2014.06	疼痛学会
III 学会および社会における主な活動			
H19年度～	日本生化学会評議員		
H19年度～	日本糖質学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 細胞制御学教室	職名 教授	氏名 顧 建国
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学生から以下のようなコメントがあった。一節一節、先生の説明が入るので分かりやすかった。また、生徒への質問も入っているので考えて勉強出来たため、頭に入りやすかった。		毎年度	授業アンケートを参考し、学生自身も考えるように講義・実習を行うよう工夫している。積極的に学生に質問を行い、授業に対する理解度を確認する。 最新の研究情報を提供して学生のモチベーションを高める。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリントとパワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) N-glycosylation of the I-like domain of beta1 integrin is essential for beta1 integrin expression and biological function: identification of the minimal N-glycosylation requirement for alpha5beta1.	共著	平成22年5月	J. Biol. Chem. 284:12207-16
(論文) α 1,6-Fucosyltransferase-deficient mice exhibit multiple behavioral abnormalities associated with a schizophrenia-like phenotype: importance of the balance between the dopamine and serotonin systems.	共著	平成23年5月	J. Biol. Chem. 286:18434-43
(論文) Roles of N-acetylglucosaminyltransferase III in epithelial-to-mesenchymal transition induced by TGF- β 1 in epithelial cell lines.	共著	平成24年5月	J. Biol. Chem. 287:16563-74
(論文) α 1,6-Fucosylation regulates neurite formation via the activin/phospho-Smad2 pathway in PC12 cells: the implicated dual effects of Fut8 for TGF- β /activin-mediated signaling.	共著	平成25年10月	FASEB J. 27:3947-58
(論文) An oncogenic protein Golgi phosphoprotein 3 up-regulates cell migration via sialylation.	共著	平成26年7月	J. Biol. Chem. 289:20694-705
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Impairment of long-term potential and aberrant complex formation of glutamate receptors in α 1,6-fucosyltransferase knockout mice.		平成26年1月	International Symposium on Glyco-neuroscience
Core Fucosylation Is Required for Hepatocarcinogenesis and Liver Regeneration.		平成26年6月	9th International Symposium on GlycoT
The importance of N-glycosylation and functional analysis of α 1,6-fucosyltransferase (Fut8) in liver and brain tissues		平成26年7月	Konkuk University Research Seminar(招待講演), 韓国

α 1,6フコース転移酵素 (Fut8) の発現による正負の機能制御	平成26年8月	第33回日本糖質学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成18年—現在至る	日本生化学学会の評議員	
平成18年—現在至る	日本糖質学会の評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬剤学教室	職名 教授	氏名 鈴木 常義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月～	1. 授業評価に基づき大きな見やすい文字でまとめた記載や図解をするよう工夫した。 2. 調剤やリスクマネジメントの授業では、実際の医療現場の具体的な改善等の写真をPPTにまとめて視覚的に理解できるように心がけた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月 毎年	「標準薬剤学」(南江堂)共著 (薬局製剤と病院製剤)担当 パワーポイント プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第10回東北地区認定実務実習指導薬剤師WS		平成20年6月21・22日	タスクフォース
第1回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師WS		平成20年7月12・13日	タスクフォース
第2回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師WS		平成20年8月23・24日	タスクフォース
第3回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師WS		平成21年6月13・14日	タスクフォース
第4回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師WS		平成22年9月11・12日	タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
石巻高等学校(出前講義)		平成23年7月22日	演題「薬学への招待」
仙台南高等学校(出前講義)		平成25年7月5日	演題「薬学への招待」
泉館山高等学校(出前講義)		平成26年10月24日	演題「薬学への招待」
岩手県薬剤師会病診研修会		平成21年2月5日	演題「薬学6年制の実務実習について」
青森県薬剤師会指導薬剤師研修会		平成26年4月13日	演題「実務実習概要—Webツール評価の考え方—」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of Correlation between Dissolution Rates of Loxoprofen Tablets and Their Surface Morphology Observed by Scanning Electron Microscope and Atomic Force Microscope	共著	2010年	Chem Pharm. Bull. 34-37
(論文) ロキソプロフェンナトリウム錠後発薬品の単回投与での臨床効果	共著	2010年4月	ペインクリニックVol. 131 p. 635-640
(論文) 東北薬科大学薬学部6年制実務実習進捗ネットワークツールの活用	共著	2010年12月1日	医薬品相互作用研究Vol. 34, No. 2 p. 47-51
(論文) Enhanced behavioral response to serotonin-related agonists in postweaning protein malnourished mice.	共著	2012年	Biol. Pharm. Bull., 35p. 1697-1702
(論文) Compatibility of Heparin Sodium in Intravenous Line with Nicardipine Injected from a Side Tube via T-shape Stopcock.	共著	2012年	Jap. J. Pharm. Health Care Sci., 38 p. 679-687

(著書) 標準薬剤学 改訂第3版	共著	2012年4月10日	南江堂
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年月	学会名
東日本大震災時の保険薬局の対応に関するアンケート調査		2013年9月	日本医療薬学会
PBLチュートリアルの実施時期と実務実習の関連性について		2014年3月	日本薬学会
5年次PBLチュートリアルにおけるプレゼンテーション力の習得について - 形成的評価と自己評価を基に -		2014年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成21年3月	日本薬剤師研修センターWS小委員会委員		
平成19年4月～現在に至る	日本薬剤師会薬学教育委員会委員		
平成20年4月～現在に至る	宮城県公害センター評議員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 実験動物センター	職名 教授	氏名 安藤隆一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年度	授業・実習目的、勉強方法の説明、受講時の反応、学内アンケートおよび試験結果をもとに、適宜、ストーリー性の有る理解し易い講義・実習を行うよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント集(実習は動画、パワーポイントも併用)を中心に講義を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
高大連携公開講義		平成21年8月21日	演題「医療の進歩と実験動物」
青森県青森東高校(出前講義)		平成21年10月9日	演題「辛い痛い? -カプサイシンの発痛作用」
宮城県三桜高等学校(出前講義)		平成22年11月9日	演題「医療の進歩と実験動物」
宮城県石巻高等学校(出前講義)		平成24年10月16日	演題「医療の進歩と実験動物」 「東北薬科大学の紹介」
秋田県能代高等学校(出前講義)		平成25年11月6日	演題「医療の進歩と実験動物」 「東北薬科大学の紹介」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 痛みの動物モデル-血管痛モデルについて-	単著	平成22年12月	東北薬科大学研究雑誌57号
(著書) 実験動物施設の震災対策	共著	平成23年11月	(株)アドスリー
(著書) 33年前の震災から教訓を生かして-免震構造によって守られた大学	共著	平成24年7月	日本生理学雑誌、第74巻、4号
(著書) 東北薬科大学実験動物センターの紹介	単著	平成24年9月	公私立大学実験動物施設協議会年報第19号
(著書) 震災時の対応と今後の課題	単著	平成25年9月	公私立大学実験動物施設協議会年報第20号
(著書) 大規模災害時におけるライフライン遮断時の対応と課題	共著	平成26年1月	日本実験動物技術者協会東北支部、日本実験動物技術者協会東北支部会報、第36号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 希釈微酸性次亜塩素酸水の動物飲用水への応用例		平成23年5月	第58回日本実験動物学会総会
(演題名) 東日本大震災を経験して-復旧までの対応と今後の対策		平成23年5月	日本実験動物技術者協会第45回全国総会
(演題名) 大規模震災におけるライフライン遮断時の対応と課題		平成23年11月	動物実験フォーラム in 福島
(演題名) 施設内環境における微生物モニタリングの意義		平成24年5月	日本実験動物技術者協会第46回全国総会

(演題名) 痛み評価の動物モデル	平成24年5月	第59回日本実験動物学会総会
(演題名) 施設内環境における微生物モニタリングの意義	平成26年5月	日本実験動物技術者協会第48回全国総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成5年4月～現在	日本薬理学会学術代議員	
平成7年4月～現在	東北動物実験研究会幹事	
平成13年4月～現在	公私立大学実験動物施設協議会役員 (組織制度検討委員会委員長)	
平成22年4月～現在	日本実験動物学会評議員	
平成25年4月～現在	日本薬学会代議員	
平成25年4月～同年6月	福島県医療産業CM業務委託審査委員会委員長	
平成25年11月～現在	(財)ふくしま医療機器産業推進機構動物実験委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 教授	氏名 中村 仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			「薬物療法学Ⅰ」では、授業の最初に前回の講義内容についての確認テストを実施、解説することで知識の定着を図っている。 「医薬品情報総論」では、情報科学センターを利用した演習を3回実施し、提出レポートの評価とフィードバックを行っている。 毎期授業アンケートを実施し、授業改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年4月 平成24年3月 平成26年1月	「医薬品情報学」(南山堂) 共著 (3章1~3担当) 「標準薬剤学」(南江堂) 共著 (Ⅳ章4担当) 「図解 医薬品情報学」(南山堂) 共著 (1章2、4担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会東北支部シンポジウム「6年制薬学教育を薬学生の視点に立って考える」 第3回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (東北薬科大学主催) 第4回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (東北薬科大学主催)		平成21年6月27日 平成21年6月13、14日 平成22年9月11、12日	演題「米国での薬剤師教育」 タスクフォース タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 福島県立安積黎明高等学校 (出前講義) 福島県立福島西高等学校 (出前講義) 宮城県立仙台南高等学校 (出前講義)		平成22年9月15日 平成24年6月13日 平成26年7月4日	演題「薬学への招待」 演題「医薬品情報を正しく理解しよう」 演題「医薬品情報を正しく理解しよう」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 医薬品の臨床検査値妨害に関する情報の調査	共著	平成24年3月	医薬品情報学 (13巻4号)
(論文) Involvement of peripheral cannabinoid and opioid receptors in β -caryophyllene-induced antinociception	共著	平成25年3月	Eur. J. Pain vol.17
(論文) Effects of repeated milnacipran and fluvoxamine treatment on mechanical allodynia in a mouse paclitaxel-induced neuropathic pain model	共著	平成25年4月	Biomed. Res vol.34 No.2
(論文) 救急医療と薬学教育に関するアンケート調査の解析	共著	平成25年11月	日本病院薬剤師会雑誌 (49巻11号)
(論文) Antinociceptive effects of the serotonin and noradrenaline reuptake inhibitors milnacipran and duloxetine on vincristine-induced neuropathic pain model in mice	共著	平成26年4月	ISRN Pain Article ID 915464
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬品の臨床検査値妨害に関する研究 ―尿試験紙法に及ぼす医薬品の影響―		平成26年3月	日本薬学会第134年会
(演題名) アロマテラピー精油局所投与によるパクリタキセル誘発性末梢神経障害性疼痛抑制効果の検討		平成26年6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム

(演題名) 抗うつ薬によるオキサリプラチン誘発性末梢神経障害抑制効果の検討	平成26年6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
(演題名) Lavender oil 局所投与による抗侵害作用の検討	平成26年6月	第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年4月～平成23年3月 平成24年4月～平成26年3月	宮城県登録販売者試験問題作成委員	
平成22年4月～平成23年3月	日本薬学会薬学教育改革大学人会議：薬学教育における実務実習のあり方検討委員会委員	
平成24年6月～平成26年3月	日本薬学会：薬学教育モデルコアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床分析化学教室	職名 教授	氏名 山下幸和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケート結果をもとに、理解しやすいように講義を工夫している。 演習問題を通して、理解しにくいところを補強している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年3月 2014年3月 毎年度	「パートナー分析化学II」(南江堂) (pp43-50、構造解析・概説) (編集:山口正俊、升島 努、能田 均) 「よくわかる薬学分析化学」(廣川書店) (編集:二村典行、大庭義史、山下幸和) プリント、演習問題(分析化学I、臨床分析化学)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			追再試験の前には、補講を行うようにしている
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)Development of novel proton affinitive derivative for simultaneous analysis of testosterone and dihydrotestosterone in human serum and prostate tissue by LC-ESI-MS/MS	共著	2012年	Testosterone: Biochemistry, Therapeutic Uses and Physiological Effects; Chapter VIII, 145-158, Nova Science Publisher Inc.
(論文) 18-Oxocortisol measurement in adrenal vein sampling as a biomarker for subclassifying primary aldosteronism	共著	2011年8月	J. Clin. Endocrinol. Metab., 96, E1272-1278
(論文) Aromatic polyketide glycosides from an enteropathogenic fungus, Cordyceps indigotica	共著	2012年1月	Tetrahedron Lett., 53, 277-280
(論文) Structure and biomimetic synthesis of novel a-pyrone polyketides of an endophytic penicillium sp. Catharanthus roses	共著	2013年3月	Org. Lett., 15, 1020-1023
(論文) An innovative LC-MS/MS-based method for determining CYP 17 and CYP 19 activity in the adipose tissue of pre- and postmenopausal and ovariectomized women using ¹³ C-labeled steroid substrates	共著	2014年4月	J. Clin. Endocrinol. Metab., 99, 1339-1347
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
LC-ESI-MS/MS法による3β-HSD活性評価を目的とした基礎的検討		2014年3月	日本薬学会第134年会
ツツジ科植物内生糸状菌を資源とした新規天然物の探索		2014年3月	日本薬学会第134年会
III 学会および社会における主な活動			

2012年4月～	宮城県薬事審議会委員
2013年4月～	日本分析化学会東北支部副支部長
2014年4月～	日本薬学会地東北支部支部長
2014年4月～	日本高等教育評価機構評価委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名	独語学教室	教授 山下 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			「ドイツ語」の授業ではドイツ文化の紹介にも力を入れ、学生の学習意欲が高まり視野が広がるような話題の提供を常に心がけている。 「総合文化研究」では生きる力となる真の教養を身に付けてもらえるよう、講義内容の吟味や提出物の添削指導に膨大な労力をつぎ込んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) スイスの歴史 スイス高校現代史教科書	共著(共訳)	2010年2月	明石書店
(著書) スイスを知るための60章	共著	2014年5月	明石書店
(論文) ドイツ・ロマン派とジェンダー はじめに	単著	2010年10月	東北ドイツ文学研究(53)
(論文) ローベルトとクララ	単著	2011年6月	日本独文学会、研究叢書074
(小文) ベッティーナとクララ・シューマン	単著	2010年5月	日本ゲーテ協会、ペリひて(51)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2005年5月～2010年10月	日本網膜色素変性症協会(JRPS) 宮城県支部役員		
2009年4月～2011年3月	東北ドイツ文学会委員		
2010年4月～2013年3月	スイス文学研究会幹事		
2011年3月～	名もない花たちの会代表(東日本大震災以降、6回以上慈善演奏会を企画・運営)		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 「I 教育活動」は、各項目ごとに

3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 保健管理センター	職名 教授	氏名 大河原 雄一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケートをもとに、分かりやすい講義資料を作成して、毎回配布している。 ・ 講義で使用する資料スライドは文字を大きくして、図や表、動画を多用して視覚的にも理解しやすいよう工夫している。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年10月 毎年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病理学実習ノート (共著) ・ プリント、パワーポイント 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
一関市医師会教育講演 (講演)	平成20年7月15日	演題「喘息治療の現状」	
医薬連携セミナー (講演)	平成21年2月7日	演題「気管支喘息の病態」	
市民公開講座 (講演)	平成21年3月19日	演題「喘息の長期管理における患者と医師のコミュニケーションの重要性」	
生涯教育講演会 (講演)	平成21年5月30日	演題「EBMからみた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 薬物治療の現状」	
宮城県立古川高校 (出前講義)	平成21年11月13日	演題「病気とくすり」	
市民公開講座 (講演)	平成24年11月17日	演題「ストレス社会における生活習慣病とアレルギー疾患 ―ストレス、肥満、喘息―」	
オープンキャンパス模擬講義 (講演)	平成25年8月3-4日	演題「病気の成り立ちとくすりの効果」	
宮城県薬剤師研修会 (講演・実習)	平成22年2月17-18日	演題「薬剤師のフィジカルアセスメントの基礎」	
宮城県薬剤師研修会 (講演・実習)	平成23年3月5-6日	演題「薬剤師のフィジカルアセスメントの基礎」	
宮城県薬剤師研修会 (講演・実習)	平成24年3月24-25日	演題「薬剤師のフィジカルアセスメントの基礎」	
八戸市薬剤師会研修会 (講演)	平成23年10月7日	演題「薬剤師に求められる フィジカル・アセスメント ―薬剤師のフィジカルアセスメントの基礎―」	
東青クリニカルファーマシーカンファランス (講演)	平成24年7月6日	演題「薬剤師に求められるフィジカルアセスメント」	
国立病院北海道東北ブロック薬剤師実習技能研修会 (講演・実習)	平成22年11月18-19日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック薬剤師実習技能研修会 (講演・実習)	平成23年9月15-16日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック薬剤師実習技能研修会 (講演・実習)	平成24年7月12-13日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック薬剤師実習技能研修会 (講演・実習)	平成25年7月11-12日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック薬剤師実習技能研修会 (講演・実習)	平成26年7月17-18日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック新採用研修会 (講演)	平成24年5月22日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	
国立病院北海道東北ブロック新採用研修会 (講演)	平成25年5月23日	演題「薬剤師におけるフィジカルアセスメントの必要性と重要性」	

復興大学（講義）	平成24年6月30日	演題 「復興のための生活構築学—いのちを救う—」	
復興大学（講義）	平成25年7月20日	演題 「復興のための生活構築学—いのちを救う—」	
復興大学（講義）	平成26年7月12日	演題 「復興のための生活構築学—いのちを救う—」	
復興大学市民講座（講演）	平成25年2月16日	演題 「復興のための生活構築学—いのちを救う—」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Bronchial thermoplasty	単著	平成21年5月	レスピレーションリサーチ ファンデーション、呼吸 （28巻5号）
（論文） 気道リモデリングは治療可能か？：ステロイド薬	共著	平成21年6月	科学評論社、呼吸器科 （15巻6号）
（論文） 喫煙の呼吸器・循環器に及ぼす影響—喫煙と喘息—	単著	平成21年10月	医学書院、呼吸と循環 （57巻10号）
（論文）Contribution of CD4+ T cells and dendritic cells to female-dominant antigen-induced T helper type 2 cytokine production by bronchial lymph node cells.	共著	平成25年5月	Int Arch Allergy Immunol. Vol. 161 Suppl 2
（論文） μ -opioid receptor-mediated alterations of allergen-induced immune responses of bronchial lymph node cells in a murine model of stress asthma.	共著	平成24年6月	Allergol Int. vol.61 No2
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） 内臓肥満と気管支喘息増悪の関係 —マウスモデルを用いた検討—		平成25年5月	第25回日本アレルギー学会 春季学術大会
（演題名）Impact of obesity and glucose intolerance on allergic airways inflammation in a murine asthma model.		平成25年6月	The 23rd Congress of Interasma Japan/North Asia
III 学会および社会における主な活動			
平成20年7月～現在	厚生労働省「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」 宮城県臨床立会医（アレルギー学会）		
平成24年4月～現在	復興大学講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 微生物学教室	職名	氏名 久下 周佐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業評価アンケートを基によりわかりやすい講義になるように工夫している。また、クリッカーを用いてリアルタイムに理解度を判定して解説を加えている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年1月 毎年度	スタンダード薬学シリーズ 日本薬学会編「健康と環境」第2版 (共著) 担当 第9章 感染症の現状とその予防 プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 利府高校模擬体験授業 高大連携授業に事業における公開講義 古川高校出張講義		2011年7月13日 2011年8月20日 2013年11月8日	演題「ウイルスを科学の目で知る-微生物と病気」 演題「微生物と病気」 演題「見えない脅威—病原微生物と向き合う」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) A major peroxiredoxin-induced activation of Yap1 transcription factor is mediated by reduction-sensitive disulfide bonds and reveals a low level of transcriptional activation.	共著	2009年2月	J Biol Chem. 2009 Feb 13;284(7):4464-72
(論文) Peroxiredoxin Ahp1 acts as a receptor for alkylhydroperoxides to induce disulfide bond formation in the Cad1 transcription factor.	共著	2010年4月	J Biol Chem. 2010 Apr 2;285(14):10597-604.
(論文) HSC90 is required for nascent hepatitis C virus core protein stability in yeast cells.	共著	2012年7月	FEBS Lett. 2012 Jul 30;586(16):2318-25
(論文) Requirement of peroxiredoxin on the stationary phase of yeast cell growth.	共著	2014年1月	J Toxicol Sci. 2014;39(1):51-8.
(著書) 活性酸素のセンサー	共著	2014年2月	東京大学出版、毒性の科学
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A Novel Mammalian System for Hydroperoxide Sensing that Induces Phosphorylation of eIF2a and Cell Growth Under Restrictive Conditions		2014年7月	Thiol-Based Redox Regulation & Signaling (Gordon Research Conference) Gordon Research Conference
ペルオキシレドキシンによるピルビン酸キナーゼの活性制御は代謝変化および酸化ストレス応答に寄与する		2014年10月	第87回 日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本薬学会 環境衛生部会 関連法規情報委員会		

2011年4月～2014年3月	日本薬学会学術編集委員、BPBエディター
2013年～現在	日本生化学会 東北支部会 評議委員
2014年4月～	日本生化学会 JB編集委員会 編集委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 感染生体防御学教室	職名 教授	氏名 柴田 信之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義は教科書の要点をノート用プリントにまとめ一部を記入式にし、全学生が予習復習に活用しやすいようにまとめた講義ノートを作成できるよう工夫している。講義内容の練習問題とその回答・解説を作成・配布し、自己学習のきっかけとなるようにしている。多くの学生は授業内容の基本をしっかりと身に付けてくれた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年2月 平成26年6月	「考える衛生薬学」(廣川書店)(共著) 第2,3章担当 「食品衛生学練習問題・解答解説」プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 宮城県立宮城野高校(出前講義) 宮城県立古川高校(出前講義)		平成23年5月25日 平成24年11月9日	演題「犯罪に用いられた薬毒物の毒性と中毒の治療」 演題「犯罪に用いられた薬毒物の毒性と中毒の治療」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Chemical structure of β -galactofuranose-containing polysaccharide and O-linked oligosaccharides obtained from the cell wall of pathogenic dematiaceous fungus <i>Fonsecaea pedrosoi</i>	共著	平成23年1月	Glycobiology (vol.21(1))
(論文) Difference in fine specificity to polysaccharides of <i>C. albicans</i> mannoprotein between mouse SIGNR1 and human DC-SIGN	共著	平成24年5月	Infection and Immunity (vol.80(5))
(論文) Significant differences in the cell wall mannans from three <i>Candida glabrata</i> strains correlate with antifungal drug sensitivity	共著	平成24年5月	FEBS Journal (vol.279(10))
(論文) Identification of Distinct Ligands for the C-type Lectin Receptors Mincle and Dectin-2 in the Pathogenic Fungus <i>Malassezia</i>	共著	平成25年4月	Cell Host & Microbe (vol.13(4))
(論文) Significant structural change in both O- and N-linked carbohydrate moieties of the antigenic galactomannan from <i>Aspergillus fumigatus</i> grown under different culture conditions	共著	平成26年8月受理	Glycobiology (vol.24)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
病原性真菌 <i>Candida glabrata</i> の cell wall integrity 制御と小胞体ストレス経路の関与		平成26年10月	第53回日本薬学会東北支部大会
<i>Candida glabrata</i> の糖鎖合成酵素遺伝子欠損が細胞壁構築に与える影響		平成26年11月	第58回日本医真菌学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成25年2月～平成27年1月	日本薬学会代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬理学教室	職名 教授	氏名 丹野 孝一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			基礎事項を基に系統立てて解説し、理解させることを心掛けて授業を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年3月31日 毎年度	「新薬理学テキスト[第3版]」(廣川書店) (共著)(第14章担当) プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
東北薬科大学同窓会岩手支部(講演)		2012年9月8日	演題「モルヒネの依存と鎮痛耐性」
青森県立八戸北高等学校(出張講義)		2012年10月31日	演題「薬の効くメカニズム」
宮城県泉高等学校(出張講義)		2014年5月21日	演題「薬の効くメカニズム」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Involvement of the p53 tumor-suppressor protein in the development of antinociceptive tolerance to morphine	共著	2009年2月	Neurosci. Lett., 450巻3号
Suppressive effects by cysteine protease inhibitors on naloxone-precipitated withdrawal jumping in morphine-dependent mice	共著	2010年6月	Neuropeptides, 44巻3号
Phenylmethanesulfonyl fluoride, a serine protease inhibitor, suppresses naloxone-precipitated withdrawal jumping in morphine-dependent mice	共著	2013年7月	Neuropeptides, 47巻3号
Angiotensin II produces nociceptive behavior through spinal AT1 receptor-mediated p38 mitogen-activated protein kinase activation in mice	共著	2013年7月	Mol. Pain., 9巻1号
Angiotensin (1-7) prevents angiotensin II-induced nociceptive behaviour via inhibition of p38 MAPK phosphorylation mediated through spinal Mas receptors in mice	共著	2014年	Eur. J. Pain. (印刷中)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Angiotensin II type 1 receptor-mediated increase in spinal p38 MAPK phosphorylation leads to the induction of nociceptive behavior in mice		2014年7月	45th Meeting of the International Narcotics Research Conference
Antagonistic effect of angiotensin (1-7) on angiotensin II-induced nociceptive behavior in mice		2014年7月	45th Meeting of the International Narcotics Research Conference

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
1999年4月～	日本薬理学会学術評議委員
2004年3月～	神経行動薬理若手研究者の集い世話人
2006年10月～2008年9月、2011年～	日本薬理学会代議員
2012年4月～	厚生労働省薬剤師試験委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 教授	氏名 町田 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケート及び試験結果をもとに、教授内容・方法を改善するようにしている。また、基礎学力不足な学生に対して、1) 勉学意欲を上げるには、どのような指導が有効なのかを常に意識して講義を行う。2) 基礎的な科学用語・理論を理解していない、定義がぞんざいな学生に対し、明確な定義・知識を再度教育する。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	講義プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第31回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ		平成25年8月9 ~11日	タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
利府高等学校 (出前講義)		平成21年 6月	演題「光の性質と化学構造」
仙台南高等学校 (出前講義)		平成22年11月	演題「有機化合物の化学構造解析法」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Three New Glycosides from <i>Viburnum plicatum</i> Thunb. Var. <i>tomentosum</i> Miq.	共著	平成21年 2月	Helv. Chim. Acta, Vol. 93
(論文) Four New Lignan Glycosides from <i>Osmanthus fragrans</i> Lour. Var. <i>aurantiacus</i>	共著	平成22年11月	Helv. Chim. Acta, Vol. 93
(論文) Two New Glycosides from <i>Viburnum plicatum</i> Thunb. ex Murray var. <i>plicatum</i> f.	共著	平成23年 1月	J. Nat. Med., Vol. 65
(論文) Six New Secoiridoids from the Dried Fruits of <i>Ligustrum lucidum</i> .	共著	平成24年 2月	Chem. Pharm. Bull., Vol. 60, No. 2
(論文) Terpenoids and Sterols from Some Japanese Mushrooms.	共著	平成26年 3月	Nat. Prod. Commun., Vol. 9, No. 3
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ラクタラン型セスキテルペノイドBlennin Aの化学的安定		平成25年10月	第57回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論
(演題名) 日本薬局方収載医薬品のNMRスペクトル(第1報) ヒドロコルチゾン及びプレドニゾロンについて		平成26年 3月	日本薬学会第134年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月~	「元気!健康!フェアin とうほく」企画・展示委員		
平成24年4月~平成26年7月	日本薬学会学術誌編集委員		
平成25年4月~	仙台市薬剤師会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物動態学教室	職名 教授	氏名 富田 幹雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、講義・実習を行うように工夫している。 オフィスアワーを設け質問を受け付けている。確認問題で到達度・理解度をチェックさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書		平成24年4月1日 毎年度	最新薬剤学第10版(廣川書店)(共著) (第3章担当) プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第20回東北薬科大学生涯教育講演会 (主催:東北薬科大学) 鶴が谷元気会定例講演会 (主催:鶴が谷市民センター) 第42回みやぎ薬剤師学術研修会 (主催:宮城県薬剤師会)		平成24年10月27日 平成25年11月21日 平成26年4月19日	薬物輸送制御タンパク質の発現調節に立脚したドラッグデリバリーシステムの開発 おくすりの飲み方と効き方 薬物動態学的側面からの服薬指導
4 その他教育活動上特記すべき事項 秋田県立湯沢高等学校(出前講義) 高大連携事業公開授業(講義)(於 本学) みやぎ協励会定例講演会(講演) (於 ホテル ベルエア仙台)		平成24年9月12日 平成25年8月24日 平成26年4月13日	薬を身体の中に入れる方法とその後の体内での運命 薬の身体の中での動きと個別化治療計画 薬物輸送制御タンパク質の発現調節に立脚したDDSの開発
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
(著書)ペプチド・タンパク性医薬品の新規DDS製剤の開発と応用		共著	2011年6月
(著書)難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発		共著	2012年4月
Changes in absorption and excretion of rhodamine123 by sodium nitroprusside		共著	2013年5月
Characteristics of reversible absorption-enhancing effect of sodium nitroprusside in rat small intestine		共著	2013年7月
Effects of pharmaceutical excipients in membrane permeability in rat small intestine		共著	2013年11月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
尿毒症物質によるMRP2ならびにBCRP介在輸送の阻害		2014年5月	日本薬学会第29年会
必須不飽和脂肪酸によるP-糖タンパク質の機能ならびに構造変化		2014年7月	第30回日本DDS学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～現在	日本臓器保存生物医学会評議員		
平成17年4月～現在	トランスポーター研究会幹事		
平成23年4月～現在	日本薬物動態学会評議員		
平成24年4月～現在	日本薬学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床感染症学教室	職名 教授	氏名 藤村 茂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			大学既定の書式とは別に授業評価アンケートを実施し、講義内容および方法の改善に役立てている
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年10月15日 毎年度	抗菌薬PK-PD実践テクニック (南江堂) 編集、共著 (I-III章) プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
東北薬科大学生涯教育講演会		平成25年6月29日	「インフルエンザ感染症を考える - H7N9を含めて -
福島県薬剤師会・病院薬剤師会学術講演会		平成25年12月18日	「今だから考えたい抗感染症薬の適正使用」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
結核ハンドブック	共著	2014年	アトムズ
よくわかる医療と健康の最新情報	共著	2013年	河北新報社
感染症：診断と治療の進歩	単著	2012年	日本内科学会雑誌 101: 3178-3184, 2012
(総説)肺炎治療の進歩と実際 抗菌薬療法の考え方～PK-PD理論～.	共著	2011年	日本内科学会雑誌 100: 3533-3541, 2011
Pneumonia after earthquake, Japan, 2011	共著	2012年	Emerg Infect Dis 18: 1909-1911, 2012
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Evaluation of causative pathogens of pneumonia that increased as a result of the 2011 tsunami disaster in Japan		2014年・5月	24 th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases
各種臨床分離株に対するチゲサイクリンの薬剤感受性		2014年・6月	第62回日本化学療法学会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年6月～平成30年5月	日本化学療法学会 幹事		
平成12年11月～平成26年11月	東北院内感染対策研究会 幹事		
平成23年2月～	日本環境感染学会 評議員		
平成17年4月～	日本感染症学会 評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生化学教室	職名 教授	氏名 関 政幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年度	わかりやすい授業・予習の発表・演習問題による復習・確認テストなどを組み合わせる工夫を してる。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント・演習問題・パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
オープンキャンパス模擬講義		平成26年8月3日	演題「疾病および進化を引き起こす突然変異」
高校大学連携公開講座		平成26年8月23日	演題「高校の生物学から医学・薬学への扉を開く」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Global analysis of mutual interaction surfaces of nucleosomes with comprehensive point mutants.	共著	平成21年	<i>Genes Cells</i> 14, 1271-1330.
(論文) The histone chaperone FACT maintains normal replication fork rates.	共著	平成23年	<i>J. Biol. Chem.</i> 286, 30504-30512.
(論文) Global analysis of core histones reveals nucleosomal surfaces required for chromosome bi-orientation.	共著	平成23年	<i>EMBO J.</i> 30, 3353-3367.
(論文) Roles of common subunits within distinct multisubunit complexes.	共著	平成26年	<i>Proc. Natl. Acad. Sci. USA.</i> 111, 699-704.
(論文) Tipin Functions in the Protection against Topoisomerase I Inhibitor.	共著	平成26年	<i>J. Biol. Chem.</i> 289, 11374-11384.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
カンプトテシン存在下におけるDNA複製フォーク構成因子Tipinの機能解析		平成26年・3月	日本薬学会第134年会
WRNIP1欠損によるPol η 破壊株のUV感受性抑制機構の解析		平成26年・3月	日本薬学会第134年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～	日本薬学会学術誌編集委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子認識学教室	職名 教授	氏名 細野 雅祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学英语Ⅲ 生化学に関する専門用語を習得するために、身近に使用している教科書の原書英文を活用する。「文法」や「和訳」をテーマとせず、「英文で理解する」ことを主目的とする。学術英文論文の様式を理解する。英語論文を読んで実際に実験を行うための素地を養う。		平成21年4月～	薬学科3年次前期1単位 [座学]基本的に予習を課さない。学習素材は同時履修にしている生化学の教科書原書(ヴォート生化学)。専門用語を学習するのに適切な部分をピックアップしたものを、学生が講義開始15分間で速読。その後パワーポイントを使用し解説。 [SGD]酵素に関する学術論文中のMethod部分を自己学習により読解。内容をもとに作成した問題をSGDで検討し、発表する。
生化学 低学年で学習したが、なくしてしまった多くの知識を国家試験に向けて掘り起こす。		平成21年4月～	薬学科6年次後期分担任講義 国家試験問題を中心として演習形式で行う。
生化学実習 生化学の分野で学習する分析方法やアッセイ方法に関する技能を習得しながら原理を理解する。		平成21年4月～	薬学科2年次前期1単位 ピペット操作や器具の扱いなど、実験の最も基本となる技術を各人が必ず習得できるよう細かく配慮する。手技と理論を並行して学べるよう説明と実地をこまめに繰り返す。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年4月～ 平成21年4月～ 平成21年4月～	薬学英语Ⅲ 講義用プリントおよびパワーポイント 生化学 講義用プリントおよびパワーポイント 生化学実習 実習操作用プリントおよび講義用パワーポイント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第18回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成WS 高大連携授業 東北薬科大学高校生実験講座 仙台市立加茂中学校職場体験 高校出張講義 高校出張講義		平成21年7月 平成21年8月 平成23年10月 平成23年10月 平成23年10月 平成25年7月	タスクフォース グライコバイオロジー～相手を認めて識ることの大切さ～ 「癌細胞の特徴をつかめ！」細胞表面にある糖鎖の解析 加茂中2年生3名 山形県立新庄北高等学校 青森県立弘前南高等学校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
A lectin from the mussel <i>Mytilus galloprovincialis</i> has a highly novel primary structure and induces glycan-mediated cytotoxicity of globotriaosylceramide-expressing lymphoma cells	共著	平成24年12月	<i>J. Biol. Chem.</i> , 287
Sialic acid-binding lectin (lecyzime) induces caspase-dependent apoptosis-mediated mitochondrial perturbation in Jurkat cells	共著	平成25年11月	<i>Int. J. Oncol.</i> , 43

Domain Composition of Rhamnose-binding Lectin from Shishamo smelt eggs and its Carbohydrate-binding Profiles	共著	平成25年12月	<i>Fish Physiol. Biochem.</i> , 39
Down-regulation of Hsp70 inhibits apoptosis induced by sialic acid-binding lectin (lectzyme)	共著	平成26年1月	<i>Oncol. Rep.</i> , 31
Binding profiles and cytokine-inducing effects of fish rhamnose-binding lectins on Burkitt' s lymphoma Raji cells	共著	平成26年3月	<i>Fish Physiol. Biochem.</i> , doi: 10.1007/s10695-014-9948-1
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ナマズ卵レクチンはバーキットリンパ腫Raji細胞のTCA回路を停止させるか?		平成25年9月	第7回東北糖鎖研究会・第65回 FCCAセミナー
EMARS法を用いたGb3近傍に存在する分子の探索		平成25年9月	第7回東北糖鎖研究会・第65回 FCCAセミナー
ナマズ卵レクチンで誘導されるバーキットリンパ腫細胞の増殖抑制機構の解析		平成25年9月	第7回東北糖鎖研究会・第65回 FCCAセミナー
正常B細胞におけるmagnasの発現制御機構の解析		平成25年9月	第7回東北糖鎖研究会・第65回 FCCAセミナー
<i>Silurus asotus</i> lectin (SAL) depresses citric acid cycle in Gb3-expressing Burkitt' s lymphoma cells.		平成25年9月	第86回日本生化学会大会
RYKはGb3近傍に存在する細胞膜分子である		平成25年9月	第86回日本生化学会大会
ナマズ卵レクチンは膜結合型TNF <input type="checkbox"/> の発現量を増加		平成25年9月	第86回日本生化学会大会
レクザイムによる悪性中皮腫細胞に対するアポトーシス誘導効果とTRAILとの併用効果について		平成25年10月	第72回日本癌学会学術総会
Magnasの機能解析		平成25年12月	第36回日本分子生物学会年会
キュウリウオ卵ラムノース結合性レクチンの構造と組換え体の発現		平成26年3月	第134回日本薬学会年会
ナマズ卵レクチンはバーキットリンパ腫の細胞膜に存在する Gb3 に結合して ERK 経路を活性化する		平成26年8月	第33回日本糖質学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～平成24年3月	日本薬学会東北支部幹事 (会計)		
平成23年7月	日本薬学会東北支部学術講演会実行委員		
平成23年7月	日本薬学会東北支部 未来志向の薬剤師のための学術研究講演会実行委員		
平成23年8月	日本薬学会東北支部 第10回化学系薬学若手研究者セミナー実行委員		
平成23年9月	日本薬学会東北支部 第10回医療薬学若手研究者セミナー実行委員		
平成23年10月	日本薬学会東北支部 第10回生物化学若手研究者セミナー実行委員		
平成23年12月	日本薬学会東北支部 第33回東北薬学セミナー実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子薬化学教室	職名 教授	氏名 吉村 祐一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			各授業につき中間時期と終了時に授業アンケートを行い、授業改善の資料としている。学生からの質問については、オフィスアワーを設定しているが、時間の許す限り積極的に受け付けている。また、学生の要望に応じ、補習授業も実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年11月 毎年度	「無機化合物・錯体—生物無機化学の基礎—」第2版 (廣川書店) (共著) (第6, 9-11章担当) プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
宮城県仙台向山高等学校 (出張講義)		平成24年10月31日	演題「クスリを創る」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 1) Asymmetric Synthesis of 2,5-Disubstituted 3-Hydroxypyrrolidines Based on Stereodivergent Intramolecular Iridium-catalyzed Allylic Aminations	共著	2014年1月	Organic & Biomolecular Chemistry vol. 12 No. 12
(論文) Design and Synthesis of A Nucleoside and A Phosphonate Analogue Constructed on A Branched-threo-tetrofuranose Skeleton	共著	2013年5月	Tetrahedron Letters vol. 54 No. 30
(論文) α -1-C-Butyl-LAB as a Second-Generation Iminosugar-Based Oral α -Glucosidase Inhibitor for Improving Postprandial Hyperglycemia	共著	2012年10月	Journal of Medicinal Chemistry vol. 55 No. 23
(論文) A New Route to N1-Substituted Uracil Derivatives Using Hypervalent Iodine	共著	2012年3月	Synthesis vol. 44 No. 8
(論文) Design and Synthesis of Isonucleosides Constructed on a 2-Oxa-6-thiabicyclo[3.2.0]heptane Scaffold	共著	2010年5月	Journal of Organic Chemistry vol. 75 No. 12
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
イナミドを基質としたパラジウム触媒による三成分連結反応		2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
イナミドを用いた三成分連結反応におけるボロン酸及びハロゲン化アリアルールの効果		2014年10月	第53回日本薬学会東北支部大会
C1位に4-アリアルブチル基が置換したイミノ糖誘導体の不斉合成とその α -グルコシダーゼ阻害活性評価		2014年10月	第53回 日本薬学会東北支部大会
ルテニウム触媒を用いたエンイナミドを基質とする閉環反応		2014年9月	第44回複素環化学討論会
1-C-n-ブチル-L-イミノフラノース誘導体の不斉合成と その酵素阻害活性評価		2014年9月	第44回 複素環化学討論会
1-C-n-ブチル-L-イミノ糖誘導体の触媒的不斉合成と α -グルコシダーゼ阻害活性評価		2014年6月	平成26年度 東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
クリックケミストリーを用いたD-イミノフラノース誘導体の合成と酵素阻害活性評価		2014年6月	平成26年度 東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
トリアゾール環を側鎖に持つD-イミノフラノース誘導体の合成と生物活性評価		2014年3月	日本薬学会第134年会

2, 6-置換ピペリデン誘導体の合成と有機触媒への応用	2014年3月	日本薬学会第134年会
β -1-C-n-ブチル-L-イミノ糖誘導体の触媒的不斉合成と α -グルコシダーゼ阻害作用に対する構造活性相関	2014年3月	日本薬学会第134年会
3'-デオキシ-4'-チオヌクレオシドの合成研究	2014年3月	日本薬学会第134年会
新規酸化的グリコシル化反応を利用したヌクレオシド誘導体の合成	2014年3月	日本薬学会第134年会
イナミドを基質としたパラジウム触媒による炭素炭素結合形成反応	2014年3月	日本薬学会第134年会
Design and Synthesis of Nucleoside Phosphonate Constructed on a Branched-tetrofuranose Skeleton	2013年11月	The 40th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry
イリジウム触媒を用いた分子内環化反応を基盤とする置換ピロリジン体の立体選択的合成	2013年11月	第39回反応と合成の進歩シンポジウム
酸化的グリコシル化反応を利用したスタブジン及び4'-置換スタブジンの新規合成法	2013年11月	第31回メディシナルケミストリーシンポジウム
Palladium Catalyzed Three-Component Coupling of Ynamides	2013年10月	International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan
α -1-C-アルキル-D-アラビノース型イミノ糖誘導体の合成とその糖加水分解酵素阻害活性評価	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
クリックケミストリーを利用したトリアゾール環を側鎖に持つD-イミノフラノース誘導体の合成研究	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
遷移金属錯体を用いたイナミドに対する位置選択的炭素鎖導入法の開発	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
3'-デオキシ-4'-チオヌクレオシド類の合成研究	2013年9月	第30回有機合成化学セミナー
6-メチル1, 2, 3, 6-テトラヒドロピコリン酸の合成と有機触媒への応用	2013年9月	第30回有機合成化学セミナー
1-アルキル-L-イミノフラノース誘導体の不斉合成と α -グルコシダーゼ阻害作用に対する構造活性相関研究	2013年9月	第30回有機合成化学セミナー
The Synthesis of α -1-C-Alkyl-1, 4-dideoxy-1, 4-imino-L-arabinitol, A Novel Class of Iminosugar-Based α -Glucosidase Inhibitors	2013年7月	18th European Symposium on Organic Chemistry (ESOC 2013)
Transition Metal Catalyzed Carbon-Carbon Bond Forming Reaction of Ynamides	2013年7月	The 20th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry
Synthesis of Dihydropyranonucleoside Using Hypervalent Iodine Mediated Glycosylation as a Key Reaction	2013年5月	Advanced Molecular Transformations by Organocatalysts 1st International Conference & 6th Symposium on Organocatalysis
The Synthesis of α -1-C-Alkyl-1, 4-dideoxy-1, 4-imino-D-Arabinitols and Their Biological Activities	2013年5月	The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry
α -1-C-アルキル-1, 4-ジデオキシ-1, 4-イミノ-L-アラビニトールの不斉合成とその α -グルコシダーゼ阻害活性評価	2013年5月	第11回次世代を担う有機化学シンポジウム
超原子価ヨウ素試薬を利用したグリコシル化反応の開発と応用	2013年5月	創薬研究センターシンポジウムー合成化学と創薬研究のクロスオーバー
3'-デオキシ-4'-チオヌクレオシド誘導体の合成研究	2013年5月	創薬研究センターシンポジウムー合成化学と創薬研究のクロスオーバー

Synthesis of 6-Methyl-1, 2, 3, 6-tetrahydropicolinic Acid As A Potential Organocatalyst	2013年4月	UK/Japan Conference in Catalytic Asymmetric Synthesis
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成18年4月～現在	有機合成化学協会東北支部地区幹事	
平成21年4月～平成22年3月	日本薬学会東北支部幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 体育学教室	職名 教授	氏名 佐々木 克之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学生生活のみならず、生涯にわたり心身共に健康的な生活を送れるよう、「授業アンケート」以外にも独自に考案した「健康・身体活動に関する調査兼授業アンケート」を初回と最終回に行い、その結果をもとに工夫しながら実技・講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) バレーボールゲームにおけるボール接触数と勝敗の関係についてⅢ	単著	平成21年3月	東北薬科大学一般教育関係論集Vol. 21
(論文) バレーボールゲームにおけるボール接触数と勝敗の関係についてⅣ	共著	平成22年3月	東北薬科大学一般教育関係論集Vol. 22
(論文) バレーボールゲームにおけるボール接触数と勝敗の関係についてⅤ	単著	平成23年3月	東北薬科大学一般教育関係論集Vol. 24
(論文) 平成23年度東北大学バレーボール連盟審判講習会の現状と課題	単著	平成24年3月	東北薬科大学一般教育関係論集Vol. 25
(論文) 体育実技科目に関する受講生の意識の推移	共著	平成26年3月	東北薬科大学一般教育関係論集Vol. 27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成10年1月～平成21年1月	国際バレーボール連盟・国際審判員		
平成10年4月～現在	東北大学バレーボール連盟・常任理事兼審判委員長		
平成21年10月～現在	日本バレーボール機構・JURY		
平成25年4月～現在	日本バレーボール協会・レフェリーインストラクター		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 教授	氏名 米澤 章彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>・ <u>人体生理学</u> (2年次) : 「形態は機能を反映する」をキーワードに、「組織、器官の形態と機能との関連性」に重点を置き、学生が理解しやすい内容の講義を心掛けている。また、薬剤師教育における基礎教科の重要性から、各章終了時に課題提出を求め、学生の理解度を高めている。さらに、中間試験を実施し、習熟度の低い学生に対して補習授業を実施している。</p> <p>・ <u>薬物療法学</u> (4年次) : 系統立てた内容の講義を心掛け、学生が培ってきた薬理学・病態生理学の知識をもとに体系的に理解できるように講義を進めている。学生からの質問はオフィスアワー以外も積極的に受け入れている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年2月 毎年度	<p>「機能形態学」(南江堂)(共著) (第1章、第4章、第10章を担当)</p> <p>課題・講義用プリント (人体生理学、薬物療法学)</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
宮城県立多賀城高校 (出前講義)		2009年11月17日	演題「薬学への招待」
宮城県高大連携事業に係る公開授業		2010年8月21日	演題「からだの構造から機能を探る」
宮城県立角田高校 (出前講義)		2010年10月14日	演題「薬学への招待」
宮城県立佐沼高校 (出前講義)		2012年7月19日	演題「薬学への招待」
平成26年度東北薬科大学新任教員研修会		2014年7月10日	
第23回東北薬科大学卒業生生涯教育 (講演)		2014年7月12日	演題「薬剤師として知っておきたい性機能障害の知識 -診療ガイドラインを中心として-
東北労災看護専門学校 非常勤講師		平成20年4月~	「薬理学」担当
秋田大学大学院医学系研究科 非常勤講師		平成21年4月~	「神経科学研究の照会 -性機能の基礎と臨床-」 担当
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 男性性機能：動物実験からの評価と問題点	共著	平成20年1月	研成社、アニテックス (第20巻1号)
(論文) Effects of insulin replacement on ejaculatory dysfunction in streptozotocin-induced diabetic rats	共著	平成20年4月	Int. J. Urol .16
(論文) Synergistic actions of apomorphine and m-chlorophenylpiperazine on ejaculation, but not penile erection in rats.	共著	平成21年12月	Biomed. Res. 30

(論文) Role of supraspinal and spinal α 1-adrenergic receptor subtypes in micturition reflex in conscious rats	共著	平成22年10月	Am. J. Physiol. 212
(論文) ラット射精機能評価モデルを用いた副作用解析と治療薬探索	共著	平成24年6月	自律神経 49
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 基礎研究から考える射精障害の治療戦略		平成25年3月	第23回日本性機能学会東部総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成 8 年～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成 19 年～現在	日本性機能学会 理事		
平成 25 年～現在	日本性機能学会 教育委員会・委員長 (基礎)、将来構想委員会・委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名；機能形態学教室	職名；特任教授	氏名 櫻田 忍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			毎講義時に、学生に前回の講義の内容について質問し、不明な点については再度講義を行っている。講義内容は必ずノートにまとめるよう指導しており、その結果、1年次の学生では68.5%がまとめのノートを作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年5月 平成24年2月 毎年度	コンパス薬理学（南江堂）（共著） （第7、8、12章担当） 「機能形態学」改訂第3版（南江堂）（共著） （第2、7、11章担当） プリント、パワーポイント （教科書の中で特に重要な部分や不足部分を、プリントおよびパワーポイントとして作成している）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 高校生実験講座 アカデミックインターンシップ		平成23年10月15日 平成26年9月2日	「痛みと鎮痛薬」 「実験動物を用いて鎮痛薬の効果を試してみよう」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
New therapy for neuropathic pain.	共著	平成21年6月	Int. Rev. Neurobiol., 85,
Lack of a rewarding effect and a locomotor-enhancing effect of the selective μ -opioid receptor agonist amidino-TAPA.	共著	平成22年10月	Psychopharmacology, 212
Involvement of glial cells in the nociceptive behaviors induced by a high-dose of histamine administered intrathecally.	共著	平成23年2月	Eur. J. Pharmacol., 653
New vistas in opioid control of pain.	共著	平成24年2月	Curr. Opin. Pharmacol., 12
Involvement of peripheral cannabinoid and opioid receptors in β -caryophyllene-induced antinociception.	共著	平成25年5月	Eur. J. Pain, 17
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
μ 受容体作動薬ADAMBの脊髄における抗侵害作用発現機序		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
Phosphorylation of mu opioid receptor reduced morphine analgesia in inflammatory pain state		平成25年7月	International Narcotic Research Conference
Effectiveness of amidino-TAPA against morphine-resistant neuropathic pain		平成25年7月	International Narcotic Research Conference
多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果		平成25年9月	第33回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
脊髄疼痛伝達機構に対する μ 受容体サブクラスの多樣的制御の解析		平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会

デルモルフィン誘導体TAPAの脊髄鎮痛作用発現機構	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
神経絞扼性癌性疼痛における麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
神経障害性疼痛における末梢性TRPV1受容体及びNMDA受容体の関与	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
神経障害性疼痛における各種麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
CB1受容体拮抗薬AM251はERKの活性化を介して疼痛関連行動を起こす	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
Antinociceptive effect of narcotic analgesics against mechanical allodynia in inflammatory pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
The antinociceptive effect of opioid analgesics in neuropathic cancer pain	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antinociceptive effect of narcotic analgesics in neuropathic pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antipruritic effect of kappa-opioid receptor agonist in mice	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
炎症性疼痛下における麻薬性鎮痛薬の鎮痛効果減弱機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬 研究センターシンポジウム
Hemokinin-1誘発性疼痛関連行動の発現機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬 研究センターシンポジウム
各種難治性疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果	平成26年9月	第65回日本薬理学会北部会
神経障害性疼痛に対するmethadoneの脊髄鎮痛作用	平成26年10月	第126回日本薬理学会 近畿部会
多発性硬化症疼痛に対するオピオイド性鎮痛薬の効果	平成26年10月	第126回日本薬理学会 近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成2年～	日本薬理学会学術評議委員	
平成2年～	日本神経精神薬理学会評議委員	
平成17年～	日本緩和医療薬学会評議委員	
平成12年～	日本ヒスタミン学会世話人	
平成2年～	鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会世話人	
平成22年～	私立薬科大学協会理事	
平成24年～	薬学評価機構評価実施委員	
平成24年～	薬学協議会会員	
平成25年～	学都仙台コンソーシアム運営委員会運営委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 放射線核医学教室	職名 特任教授	氏名 福田 寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) かなり詳しい講義用プリントを配布し、授業では実際の症例の画像や医学的意義を強調するようにしている。		平成26年6月 毎年度	講義終了後あるいはオフィスアワーで積極的に質問を受け、ポイントを指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 放射線医学・画像医学プリント (36ページ)		平成25年5月	薬学部教育用の画像医学教科書に適切なものがないので、36ページの授業用プリントを作成した。パワーポイント映写は症例画像を多数用意。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 仙台三高スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員 生涯学習講演		平成21~26年 平成25年11月	年に委員会2回、みやぎサイエンスフェスタ1回参加 第22回東北薬科大学生涯教育講演会「ポジトロンCT (PET)による癌診断の臨床的有用性」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) A longitudinal study of age- and gender-related annual rate of volume changes in regional gray matter in healthy adults	共著	平成25年4月	Human Brain Mapping Vol. 34
(論文) Topological organization of functional brain networks in healthy children: Differences in relation to age, sex, and intelligence	共著	平成25年2月	PLoS ONE Vol. 8 No. 2
(論文) Pioneering and fundamental achievements on positron emission tomography (PET) in oncology	共著(主著)	平成25年7月	Tohoku Journal of Experimental Medicine Vol. 230
(論文) In vitro and in vivo characterization of 2-deoxy-2-18F-fluoro-D-mannose as a tumor-imaging agent for PET	共著	平成25年8月	Journal of Nuclear Medicine Vol. 54 No. 8
(論文) A longitudinal study of structural brain network changes with normal aging	共著	平成25年2月	Human Neuroscience Vol. 7
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Development of automatic diagnosis system for age-related brain diseases using normal brain structure model		平成26年3月	Fifth International Symposium on the Project "Computational Anatomy"
MRI based head surface mesh of young and old people for finite element analysis		平成25年6月	Annual meeting of OHBM2013
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月-現在	日本老年医学会評議員		
平成9年11月-平成25年11月	日本核医学会評議員		
平成18年4月-平成24年4月	日本医学放射線学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医療管理学教室	職名 特任教授	氏名 濃沼信夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年度	授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。積極的に質問を受け付け、考察を深めるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイントの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Proposal for the breakdown of increased cancer health care cost and its improvement	単著	2013年4月	JJCO Vol. 43: 351-356, 2013
(論文) Use of oncology drugs in Japan compared to France, Germany, Italy, Spain, Sweden, the UK and the USA. A comparison based on data from 1999 to 2009.	共著	2011年10月	J Public Health Epidemiol 3(10): 471-477, 2011.
(論文) がんの経済難民を出さないために、技術革新に伴う患者負担の増大にどう対処するか	共著	2011年9月	医療白書2011年度版. 医療企画 44-54, 2011.09.
(著書) クリニカルパス・地域医療連携	単著	2011年2月	日本医療企画
(論文) 経口薬によるがん治療の患者負担.	単著	2010年7月	癌と化学療法 37(7): 1230-1233, 2010.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Economic burden of cancer patients by site, stage and employment status.		2013年10月	72nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association
がん分子標的治療における患者の経済的負担		2013年10月	第51回日本癌治療学会
Economic burden of cancer patients in molecular target therapy.		2014年2月	6th International Conference on Drug Discovery & Therapy
III 学会および社会における主な活動			
6年以上前～現在	日本医療・病院管理学会評議員(～平成23年:理事)		
6年以上前～現在	日本プライマリ・ケア連合学会評議員		
6年以上前～現在	日本医療経営学会理事		
6年以上前～現在	日本クリニカルパス学会評議員(～平成23年:理事)		
6年以上前～現在	日本医療評価機構評議員		
6年以上前～現在	宮城県医療審議会委員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名：特任教授	氏名 土屋 節夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実務実習 大学院研修			より実践的な実務実習を行う工夫 臨床を活かした研究マインドを持つ薬剤師としての研修方法の工夫
2 作成した教科書、教材、参考書 実務実習課題・例題集 実務実習の心構え 実務模擬実習用テキスト		平成22年3月 毎年 平成26年8月	プリント(みやぎ薬業連携研修会として) パワーポイント 学内冊子(調剤Ⅱ模擬薬局での対応担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 関東5大学合同ワークショップ 日本薬剤師研修センター主催ワークショップ 第3回東北薬科大学認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第18回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第4回東北薬科大学認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第26回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第5回東北薬科大学認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 東北地区調整機構アドバンスワークショップ 第65回薬剤師のためのワークショップin近畿 第31回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第36回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 第38回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ		平成20年12月23日 平成21年2月21日 平成21年6月13日 平成21年7月19日 平成22年9月11日 平成22年12月11日 平成23年9月18日 平成23年10月10日 平成25年3月9日 平成25年8月10日 平成26年7月26日 平成26年9月6日	タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース タスクフォース チーフタスクフォース タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 宮城野高等学校 石巻高等学校		平成22年6月19日 平成25年10月22日	演題「『職業人に学ぶ』医療(薬剤師)分野」 演題「意外と身近な医薬品～それに関わる薬剤師～」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
手術時予防的抗菌薬適性使用	共著	2009年1月13日	日本環境感染学会誌 Vol. 24
第6回実務実習Q&A「業務が忙しくて学生に指導する時間が十分にとれません」	単著	平成22年6月	月刊薬事 Vol. 52. No. 6

ベバシズマブ併用大腸癌化学療法による 口腔有害事象に関する後ろ向き検討	共著	平成23年6月15日	癌と化学療法 Vol. 38 No. 6
医薬品の臨床検査値妨害に関する情報の調査	共著	平成24年2月29日	医薬品情報学 Vol. 13. No. 4
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
外来患者の腎機能に基づくファモチジンの適正使用に関する調査		2013年9月	日本医療薬学会
稔りある実務実習をするために～形成的評価を活用しよう！～		2013年11月	日病薬東北ブロック学術大会
外来患者に対する腎機能を考慮した薬物投与調査		2013年12月	日本臨床薬理学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～現在	日本ジェネリック医薬品学会評議員		
平成25年10月～現在	日本腎臓病薬物療法学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 独乙語学教室	職名 特任教授	氏名 松山 雄三
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			主体的かつ協調的な学びの姿勢を育成するために、グループ学習を授業に取り入れている。 テキストの重要事項の解説を適宜配信している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月 毎年度	「独語 学習の手引き」(PDF)を配信 プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 立教大学公開講演会での講演		平成21年6月14日	演題「Fr. シラーの教育の心について」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Fr. シラー：人間形成論の胎動	単著	平成22年3月	東北薬科大学一般教育関係 論集(23号)
(論文) シラー：ヘルダーとの邂逅	単著	平成23年3月	仙台ゲーテ自然学研究会、 プロテウス(第13号)
(論文) Fr. シラーの人間形成概念の基底	単著	平成24年3月	平成21-23年度科研費報告 書「自然と教育」 (No21530785)
(論文) Fr. シラー：戯曲創作と人間形成(2)	単著	平成25年9月	仙台ゲーテ自然学研究会、 プロテウス(第15号)
(論文) Fr. シラーと啓蒙の精神	単著	平成26年3月	東北薬科大学一般教育関係 論集(27号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～24年3月	日本ヘルダー学会理事		
平成24年5月～26年4月	日本薬学図書館協議会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名	英語教室	職名 准教授 氏名 小島良一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 英語（対称：薬学部1年通年） 薬学英语（対称：薬学部2年前期）		毎年度 毎年度	科学に関する論理的な記述の教材を選択し、学生の基礎の確認と応用が出来るように心がけている。 薬学英语では専門の論文を読む上での基礎固めに重点を置いている。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学部1年・2年		毎年度	単元ごとの確認プリント（薬学部1年） 医療用単語のグロサリー（薬学部2年）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）仮面の陰で：Winesburg, OhioにおけるCurtis HartmanとKate Swift	単著	平成22年3月	東北薬科大学一般教育関係論集23
（論文）不思議な美しい特質を汲みとる：Winesburg, Ohioにおける“The Book of the Grotesque”と“Hands”	単著	平成23年3月	東北薬科大学一般教育関係論集24
（論文）Faulknerの作品における孤独の問題-南部の白人と黒人のアイデンティティをめぐって-	単著	平成24年3月	東北薬科大学一般教育関係論集25
（論文）疎外と狂気：Winesburg, Ohioにおける“Godliness”	単著	平成26年3月	東北薬科大学一般教育関係論集27
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 准教授	氏名 川村 俊介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬事関連法規		<p>主要項目ごとに講義終了後、問題演習を行うことで講義を学生が理解しやすいよう工夫し、医療の本質と状況を法制度と絡めて理解させている。また、講義終了時に行う授業アンケートをもとにして更に理解しやすい授業に反映させる。</p> <p>授業後に学生からの質問を受けるほか、オフィスアワーを設け積極的に質問を受け付け、学生の法制度・医療制度に対する考察を深めるよう指導している。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年度 毎年度	プリント、パワーポイント作成 演習で使用する問題集	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 尚志高等学校（出前講義） 生涯教育講演会（企画・運営） 第12回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第13回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第14回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 東北薬科大学創立70周年記念生涯教育講演会（企画・運営） 第16回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第17回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第18回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第19回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第20回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第21回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第22回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営） 第23回東北薬科大学生涯教育講演会（企画・運営）	平成25年12月7日 平成20年7月19日 平成20年11月22日 平成21年5月30日 平成21年10月31日 平成22年6月12日 平成22年10月30日 平成23年11月5日 平成24年6月23日 平成24年10月27日 平成25年6月29日 平成25年11月16日 平成26年7月12日	<p>「薬学への招待：脳と薬」</p> <p>「がん化学療法と処方解析」</p> <p>「薬学教育6年制における長期実務実習」</p> <p>「医師の処方を理解し、適切な服薬指導をするために(7)」</p> <p>「統合失調症の病態解明と治療開発の新たな潮流」</p> <p>「最新のがん薬物療法の進歩と課題」</p> <p>「医師の処方を理解し、適切な服薬指導をするために(8)」</p> <p>「長期実務実習の検証と改善に向けて」</p> <p>「薬学教育の充実に向けて」</p> <p>「薬剤師業務の充実と支援」</p> <p>「薬剤師業務の充実と支援」</p> <p>「健康日本21と社会保障改革の方向性」</p> <p>「医師の処方を理解し、適切な服薬指導をするために(9)」</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
（著書）改訂版 Pharmacotherapy	共著	平成20年4月	ネオメディカル
（論文）Suppressive effects by cysteine protease inhibitors on naloxone-precipitated withdrawal jumping in morphine-dependent mice.	共著	平成22年4月	Neuropeptides Vol.44
（論文）東北薬科大学・薬学教育センター	単著	平成22年8月	武田薬報460号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬品物理化学教室	職名 准教授	氏名 高橋央宜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			わかりやすく読みやすいプリントの作成に努めている。 折に触れ、国家試験問題を紹介し、授業内容との関連を説明している。 授業アンケートで感想や意見を書かせ、以後の授業の改善に反映させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年9月1日 毎年度	「薬学領域の物理化学」(廣川書店)(共著) (第1, 2, 7章担当) プリント、実習テキスト作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 高大連携公開授業		平成21年8月22日	演題「ミクロの世界へのいざない」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Modeling the enolization of succinimide derivatives, a key step of racemization of aspartic acid residues: importance of a two-H ₂ O mechanism	共著	平成22年6月	Chemistry & Biodiversity, Vol.7, No.6
(論文) Computational investigation of the substrate recognition mechanism of protein D-aspartyl (L-isoaspartyl) O-methyltransferase by docking and molecular dynamics simulation studies and application to interpret size exclusion chromatography data	共著	平成23年11月	Journal of Chromatography B, Vol.879, No.29
(論文) Two-water-assisted racemization of the succinimide intermediate formed in proteins. A computational model study	単著	平成25年12月	Health, Vol.5, No.12
(論文) Intramolecular cyclization of aspartic acid residues assisted by three water molecules: a density functional theory study	共著	平成26年5月	Computational Science & Discovery, Vol.7, No.1
(論文) Roles of intramolecular and intermolecular hydrogen bonding in a three-water-assisted mechanism of succinimide formation from aspartic acid residues	共著	平成26年8月	Molecules, Vol.19
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Novel consensus scoring strategy for evaluations of protein-ligand docking poses using multiobjective optimization		平成25年7月	The 12th Asia Pacific Physics Conference

Computational studies on substrate recognition mechanism of protein L-isoaspartyl (D-aspartyl) O-methyltransferase	平成25年7月	International Conference on Structural Genomics 2013 –Structural Life Science–
Just three water molecules can trigger the undesired nonenzymatic reactions of aspartic acid residues: new insight from a quantum-chemical study	平成25年9月	International Conference on Mathematical Modeling in Physical Sciences
Inverse calculation of three-dimensional solvation structure on an arbitrary surface from a force distribution measured by liquid AFM	平成25年9月	International Conference on Mathematical Modeling in Physical Sciences
アスパラギン酸残基からのスクシンイミド生成：水3分子が関与する反応モデル	平成25年9月	第9回D-アミノ酸研究会学術講演会
チオエステル周辺のAMBER力場の開発および評価	平成25年11月	第51回日本生物物理学会年会
アスパラギン酸残基周辺の環境が立体反転反応に及ぼす影響	平成25年11月	第41回構造活性相関シンポジウム
野生型および変異体CYP2B6と抗マラリア薬artemetherとの複合体予測構造の分子動力学シミュレーションによる評価	平成25年11月	第41回構造活性相関シンポジウム
Effects of initial settings on computational protein-ligand docking accuracies for several docking programs	平成25年11月	3rd International Conference on Molecular Simulation
タンパク質中におけるスクシンイミド中間体のラセミ化：水2分子が触媒として働く機構の計算化学的検討	平成26年3月	日本薬学会第134年会
PI3KがHDAC阻害剤ロミデプシンを認識する機構の分子動力学シミュレーションによる解析	平成26年3月	日本薬学会第134年会
パラオ産海洋糸状菌Trichoderma sp. から単離した epipolythiodiketopiperazine類の抗結核活性	平成26年3月	日本薬学会第134年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 機能形態学教室	職名 准教授	氏名 溝口 広一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			実例を挙げて、時には自らの体を実例として用い、学生に分かりやすく説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成 (4教科)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
高校生実験講座		平成23年10月15日	痛みと鎮痛薬
アカデミックインターンシップ		平成26年9月2日	実験動物を用いて鎮痛薬の効果を試してみよう
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) New therapy for neuropathic pain	共著	平成21年6月	Int. Rev. Neurobiol. 85
(論文) Lack of a rewarding effect and a locomotor-enhancing effect of the selective μ -opioid receptor agonist amidino-TAPA	共著	平成22年10月	Psychopharmacology 212
(論文) Involvement of mouse μ -opioid receptor splice variants in the spinal antinociception induced by the dermorphin tetrapeptide analog amidino-TAPA	共著	平成23年1月	Eur. J. Pharmacol. 651
(論文) New vistas in opioid control of pain	共著	平成24年2月	Curr. Opin. Pharmacol. 12
(論文) Distinct physiological role of amidino-TAPA-sensitive and DAMGO-insensitive μ -opioid receptor splice variants in the mouse spinal cord	共著	平成25年7月	Eur. J. Pharmacol. 711
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
μ 受容体作動薬ADAMBの脊髄における抗侵害作用発現機序		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
Phosphorylation of mu opioid receptor reduced morphine analgesia in inflammatory pain state		平成25年7月	International Narcotic Research Conference
Effectiveness of amidino-TAPA against morphine-resistant neuropathic pain		平成25年7月	International Narcotic Research Conference

多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年9月	第33回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
脊髄疼痛伝達機構に対する μ 受容体サブクラスの多様の制御の解析	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
デルモルフィン誘導体TAPAの脊髄鎮痛作用発現機構	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
神経絞扼性癌性疼痛における麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
神経障害性疼痛における末梢性TRPV1受容体及びNMDA受容体の関与	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
神経障害性疼痛における各種麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
CB1受容体拮抗薬AM251はERKの活性化を介して疼痛関連行動を起こす	平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
Antinociceptive effect of narcotic analgesics against mechanical allodynia in inflammatory pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
The antinociceptive effect of opioid analgesics in neuropathic cancer pain	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antinociceptive effect of narcotic analgesics in neuropathic pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antipruritic effect of kappa-opioid receptor agonist in mice	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
炎症性疼痛下における麻薬性鎮痛薬の鎮痛効果減弱機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
Hemokinin-1誘発性疼痛関連行動の発現機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
各種難治性疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果	平成26年9月	第65回日本薬理学会北部会
神経障害性疼痛に対するmethadoneの脊髄鎮痛作用	平成26年10月	第126回日本薬理学会近畿部会
多発性硬化症疼痛に対するオピオイド性鎮痛薬の効果	平成26年10月	第126回日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成14年3月～現在	日本薬理学会学術評議員	
平成15年2月～現在	神経行動薬理若手研究者の集い世話人	
平成20年6月～現在	日本緩和医療薬学会評議員	
平成22年10月～現在	日本神経精神薬理学会学術評議員	
平成23年6月～現在	日本緩和医療薬学会研究推進委員会	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物動態学教室	職名 准教授	氏名 伊藤 邦郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年度	授業アンケートを実施し、授業の進め方など学生の意見を収集し、翌年の授業に反映させている。 できるだけ身近な例にたとえ、イメージしやすく指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第18回 東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(県薬剤師会主催)		平成21年 7月	タスクフォース
第4回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(東北薬科大学主催)		平成22年 9月11, 12日	タスクフォース
第5回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(東北薬科大学主催)		平成23年 9月18, 19日	タスクフォース
第29回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(東北薬科大主催)		平成24年 9月8, 9日	タスクフォース
第31回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(東北薬科大主催)		平成25年 8月10, 11日	タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Functional analysis of aldehyde oxidase using expressed chimeric enzyme between monkey and rat	共著	2009年1月	Biol Pharm Bull. 32
(論文) Effects of selenium deficiency on aldehyde oxidase 1 in rats	共著	2009年2月	Biol Pharm Bull. 32
(論文) Individual and strain difference of aldehyde oxidase in rat	単著	2009年10月	薬学雑誌129
(論文) アルデヒドオキシダーゼの薬物代謝酵素学的研究	共著	2009年12月	東北薬科大学研究誌 56
(論文) A single amino acid substitution confers high cinchonidine oxidation activity comparable with that of rabbit to monkey aldehyde oxidase 1.	共著	2010年2月	Drug Metab Dispos.38
(論文) 製剤学的特徴に着目したレポドパ/カルビドパ配合製剤における一包化調剤の適否	共著	2013年11月	薬剤学
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 創薬化学教室	職名 准教授	氏名 猪股 浩平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			毎回の小テストの実施やクリッカーによる双方向的講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント、小テスト作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A new chiral synthesis of Wieland-Miescher ketone catalyzed by a combination of (<i>S</i>)- <i>N</i> -benzyl- <i>N</i> -(2-pyrrolidinylmethyl)amine derivative and Brønsted acid	共著	2009年2月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry, <i>Heterocycles</i> , 77 , No. 2
(論文) Asymmetric intramolecular aldol reaction mediated by (<i>S</i>)- <i>N</i> -substituted- <i>N</i> -(2-pyrrolidinylmethyl)amine to prepare Wieland-Miescher ketone	共著	2011年2月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry, <i>Heterocycles</i> , 82 , No. 2
(論文) Low-molecular weight fractions of Japanese soy sauce act as RAGE antagonist via inhibition of RAGE trafficking to lipid rafts	共著	2013年2月	The Royal Society of Chemistry, <i>Food Funct.</i> , 4 , No. 2
(論文) Synthesis of 2-substituted 1,3-cycloheptanedione via a Lewis acid mediated ring expansion reaction	共著	2014年2月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry, <i>Heterocycles</i> , 88 , No. 2
Enantiodivergent synthesis of Wieland-Miescher ketone analog mediated by a chiral pyridinylmethylamine derivative	共著	2015年2月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry, <i>Heterocycles</i> , in press.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Preparation of Wieland-Miescher ketone analogues via enantiodivergent intramolecular aldol reaction mediated by a chiral triamine		2013年5月	The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry
7員環含有 Wieland-Miescher ケトンアナログを基質とするリパーゼによる速度論的光学分割		2014年3月	日本薬学会第134年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生薬学教室	職名 准教授	氏名 佐々木健郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			教科書以外に、プリント資料を用い基礎的な内容がおろそかにならないように解説している。その理解度はレポートを提出させることにより確認している。 □
2 作成した教科書、教材、参考書			プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
SSH (相馬高等学校実験授業)		平成21年9月	
宮城三女高等学校 (出前講義)		平成21年度	医薬品や化粧品への植物成分の利用と研究について
宮城県白石高等学校 (出前講義)		平成22年度	医薬品や化粧品への植物成分の利用と研究について
高大連携授業		平成22年度	医薬品や化粧品への植物成分の利用と研究について
宮城県古川高等学校 (出前講義)		平成23年度	医薬品や化粧品への植物成分の利用と研究について
福島県安積黎明高校 (出前講義)		平成24年度	医薬品や化粧品への植物成分の利用と研究について
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
1. スギヒラタケ投与によるマウス脳神経障害における腎ミネラルコルチコイド、血管内皮増殖因子及びマトリックスメタロプロテアーゼ活性の関与について	共著	2014	FOOD FUNCTION, 13
2. Monoterpene glycosides, phenylpropanoids, and acacetin glycosides from <i>Dracocephalum foetidum</i>	共著	2014	Phytochemistry, 101
3. Effect of natural flavonoids, stilbenes and caffeic acid oligomers on protein glycation	共著	2014	Biomedical Reports, 2
4. Resveratrol improves hippocampal atrophy in chronic fatigue mice by enhancing neurogenesis and inhibiting apoptosis of granular cells	共著	2011	Biol. Pharm. Bull., 34(3)
5. Matrix metalloproteinase-2 inhibitors from <i>Clinopodium chinense</i> var. <i>parviflorum</i>	共著	2009	J Nat Prod. 72(8)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
1. Constituents of <i>Phalaenopsis</i> Hybrids (Orchidaceae) Showing an Inhibitory Effect on Activated Matrix Metalloproteases		2012年3月	第85回日本薬理学会年会
2. テンマ (天麻 <i>Gastrodia Tuber</i> , Orchidaceae) のチロシナーゼ阻害作用について		2012年3月	日本薬学会第132年会

3. Flavone tetraglycosides and phenolic glycosides from <i>Dacopephalum ruyschiana</i> and their biological activities	Sep-12	Medicinal Plant and Natural Product Research Traditional and Modern Aspects International Symposium
4. 非酵素的アミノ酸糖化反応及び細胞外マトリックス分解阻害作用を有する植物成分の加齢医学への応用について	2010年7月	日本薬学会東北支部学術講演会
5. 脳虚血再灌流モデルマウスにおけるレスベラトロール投与時の海馬神経細胞に対する影響	2010年3月	日本薬学会第130年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月～9月	宮城県招聘交換留学生（ブラジル）受け入れ・教育	
平成21年	第59回日本東洋医学会学術総会運営委員	
平成21年	平成20年度日本薬学会東北支部会幹事	
平成22年	第48回日本薬学会東北支部大会実行委員会事務局長	
平成22年	平成21年度日本薬学会東北支部会幹事	
平成23年	第50回記念日本薬学会東北支部大会準備委員会委員	
平成24年4月～	日本生薬学会評議員	
	日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師東北地区講師	
平成25年4月～平成26年3月	薬学共用試験センターCBTモニター員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 心理学教室	職名 准教授	氏名 杉山雅宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			リアクションペーパーを活用し、学生の参加型講義を展開した(講義での気づき、自己理解を深めるためのワークの導入等)。 学生からの質問には翌週必ず回答(全体でシェアする)し、講義の中での双方向の関り(教員1対学生100のコミュニケーション)を重視した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年6月 平成24年10月	おもいの科学 自分心わーく(東京六法出版)単著 現代こころ病考える(東京六法出版)単著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第18回東北薬科大学生涯教育講演会(講演) 仙台市子ども相談支援センター電話相談員研修会(講演) 平成26年度日本病院薬剤師会新人研修(講演)		平成23年11月5日 平成25年7月4日 平成26年5月17日	心の健康を保つメンタルヘルス いじめられる子ども、いじめる子どもの心の理解と支援 病院薬剤師が必要なコミュニケーションスキル
4 その他教育活動上特記すべき事項 奈良県老人福祉施設協議会「テーマ別研修」(講演) 長崎県佐世保市老人福祉施設連絡協議会職員研修(講演) 介護保険地域密着型サービス事業者指導監督業務市町村研修会(講演)		平成25年9月20日 平成25年11月28日 平成26年6月16日	心の健康を保つメンタルヘルス ～まずは自分自身のケアから～ 施設で働く職員のメンタルケア 高齢者の尊厳の確保に向けて
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 通信制高等学校における電話支援の必要性	単著	平成23年3月	日本電話相談学会、電話相談学研究V o l . 20, N o . 2
(論文) 高等学校におけるいじめ被害者といじめ加害者双方への支援ーいじめを考え、いじめに向き合う新たな実践ー	単著	平成23年6月	日本保健医療行動科学学会、日本保健医療行動科学学会年報2011V o l . 26
(論文) 高等学校中途退学予防のための授業作りに関する一考察	単著	平成24年2月	東京家政大学、人間文化研究所紀要 第6集
(論文) 教師ひとり一人にできる中途退学予防策	単著	平成26年6月	社会福祉科学研究第3号(社会福祉科学研究所)
(著書) しなやか自分心わーく	単著	平成26年5月	東京六法出版
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
中途退学の自己評価に影響を及ぼす経緯の分析		平成25年11月	日本人間関係学会
カウンセリングへの理解を促すために		平成26年5月	日本学生相談学会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～現在に至る	日本学校心理士会宮城支部副会長		

平成24年4月～現在に至る	日本学校心理士会幹事
平成24年10月～現在に至る	日本人間関係学会人間関係士資格認定委員会副委員長
平成25年4月～現在に至る	日本福祉心理学会福祉心理士資格認定委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 放射薬品学教室	職名 准教授	氏名 山本 文彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>講義中に理解を完結させるため、必ず予習をす るよう指示している。具体的には講義でやる予 定の教科書を10分間だけ目を通し、キーワードを 確認しておくという簡単な方法である。講義回ご とに予習箇所を明確にするために、また欠席した 場合でも自習範囲もわかるように、教授要目にて 示した授業計画通りに進めている。</p> <p>毎回で学ぶ内容をキーワードと到達目標を講義 の初頭に明示し、講義におけるポイントをあらか じめ示しておくことで、講義中の集中力維持の助 けにしている。</p> <p>講義は、教科書、プリント、スライドを駆使し て行っている。特にスライドに置いては、症例写 真や動画、アニメーションを活用し、口頭説明や 文字情報や紙媒体では難解な内容の理解補助に役 立たせている。受講生には好評である。</p> <p>講義の終わりに、その都度ポイントを問う確認 テストをスライド表示形式で行うようにしてお り、理解不十分だった箇所の確認と必要な復習に 役立たせてもらっている。</p> <p>授業時間外の質問は随時受け付けているが、内 容は質問者だけでなく必ず次の講義で全受講生に 情報共有するようにしている。</p> <p>SNSや電子メールによる質問も受け付けている が、全受講生が共有できるようすべて講義中に回 答を行うことにしている。</p> <p>薬剤師国家試験のみならず放射線取扱主任者国 試受験者や大学院進学志望者にも役立つよう意識 して講義を進めている。</p> <p>演習科目については、C B Tや国家試験を意識 した実践的な試験問題の演習と解説を、プリント と受講者が過去に履修した科目で実際に使用した 授業スライドを示しながら解説し、復習に役立つ 内容を実施している。</p> <p>学生実習については、R Iの安全利用に役立つ よう密封線源、非密封線源の取扱いや放射線測定 に重点を置いた教育を行っている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年5月 毎年度	薬学テキストシリーズ 放射化学・放射性医薬品学、 朝倉書店（共著）（第5, 6章、付録、担当） 講義プリント、講義用パワーポイントファイル 学生実習用テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第21回海の中道R Iカンファランス（講演会）	平成20年7月13日		演題「ワシントン大学（セントルイス）におけ る腫瘍細胞増殖能イメージングマーカーとして のシグマ受容体ラジオリガンドの開発研究」
九州大学大学院薬学研究院（講演会）	平成23年7月1日		演題「新規ナノキャリア「ラクトソーム」を用 いた腫瘍指向性薬剤送達システムの開発」
東北薬科大学（高大連携事業に係る公開講座）	平成23年8月20日		演題「医療における放射線と放射性医薬品の最 前線」
宮城県仙台南高等学校（出前講義）	平成23年10月7日		演題「放射線・放射能の基礎知識と放射性医薬 品開発の最前線」

東北薬科大学第440回集談会	平成25年1月21日	演題「新規ナノキャリア「ラクトソーム」を用いた分子イメージングプローブの開発と展望」	
福岡県立修猷館高校（キャリアセミナー）	平成25年5月25日	演題「放射線・放射能の光と影～被災地から感謝をこめて～」	
青森県立青森南高校（出前講義）	平成25年9月27日	演題「放射線・放射能の話と放射性医薬品の最前線」	
神戸薬科大学（特別研究セミナー講演）	平成25年12月13日	演題「生体適合性ナノキャリア「ラクトソーム」を用いた放射性分子イメージングプローブの開発と展望」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Radionuclide Therapy Using Nanoparticle of ¹³¹ I-Lactosome in Combination with Percutaneous Ethanol Injection Therapy	共著	2013	J Nanopart Res, 15(12), article 2131
Radiosynthesis and initial evaluation of ¹⁸ F labeled nanocarrier composed of poly(L-lactic acid)-block-poly(sarcosine) amphiphilic polydepsipeptide	共著	2013	Nucl. Med. Biol., 40(3), 387-394
Pharmacokinetic Change of Nanoparticulate Formulation “Lactosome” on Multiple Administrations	共著	2012	Int Immunopharmacol, 14(3), 261-266
Control of in vivo blood clearance time of polymeric micelle by stereochemistry of amphiphilic polydepsipeptides	共著	2012	J. Control. Release, 161(3), 821-825
Effect of aging on norepinephrine-related proliferative response in primary cultured periportal and perivenous hepatocytes	共著	2012	Am. J. Physiol., 303(7), G861-9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
⁹⁰ Y-ラクトソームを用いたPEIT後の化学内照射療法 ドキシルとドキソルビシンの比較		平成26年11月	第54回日本核医学会学術総会
ヨウ素125標識ラクトソーム放射能の生体内分布における血流の影響		平成26年9月	第14回放射性医薬品・画像診断薬研究会
Synthesis and initial evaluation of radioiodine labeled A ₃ B-type Lactosome as an imaging probe of tumor and/or inflammation		平成26年6月	The Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 61th Annual Meeting
脳COX-2 を標的とした indomethacin dibenzoyl thiamideの合成と評価		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝がん細胞株 HepG2の放射線耐性獲得に対する Transglutaminase 2 の関与		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝再生における脂質代謝への加齢の影響		平成26年3月	日本薬学会第134年会
肝がん細胞のTG2による増殖応答制御		平成26年3月	第87回日本薬理学会年会シンポジウム4
東北地方太平洋沖地震に先行する大気中ラドン濃度異常変動		平成26年3月	第15回「環境放射能」研究会
¹²⁵ I標識A ₃ B型ラクトソームの病態モデル動物を用いた基礎評価		平成25年11月	第53回日本核医学会学術総会
COX イメージングを目的としたニメスリド誘導体の合成と評価		平成25年11月	第53回日本核医学会学術総会
宮城・福島・栃木における大気中ラドン濃度変動について：東北地方太平洋沖地震の先行現象		平成25年7月	第50回アイソトープ・放射線研究発表会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年12月～平成26年11月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生化学教室	職名 准教授	氏名 安保明博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			教科書、プリントおよびPowerPointを有効に使用し、理解しやすいように講義するようつとめている。 moodleを利用した練習問題やレポートの作成、電子メールを使用し積極的に質問を受け付けている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、PowerPoint作成 moodleに練習問題掲載
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Endomorphin analogues with mixed μ -opioid (MOP) receptor agonism/ δ -opioid (DOP) receptor antagonism and lacking β -arrestin2 recruitment activity	共著	2014年4月	Bioorg. Med. Chem., 22(7)
(論文) Relationship between structure and P-glycoprotein inhibitory activity of dimeric peptides related to the Dmt-Tic pharmacophore.	共著	2012年3月	Bioorg Med Chem Lett., 22(6)
(論文) Role of 2',6'-dimethyl-l-tyrosine (Dmt) in some opioid lead compounds.	共著	2010年8月	Bioorg. Med. Chem., 18(16)
(論文) Influence of the side chain next to C-terminal benzimidazole in opioid pseudopeptides containing the Dmt-Tic pharmacophore	共著	2009年9月	J Med Chem., 52(17)
(論文) Cell-penetrating peptide-conjugated XIAP-inhibitory cyclic hexapeptides enter into Jurkat cells and inhibit cell proliferation	共著	2008年12月	FEBS J., 51(16)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アルギニンミミックを含有するオピオイドペプチドの合成とオピオイド活性		2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 准教授	氏名 古澤 忍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 1 年次薬学早期体験学習 4 年次薬学統合講義Ⅳ 4 年次実務模擬実習			医療施設の見学、薬害講演会、ハンディキャップ体験を通し、医療人として心構えを伝えている。 CBT対策として病態生理学、薬理学、薬物療法学について、理解を深める講義をしている。 患者インタビュー・服薬指導が、患者背景に配慮して共感的態度で行えるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書 平成21年度 薬学科早期体験学習報告書 平成22年度 薬学科早期体験学習報告書 平成23年度 薬学科早期体験学習報告書 平成24年度 薬学科早期体験学習報告書 平成25年度 薬学科早期体験学習報告書		毎年度	薬学早期体験学習の授業で、病院、保険薬局、製薬工場、検査施設、障害児（障害者）施設、介護福祉施設に見学（体験）に行った1年次学生の感想文を年度毎にまとめている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）多発性骨髄腫とサリドマイド	単著	平成21年	看護科学研究（8巻）
（論文）薬学教育6年制における早期体験学習－生命の尊さと医療の関わり－	単著	平成22年	高等教育ジャーナル（17号）
（論文）薬害と薬剤師の役割 薬害教育から学ぶ命の大切さと薬剤師の使命感	共著	平成25年	薬学図書館（58巻2号）
（論文）Early On-site Training Programs at Tohoku Pharmaceutical University-Disability Simulation Exercises to Understand Patients and the Elderly	共著	平成25年	J.Higher Education and Lifelong Learning No. 20
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成元年4月～平成6年9月	日本薬理学会評議員		
平成6年10月～平成26年	日本薬理学会学術評議員		
平成26年1月～	全日本大学準硬式野球連盟理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 准教授	氏名 佐藤 厚子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年、22年	薬学早期体験学習(薬学科1年次必修) 実習施設の確保・調整も含め、薬局の見学体験実習を担当した。本科目のガイダンスも担当し、心構えや身だしなみなどの指導も行った。見学体験後は情報共有を目的にSGDと発表会を行わせた。ハンディキャップ体験では車いす体験を担当し、安全に配慮して個別に指導を行った。体験見学報告書(感想)を提出させて冊子体とし、各施設に送付して施設間との情報共有も行った。	
	平成21年～23年 平成24年～現在	化学演習 I (薬学科1年次必修) 無機・有機化学演習(薬学科1年次必修) 一般化学(薬学科1年次必修)の復習と有機化学 I (薬学科1年次必修)の演習として、講義プリントを用い、講義一演習(小テスト)一解説の形式による双方向授業を実施している。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の間に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させている。特に分子の立体構造の理解を深めるために、巨大分子モデルを利用し板書を工夫している。 化学演習 I の23年度後期授業評価における「科目の満足度(5段階)」は4.10(学年平均3.56)、無機・有機化学演習の25年度後期授業評価における「科目の満足度(5段階)」は4.12(学年平均3.63)であり、いずれも高い評価を得ている。この他に、独自に自由記述式(無記名)の授業アンケート調査を行い改善に努めている。	
	平成21年～25年	化学(生命薬科学科1年次必修) 高等学校で学習した化学の基礎知識を確認しながら、原子の構造から分子の成り立ちなどに関して、埋め込み式の講義プリントを用い板書を中心とした授業を行った。特に混成軌道を立体的に理解させるために、巨大分子モデルを利用し板書も工夫した。中間試験を実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。課題をレポートを提出させ、添削して返却した。25年度前期授業評価における「科目の満足度(5段階)」は4.30(学年平均3.98)であり高い評価を得た。	
	平成21年～25年	化学演習(生命薬科学科1年次必修) 化学(生命薬科学科1年次必修)の演習として、講義プリントを用い、講義一演習(小テスト)一解説の形式による双方向授業を実施した。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の間に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させた。特に濃度計算では、考え方を理解させるために、図を板書しながら計算過程を詳細に説明した。25年度前期授業評価における「科目の満足度(5段階)」は4.20(学年平均3.98)であり高い評価を得た。この他に、独自に行った自由記述式(無記名)の授業アンケートでは、授業の進め方や説明の仕方、配付プリント、板書などについて概ね高い評価を得た。	

	<p>平成21年～現在</p> <p>平成22年～現在</p> <p>平成23年～現在</p> <p>平成24年～現在</p> <p>平成25年～現在</p> <p>平成26年</p>	<p>一般化学演習（薬学科1年次選択） 一般化学（薬学科1年次必修）の演習として、講義プリントを用い、講義一演習（小テスト）一解説の形式による双方向授業を実施している。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の間に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させている。特に濃度計算では、考え方を理解させるために、図を板書しながら計算過程を詳細に説明している。25年度前期授業評価における「科目の満足度（5段階）」は4.31（学年平均3.77）であり高い評価を得ている。この他に、独自に自由記述式（無記名）による授業アンケート調査を行い改善に努めている。</p> <p>症例解析Ⅰ～Ⅳ、処方解析Ⅰ～Ⅳ、処方実務演習Ⅰ・Ⅱ（薬学科5年次必修） PBLチュートリアルにより実施している。企画運営を担当し、学生に対する導入講義や教員に対するチューター説明会を行い、チューターも担当している。実務実習と同様、1～3期に分割して実施しているため、各期終了毎に学生アンケート調査を行っている。アンケート結果をもとに、各期毎に科目担当者による検討会を開催し、教材や学習環境の改善・充実に努めている。</p> <p>臨床薬剤業務演習（薬学科6年次必修） 有機化学に関連した内容について、プリントを作成して行っている。</p> <p>基礎実習Ⅱ（薬学科1年次必修） 無機イオンの定性反応と医薬品の純度試験に関する実験を通して、実験器具の名称や化学実験の基本操作を習得させている。学生を分割し、グループ毎に教員が配置され、担当したグループ内で演示しながら学生を指導している。</p> <p>リメディアル授業（対象科目：化学、対象者：新入生指定者） 入学直後の学力確認試験において、理解が不十分だった内容を中心に演習問題を取り入れた授業を行っている。ポストテストを行い理解度を確認している。また、記述式アンケート（無記名）により、本授業に対する意識調査を行っている。</p> <p>一般化学（薬学科1年次必修） 高等学校で学習した化学の基礎知識を確認しながら、薬学で必要な化学の内容について、埋め込み式の講義プリントを用い、板書を中心とした授業を行っている。特に混成軌道を立体的に理解させるために、巨大分子モデルを利用し板書も工夫している。中間試験を実施し学生の理解度を確認している。独自に行った自由記述式（無記名）の授業アンケートでは、授業の進め方や説明の仕方、配付プリント、板書などについて概ね高い評価を得ている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	<p>平成21年、22年</p> <p>平成21年～23年</p> <p>平成21年～25年</p> <p>平成21年～25年</p> <p>平成21年～毎年</p> <p>平成22年～毎年</p> <p>平成23年～毎年</p> <p>平成24年～毎年</p> <p>平成25年～毎年</p>	<p>薬学早期体験学習 講義プリント作成</p> <p>化学演習Ⅰ 講義プリント・小テスト作成</p> <p>化学 講義プリント作成</p> <p>化学演習 講義プリント・小テスト作成</p> <p>一般化学演習 講義プリント・小テスト作成</p> <p>PBLチュートリアル授業実施要領(教員用)、 (期毎)PBLチュートリアルの進め方(教員用)、 (期毎)PBLチュートリアル授業実施要領(学生用)作成</p> <p>臨床薬剤業務演習 講義プリント</p> <p>無機・有機化学演習 講義プリント・小テスト作成</p> <p>リメディアル授業 講義プリント作成</p>

	平成26年	一般化学 講義プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第4回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (日本薬剤師研修センター主催)	平成21年 2月21日、22日	タスクフォース
第15回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 3月14日、15日	タスクフォース
第16回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 3月21日、22日	タスクフォース
第17回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 5月5日、6日	タスクフォース
第3回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 6月13日、14日	企画運営・タスクフォース
第18回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 7月19日、20日	タスクフォース
第19回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 8月29日、30日	タスクフォース
第20回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 9月26日、27日	タスクフォース
第22回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 11月22日、23日	タスクフォース
第23回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 11月28日、29日	タスクフォース
第24回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 3月6日、7日	タスクフォース
第4回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 9月11日、12日	企画運営・タスクフォース
平成22年度第12回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 10月23日、24日	タスクフォース
第26回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 12月11日、12日	タスクフォース
第27回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 7月17日、18日	タスクフォース
第1回岩手医科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 8月6日、7日	タスクフォース
第5回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 9月18日、19日	企画運営・タスクフォース
第28回東北地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成24年 8月4日、5日	タスクフォース
第29回東北地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成24年 9月8日、9日	企画運営・タスクフォース
第31回東北地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年 8月10日、11日	企画運営・タスクフォース
第9回東京薬科大学長期実務実習のためのワークショップ	平成25年 9月22日、23日	タスクフォース
第33回東北地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年 11月23日、24日	タスクフォース
第38回東北地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成26年 9月6日、7日	企画運営・タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
第14回東北薬科大学生涯教育講演会	平成21年5月30日	企画運営
東北薬科大学創立70周年記念生涯教育講演会	平成21年10月31日	企画運営
平成21年度 第1回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年11月16日	企画運営・タスクフォース
平成21年度 第2回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年12月3日	企画運営
平成21年度 第3回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年12月14日	企画運営・タスクフォース
平成21年度 第4回PBLチューター養成ワークショップ	平成22年2月4日	企画運営・タスクフォース
平成21年度 第5回PBLチューター養成ワークショップ	平成22年2月15日	企画運営・タスクフォース
平成22年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成22年4月19日	企画運営・タスクフォース

第16回東北薬科大学生涯教育講演会	平成22年6月12日	企画運営	
第17回東北薬科大学生涯教育講演会	平成22年10月30日	企画運営	
第1回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成講習会（ビデオ講習会）	平成23年2月20日	企画運営	
平成23年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成23年5月27日	企画運営・タスクフォース	
第18回東北薬科大学生涯教育講演会	平成23年11月5日	企画運営	
平成24年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成24年6月15日	企画運営・タスクフォース	
第19回東北薬科大学生涯教育講演会	平成24年6月23日	企画運営	
第20回東北薬科大学生涯教育講演会	平成24年10月27日	企画運営	
平成25年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成25年6月13日	企画運営・タスクフォース	
第21回東北薬科大学生涯教育講演会	平成25年6月29日	企画運営	
宮城県高校教育課 平成25年度高大連携事業（公開授業）	平成25年8月24日	演題「クスリの“かたち”と“効き目”一鏡に映ったもう一つの“かたち”」	
第22回東北薬科大学生涯教育講演会	平成25年11月16日	企画運営	
鶴岡北高等学校（出張講義）	平成26年6月16日	演題「クスリの“かたち”と“効き目”一鏡に映ったもう一つの“かたち”」	
第23回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年7月12日	企画運営	
平成26年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成26年8月26日	企画運営・タスクフォース	
第24回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年9月20日	企画運営	
第47回日本薬剤師会学術大会 薬学生による公開シンポジウム	平成26年10月12日	タスクフォース	
第25回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年11月8日	企画運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）新入生の化学の基礎学力向上を目的とした追跡調査	共著	平成22年8月	Yakugaku Zasshi (vol.130 No.8)
（論文）薬学部5年生へのProblem-based Learning チュートリアル導入による効果と今後の課題	共著	平成23年9月	Yakugaku Zasshi (vol.131 No.9)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新入生に対する化学の基礎学力向上の取り組みと結果		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	病院・薬局実務実習東北地区調整機構WS企画運営委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 細胞制御学教室	職名 准教授	氏名 福田 友彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、教科書の内容を補足するスライドを作成し、理解しやすい授業を行うよう工夫している。 授業終了後質問を受け付け、質問に対する答えは教室全体に伝え、全員で疑問点を共有できるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
平成25年度高大連携事業(講義)		平成25年8月24日	演題「細胞の顔“糖鎖”と“病気”の関係」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Alpha1,6-fucosyltransferase-deficient mice exhibit multiple behavioral abnormalities associated with a schizophrenia-like phenotype: importance of the balance between the dopamine and serotonin systems.	共著	2011 May	ASBMB Publications; J Biol Chem. 286(21)
(論文) Potential roles of N-glycosylation in cell adhesion.	共著	2012 Dec	Springer Glycoconjugate Journal 29(8-9)
(論文) Roles of N-acetylglucosaminyltransferase III in epithelial-to-mesenchymal transition induced by transforming growth factor β 1 (TGF- β 1) in epithelial cell lines.	共著	2012 May	American Society for Biochemistry and Molecular Biology Publications; Journal of Biological Chemistry 286(6)
(論文) Basement membrane assembly of the integrin α 8 β 1 ligand nephronectin requires Fraser syndrome-associated proteins.	共著	2012 May	The Rockefeller University Press; The Journal of Cell Biology 197(5)
(論文) α 1,6-Fucosylation regulates neurite formation via the activin/phospho-Smad2 pathway in PC12 cells: the implicated dual effects of Fut8 for TGF- β /activin-mediated signaling.	共著	2013 Jun	FASEB J. 2013; 27(10)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Impairment of hippocampal long-term potentiation and enhanced AMPA receptor complexes formation in alpha 1,6-fucosyltransferase-deficient mice		平成26年6月17日	The 22nd International Symposium on Glycoconjugates
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床薬剤学学教室	職名：准教授	氏名 岸川 幸生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、授業方法を改善している。 オフィスアワーを設け、質問を受け付けるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月 毎年度	標準薬剤学（改訂第3版）（南江堂）（共著） （IV-4担当） プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第3回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ		平成21年6月13・14日	タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
復興大学 復興のための生活構築学（講義）		平成26年6月14日	演題「避難生活〈非日常的な生活〉を乗り切るには―健康と予防、避難生活と健康―」
復興大学 復興のための生活構築学（講義）		平成25年7月6日	演題「避難生活〈非日常的な生活〉を乗り切るには―健康と予防、避難生活と健康―」
山形上山明新館高校（出前講義）		平成25年6月4日	演題「薬剤師のボランティア活動―東日本大震災の経験から―」
福島成蹊高校（出前講義）		平成25年2月21日	演題「最適な薬物療法を行うための薬剤師の役割」
復興大学 復興のための生活構築学（講義）		平成24年7月7日	演題「避難生活〈非日常的な生活〉を乗り切るには―健康と予防、避難生活と健康―」
宮城県病院薬剤師会生涯教育研修会（講演）		平成24年12月23日	演題「病院薬剤師に必要な統計学の知識」
宮城県病院薬剤師会生涯教育研修会（講演）		平成23年12月23日	演題「東日本大震災を考える薬剤師の役割―ボランティアに参加して―」
石巻西高校（出前講義）		平成23年2月3日	演題「最適な薬物療法を行うための薬剤師の役割」
福島西高校（出前講義）		平成22年7月13日	演題「最適な薬物療法を行うための薬剤師の役割」
東北薬科大学生涯教育セミナー（講演）		平成21年6月1日	演題「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の薬物療法―この処方を手にしたとき、薬剤師が考えなければならないこと―」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）標準薬剤学（改訂第3版）	共著	平成24年4月	南江堂
（論文）慢性不眠症に対するラメルテオンとゾルピデムの有効性・安全性に関するメタアナリシス	共著	平成26年4月	医薬品相互作用研究 Vol137, 3

(論文) Effects of repeated milnacipran and fluvoxamine treatment on mechanical allodynia in a mouse paclitaxel-induced neuropathic pain model	共著	平成25年	Biomed Res. 34・2
(論文) Comparative Clinical Evaluation of Efficiency and Safety between Original Drug and Generic Products (II).	共著	平成23年	医薬品情報学13(3)
(論文) Comparative Clinical Evaluation of Efficiency and Safety between Original Drug and Generic Products (I).	共著	平成21年	ジェネリック研究Vol.3, No.2
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 腎疾患患者におけるリフィーディング症候群のリスク因子の分析		平成25年10月	第7回日本腎臓病薬物療法学会学術集会
(演題名) 腎障害患者におけるアムホテリシンBリポソーム製剤の使用に関する検討		平成25年9月	第23回日本医療薬学会年会
(演題名) 抗菌薬使用量と基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌検出率に関する検討		平成25年9月	第23回日本医療薬学会年会
(演題名) 腎疾患患者の経中心静脈栄養法における糖負荷リスクの検討		平成24年9月	第6回日本腎臓病薬物療法学会
(演題名) MRSA肺炎患者におけるリネゾリドとバンコマイシンの有効性と安全性に関する統計学的検討		平成24年10月	第22回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～	宮城県病院薬剤師会学術委員会副委員長		
平成23年4月～	みやぎ腎と薬剤研究会監事		
平成23年4月～	東北労災看護専門学校非常勤講師		
平成24年4月～	宮城県病院薬剤師会薬学教育・研修特別委員会委員		
平成25年10月～	日本腎臓病薬物療法学会統計調査委員		
平成25年10月～	日本腎臓病薬物療法学会評議員		
平成26年4月～	宮城県病院薬剤師会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬理学教室	職名 准教授	氏名 中川西 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年度 毎年度	極力専門的な言葉を使わず、後で復習しやすいよう板書を中心とした講義を行っている。 薬効薬理試験評価概論では、新薬の薬理作用を取り上げ、実務実習や国家試験の合格に結びつくよう講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
宮城県立佐沼高等学校 (出前講義)		平成25年7月18日	演題「動物でこころの病気を解明できるか？」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Subchronic stress-induced depressive behavior in ovariectomized mice	共著	2009年4月	Life Sci. 84巻512-6
(論文) Behavioral and neurochemical characterization of mice deficient in the N-type Ca ²⁺ channel α 1B subunit	共著	2010年3月	Behav Brain Res. 208巻224-30
(論文) Pharmacological characterizations of memantine-induced disruption of prepulse inhibition of the acoustic startle response in mice: involvement of dopamine D2 and 5-HT _{2A} receptors	共著	2011年10月	Behav Brain Res. 224巻159-65
(著書) Pharmacological actions of p-hydroxyamphetamine in the central nervous system	共著	2012年3月	Nova Science Publishers, 187-200
(論文) Liver hydrolysate assists in the recovery from physical fatigue in a mouse model	共著	2013年11月	J Pharmacol Sci. 123巻328-35
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Angiotensin II type 1 receptor-mediated increase in spinal p38 MAPK phosphorylation leads to the induction of nociceptive behavior in mice		平成26年7月	International Narcotics Research Conference
胎児期メチルアゾキシメタノール処理マウスが神経発達障害仮説に基づいた統合失調症モデルに成り得るか？		平成26年8月	第18回活性アミンに関するワークショップ
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成16年4月～現在	活性アミンに関するワークショップ (事務局及び世話人)		
平成21年4月～平成25年3月	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人		
平成24年4月～現在	日本神経精神薬理学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬剤学教室	職名 准教授	氏名 我妻 恭行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>学生にはパワーポイントで作成した資料を配布し、講義はプロジェクターを用いて解説している。重要用語は空欄とし、手書きで書き取らせるように工夫している。</p> <p>また、ポイントになるところは、あえて板書して、学生に書き取らせるようにしている。</p> <p>授業中に、実際の製剤(医薬品)を回覧し、製剤への興味を持たせるように工夫している。</p> <p>製剤および調剤に関する計算演習を0.5コマ(宿題と解答)実施している。</p> <p>最後のコマの最後に、授業に関するアンケートを実施し、講義の改善を図っている。(講義の進め方が早い、話し方が早い、スライド移行が早い、スライドの色が見えにくい等の意見が出され、これらを改善した)</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年4月 平成25年9月 平成26年6月	<p>パワーポイントスライド(一講義あたり60~70枚程度)、パワーポイントスライド資料(16スライド/枚B4)</p> <p>製剤サンプル(固形内用剤、液剤、軟膏剤、貼付剤、注射剤)</p> <p>計算演習問題集および解答集</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 復職支援(在宅看護師)研修会 (主催:宮城県看護協会)		平成23年6月~ 26年6月、年2回 ずつ毎年	演題名「くすりの基礎知識」、「単位の話」
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成20年度東北ブロック医療安全に関する ワークショップ 救急救命士養成のための薬剤投与講習 (主催:宮城県消防学校) 宮城県放射線技師会フレッシュマンズセミナー (主催:宮城県放射線技師会) KAIZEN勉強会 (主催:東北大学病院医療安全推進室) 臨床薬理学講義 (東北大学医学部保健学科) 東北大学病院看護職員新規採用者研修会 (主催:東北大学病院) 医学部二次修練・薬剤部(主催:東北大学医学部) 高大連携授業		平成21年2月 平成21年11月 ~平成23年11 月、毎年 平成21年5月、 平成22年5月 平成21年10月~ 平成24年10月、 毎年、年2コマ 平成21年10月~ 平成24年10月、 毎年、年5コマ 平成22年9月~ 平成24年9月 平成22年9月~ 平成24年9月 平成26年8月	<p>ワークショップ 「危険薬の誤投与防止」</p> <p>演題名 「薬剤誤投与をきたす危険因子」、 「防止対策」、「危険薬」を担当</p> <p>講義とワークショップ 「医療のKYT」</p> <p>講義とワークショップ 「QC的問題解決法」、 「個別事例分析」</p> <p>講義 「医薬品概論」、「薬理学総論」、「薬物動態学総論」、「患者特性と医薬品の適正使用」、「薬物相互作用」</p> <p>講義 「注射薬の基礎知識」</p> <p>講義とワークショップ 「処方」</p> <p>演題名 「薬理学のいろは一薬の効くしくみ」</p>

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
医療事故の再発防止には事故構造の理解が不可欠	単著	平成21年	月刊薬事, 51, 1145-1178, 2009
配合変化が起こりやすい主な注射剤、単独投与が望ましい主な注射剤、溶解液に注意が必要な注射剤、投与速度に注意が必要な注射剤	共著	平成24年1月	エキスパートナーズ, 28(1), 1-7, 2012
5S	単著	平成24年7月	日病薬誌, 48, 876, 2012
特集：（“たぶん大丈夫”がのちのち重大事に！） こんなにコワイ！ リスク場面 事故につながる！ その「油断」	共著	平成25年5月	エキスパートナーズ, 29(7), 37-43, 2013
東日本大震災後に薬品情報室に寄せられた問い合わせに関する調査	共著	平成25年7月	日病薬誌, 49, 877-881, 2013
PTX療法におけるラニチジン注とファモチジン注のアレルギー発現率の後方視的コホート研究	共著	平成25年7月	日病薬誌, 49, 1091-1095, 2013
針なし注射器	単著	平成26年5月2月	日病薬誌, 50, 171, 2014
配合禁忌 まるごとチェックBOOK	共著	平成26年5月	エキスパートナーズ, 30(7), 特別付録1-20, 2014
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
東日本大震災時の保険薬局の対応に関するアンケート調査		平成25年9月	第23回医療薬学会
がん化学療法における病院と保険薬局間の情報共有への取り組み		平成25年9月	第23回医療薬学会
東北大学病院における能動的情報提供のための院内広報サイトの構築		平成25年9月	第23回医療薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	医療安全全国共同行動 技術支援部会委員		
平成21年4月～現在	医療の質・安全学会評議委員		
平成21年4月～平成24年3月	「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」協力薬剤師		
平成22年4月～平成26年6月	日本病院薬剤師会 地方編集委員		
平成25年6月～現在	宮城県医療安全研究会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 機能病態分子学教室	職名 准教授	氏名 稲森 啓一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			SGD方式を取り入れ、学生にパワーポイントの作成・発表を通じて、自主的な学習およびプレゼンテーションスキル向上を促している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
名古屋大学アドバンス生命理学特論 (講演)		平成25年11月29日	演題「先天性筋ジストロフィー原因遺伝子産物LARGEによる新規の機能性糖鎖修飾」
高大連携事業に係る公開授業 (講義)		平成26年8月23日	演題「さまざまな生命現象・病気の鍵をにぎる糖鎖」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Endogenous Glucuronyltransferase Activity of LARGE or LARGE2 Required for Functional Modification of α -dystroglycan in Cells and Tissues.	共著	2014年8月	J Biol Chem. In press.
(著書) Like-glycosyltransferase; glycosyltransferase-like 1B (LARGE, GYLTL1B).	共著	2013年3月	Handbook of Glycosyltransferases and Related Genes 2nd ed. pp1167-1179
(論文) Loss of branched O-mannosyl glycans in astrocytes accelerates remyelination.	共著	2013年6月	J Neurosci. 33:10037-10047
(論文) Xylosyl- and glucuronyltransferase functions of LARGE in α -dystroglycan modification are conserved in LARGE2.	共著	2013年3月	Glycobiology. 23:295-302
(論文) Dystroglycan function requires xylosyl- and glucuronyltransferase activities of LARGE.	共著	2012年1月	Science. 335:93-96
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) LARGEの糖転移活性による新規の機能性糖鎖修飾		2013年8月	第32回 日本糖質学会年会
(演題名) 糖転移酵素LARGEによる α ジストログリカンのリガンド結合性糖鎖修飾		2013年9月	第86回 日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 准教授	氏名 八百板康範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			分析化学Ⅱの授業アンケートの結果から、授業からの触発及び理解度に関する項目が他より低かった。このことを踏まえて、授業内容について各学生が自ら理解を深められるように、授業の要点及び応用問題に関する課題を与え、学生の学力向上に繋げることを実践している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年9月 毎年度	課題プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
石巻西高等学校 (出前講義)		平成22年2月4日	演題「社会における薬学の役割」
尚志高等学校 (出前講義)		平成23年9月3日	演題「社会における薬学の役割」
高大連携授業		平成24年8月25日	演題「分子のかたち-生体分子と医薬品の構造-」
能代高等学校 (出前講義)		平成24年11月7日	演題「分子のかたち-生体分子と医薬品の構造-」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Three New Monoterpene Glucosides from <i>Lamium amplexicaule</i>	共著	2009年10月	Helv. Chim. Acta (第92巻第10号)
(論文) Structure and Cytotoxic Activity of Enzymatic Hydrolysis Products of Secoiridoid Glucosides, Isoligustroside and Isooleuropein	共著	2011年4月	Chem. Biodivers. (第8巻第4号)
(論文) A New Geranylated Aromatic Compound from the Mushroom <i>Hericium erinaceum</i>	共著	2012年4月	Nat. Prod. Commun. (第7巻第4号)
(論文) Three New Lactarane Sesquiterpenoids from the Mushroom <i>Russula sanguinea</i>	共著	2012年9月	Nat. Prod. Commun. (第7巻第9号)
(論文) Terpenoids and Sterols from Some Japanese Mushrooms	共著	2014年3月	Nat. Prod. Commun. (第9巻第3号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ラクタラン型セスキテルペノイドBlennin Aの化学的安定性		平成25年10月	第57回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
(演題名) 日本薬局方収載医薬品のNMRスペクトル (第1報) ヒドロコルチゾン及びプレドニゾロンについて		平成26年3月	日本薬学会第134年会
III 学会および社会における主な活動			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物治療学教室	職名 准教授	氏名 菅野 秀一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 担当教科：薬学科4年・医薬品安全性学Ⅲ、薬剤学基礎実習、実務事前実習、薬学科6年国家試験対策講義、大学院講義 薬学基礎教育から実務教育への応用まで、授業や実習を通して共用試験・国家試験に合格できるよう基本的知識を講義した。			板書や配布プリントを作成するなど、わかりやすい授業を行うように工夫した。 実習では過去の実務経験をふまえるなどして、学生が将来、薬剤師として医療に貢献できるような実務的内容を積極的に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業の予備教材や実習テキスト		毎年度	プリント、パワーポイント、実習書作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 宮城県立石巻西高等学校（出前講義）		2013年3月19日	演題「クスリの主作用と副作用」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Albumin modulates docosahexaenoic acid-induced cytotoxicity in human hepatocellular carcinoma cell lines.	共著	2011年2月	Toxicol Lett. 200(3):154-61.
(論文) Involvement of p21waf1/cip1 expression in the cytotoxicity of the potent histone deacetylase inhibitor spiruchostatin B towards susceptible NALM-6 human B cell leukemia cells.	共著	2012年5月	Int J Oncol. 40(5):1391-6.
(論文) Characterization of cells resistant to the potent histone deacetylase inhibitor spiruchostatin B (SP-B) and effect of overexpressed p21waf1/cip1 on the SP-B resistance or susceptibility of human leukemia cells.	共著	2012年9月	Int J Oncol. 41(3):862-8.
(論文) Exogenous albumin inhibits sorafenib-induced cytotoxicity in human cancer cell lines.	共著	2013年1月	Mol Clin Oncol. 1(1):29-34.
(論文) Papuamine causes autophagy following the reduction of cell survival through mitochondrial damage and JNK activation in MCF-7 human breast cancer cells.	共著	2013年11月	Int J Oncol. 43(5):1413-9.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト白血病細胞株における新規ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬spiruchostatin B (SP-B)による感受性と耐性に関するp21waf1/cip1の影響		平成25年9月	日本薬理学会北部会
(演題名) ヒト白血病細胞NALM-6におけるCaffeic acid undecyle esterの殺細胞作用について (3)		平成26年3月	日本薬学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成22年9月～現在	日本薬理学会評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 感染生体防御学教室	職名 准教授	氏名 佐々木 雅人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義内容が広く浅いが、これまでに他の講義で既に習っている事が多いため、それらの復習ができればよい講義を心がける。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当無し			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第36回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (病院・薬局実務実習東北地区調整機構 主催)		平成26年 7月26, 27日	修了
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)Largen: A Molecular Regulator of Mammalian Cell Size Control.	共著	2014	Molecular Cell, Vol. 53, No. 6
(論文)D-2-hydroxyglutarate produced by mutant IDH1 perturbs collagen maturation and basement membrane function.	共著	2012	Genes and Development, Vol. 26 No. 18
(論文)IDH1 (R132H) mutation increases murine haematopoietic progenitors and alters epigenetics.	共著	2012	Nature, Vol. 488, No. 7413
(論文)TRADD contributes to tumour suppression by regulating ULF-dependent p19 ^{Arf} ubiquitination.	共著	2012	Nature Cell Biology, Vol. 14 No. 6
(論文)Regulation of the MDM2-p53 pathway and tumor growth by PICT1 via nucleolar RPL11.	共著	2011	Nature Medicine, Vol. 17 No. 8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当無し			
III 学会および社会における主な活動			
該当無し			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 環境衛生学教室	職名 講師	氏名 坂口 修平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			3年次環境衛生学実習では実習前日に90分の理論を中心とした講義を行い、実習直前に30分程度の要点説明を行い、より理解を深めさせた。終了後理解を確認するために学生一人一人に口頭質問を行い、理解が不十分の場合は説明を加えた。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	環境衛生学実習書作成、 空気試験法資料 (プリント)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Malondialdehyde-modified low lipoprotein (MDA-LDL)-induced cell growth was suppressed by polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs)	共著	2010年4月	J. Toxicol. Sci Vol 35, No2
(論文) Costruction of a system that simultaneously evaluates CYP1A1 and CYP1A2 induc in a stable human-derived cell using a dual reporter plasmid	共著	2010年4月	Drug Metab. Pharmacokinet. Vol 25, No 2
(総説) Progression of alcoholic or non-alcoholic steatohepatitis; Common metabolic aspects of innate innune system and oxidative stress	共著	2011年2月	Drug Metab. Pharmacokinet. Vol 26, No 2
(論文) Polycyclic aromatic hydrocarbons activate CYP3A4 gene transcription through human pregnane X receptor	共著	2012年4月	Drug Metab. Pharmacokinet. Vol127, No 2
(著書) 内因性敗血症及びそのショツクモデルの作成と病態・薬効評価	共著	2013年8月	技術情報協会、東京
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
HepG2細胞での鉄存在下アデノウイルスベクターを用いた薬物代謝酵素CYP2E1過剰発現の構築とその組み換え過剰発現系を利用したTNF- α のcytotoxicity		2013年12月	第19回エンドトキシン・ 自然免疫研究会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名 奈良 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Automatic Twin Vessel Recrystallizer. Effective Purification of Acetaminophen by Successive Automatic Recrystallization and Absolute Determination of Purity by DSC.	単著	2011年	Anal. Chim. Acta 685 (2011) 91-102.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Automatic Twin Vessel Recrystallizer. Acetaminophen Purification by Successive Recrystallization.		2009. 3	PITTCON 2009, Chicago
双容器交換式自動再結晶器. 反復自動再結晶法によるアセトアミノ フェンの高純度精製とDSCによる絶対純度決定法		2010. 5	第71回分析化学討論会
Automatic Twin Vessel Recrystallizer. Absolute Purity Evaluation by Determination of Critical To Value for 100% Pure Compound by DSC.		2014. 3	PITTCON 2014, Chicago
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名 渡部 俊彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			文章・口頭での説明に加え、絵や動画を用いて、複雑な講義内容を理解しやすく説明している。 講義ごとに練習問題を配付し、復習を行いやすくしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度 平成26年3月 平成25年10月 平成23年2月	プリント、パワーポイント作成 「細菌・真菌・ウイルス便覧」(技術情報協会)(共著)(Gladosporium cladosporioides 担当) 「実習実験安全ガイド」(東京化学同人)(共著)(第5章担当) 「新しい微生物学」(廣川出版)(共著)(第5章担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第3回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(東北薬科大学主催)		平成21年6月	タスクフォース・講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 平成25年度黒川郡薬剤師会研修会 ウジエ薬局研修会 角田高校「出張講義」		平成25年12月 平成25年9月 平成23年10月	演題「インフルエンザを再認識」 演題「インフルエンザについて」 演題「感染症の治し方」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Requirement of peroxiredoxin on the stationary phase of yeast cell growth	共著	平成26年1月	J. Toxicol. Sci., Vol39, No. 1
(論文) 薬害と薬剤師の役割	共著	平成25年2月	薬学図書館, Vol58, No. 2
(論文) Prediction based on Routine Serological	共著	平成22年12月	医薬品相互作用研究会誌
Test Values of Fungaldic Infection Patients whose Condition may become Serious			Vol34, No. 2
(論文) Effect of propranolol on hyphae formation signal in Candida	共著	平成21年1月	Biol Pharm Bull., Vol32, No. 1
(論文) Anticandida activity of sodium sulfite.	共著	平成20年6月	Biol Pharm Bull., Vol31, No. 6
(論文) Antifungal mechanism of hinokitiol against Candida albicans.	共著	平成20年4月	Biol Pharm Bull., Vol31, No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
代謝変化時の活性酸素種産生とペルオキシレドキシンの機能		平成24年10月	環境トキシコロジー
代謝変化時の活性酸素種産生とペルオキシレドキシンの機能		平成24年5月	日本生化学会・東北支部
ペルオキシレドキシンのエタノール代謝制御機構の解明		平成24年3月	日本薬学会第132年会

代謝変化時の活性酸素種産生とペルオキシレドキシンの機能	平成23年12月	第34回日本分子生物学会
Cladosporium cladosporioides 増殖性と培養温度との関係	平成22年3月	第83回日本細菌学会
血清検査値から重篤化する可能性のある患者を予測する試み	平成22年3月	日本薬学会130年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年4月～平成22年3月	日本キチン・キトサン学会理事	
平成17年4月～平成24年3月	日本細菌学会東北支部地方委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 英語学教室	職名 講師	氏名 菅原 美佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎回	単なる直訳から脱し、本物の英語の応用力を身につける訓練として、一人で集中して取り組む時間とグループで活動する時間とを設けている。具体的には英字新聞記事をまず自分で読んで解釈した後、グループ内で活発な議論をしながら自分の言葉でまとめ直す作業をさせている。また、授業アンケートに基づき、見やすい板書やわかりやすい話し方を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎回	英字新聞「Japan Times ST」等の最新の切り抜き記事を用いて独自のプリントを作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成22年3月	日本英文学会東北支部 大会実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 環境衛生学教室	職名 講師	氏名 熊谷 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、最新の情報を加えつつ、より分かり易い授業を心がけている。 板書の内容が、そのまま授業のまとめになるように構成し、学生が復習し易いように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント等作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
福島東高等学校 (出張講義)		平成21年11月11日	「ちょっとかわった薬学～公衆衛生学入門～」について
福島西高等学校 (出張講義)		平成23年6月15日	「公衆衛生学入門」について
尚志高等学校 (出張講義)		平成24年9月29日	「公衆衛生学入門」について
福島西高等学校 (出張講義)		平成26年6月18日	「公衆衛生学入門」について
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Construction of a System that Simultaneously Evaluates CYP1A1 and CYP1A2 Induction in a Stable Human-derived Cell Line using a Dual Reporter Plasmid	共著	2010年4月	Drug Metab Pharmacokinet Vol. 25, No. 2
(論文) Polycyclic Aromatic Hydrocarbons Activate CYP3A4 Gene Transcription through Human Pregnane X Receptor	共著	2012年4月	Drug Metab Pharmacokinet Vol. 27, No. 2
(論文) Synthetic biotinylated peptide compounds derived from Asp-hemolysin: Novel potent inhibitors of platelet-activating factor	共著	2012年6月	Eur. J. Pharmacol. Vol. 685, No. 1-3
(論文) Hepatocyte Nuclear Factor 6 Activates the Transcription of CYP3A4 in Hepatocyte-like Cells Differentiated from Human Induced Pluripotent Stem Cells	共著	2013年6月	Drug Metab Pharmacokinet Vol. 28, No. 3
(論文) A synthetic biotinylated peptide, BP21, inhibits the induction of mRNA expression of inflammatory substances by oxidized- and lyso-phosphatidylcholine	共著	2014年6月	Drug Dev Res Vol. 75, No. 4

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
健康食品である板藍根のCYP3A4発現誘導に及ぼす影響	2013年5月	創薬研究センターシンポジウム
MRP3遺伝子発現誘導に関与するMAPK経路の解析	2013年5月	創薬研究センターシンポジウム
多環芳香族炭化水素によるCYP2D6およびCYP3A4の発現に及ぼす影響の解析	2013年6月	P450、UGT、SULT研究会
CYP3A4遺伝子発現誘導に及ぼす健康食品の影響	2013年9月	フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー
新規P450活性阻害実験系の開発と健康食品による薬物代謝活性阻害評価	2013年9月	フォーラム2013 衛生薬学・環境トキシコロジー
CYP2D6活性阻害評価系の構築と健康食品の使用実態調査に基づいた薬物相互作用の解析	2013年9月	日本医療薬学会年会
板藍根含有成分のCYP1A1/1A2遺伝子発現に及ぼすPXRの影響	2014年6月	創薬研究センターシンポジウム
AhRを介さない多環芳香族炭化水素によるCYP誘導機構の解明	2014年6月	創薬研究センターシンポジウム
アデノウイルスを用いた新規CYP3A4活性阻害実験系の開発と健康食品による薬物代謝活性阻害評価	2014年6月	創薬研究センターシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
～現在	東北薬科大学同窓会幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生体膜情報学教室	職名 講師	氏名 三苦 純也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績			概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 動画などを引用し、脳裏に印象づけるよう心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
白石高等学校 (出前講義)		平成22年7月20日	演題「糖と病気と薬の話」
能代高等学校 (出前講義)		平成22年10月20日	演題「糖と病気と薬の話」
高大連携高校生向講義 (当大学)		平成24年8月25日	演題「糖と病気と薬の話」
青森東高等学校 (出前講義)		平成24年9月13日	演題「糖と病気と薬の話」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Core 0-glycans required for lymphocyte homing gene knockout mice of core 1 beta1,3-N-acetylglucosaminyltransferase and core 2 N-acetylglucosaminyltransferase.	共著	2010年	Methods in Enzymology 479:257-70
(論文) Prominent expression of sialyl Lewis X-capped core 2-branched O-glycans on high endothelial venule-like vessels in gastric MALT lymphoma.	共著	2011年5月	Journal of Pathology 224:67-77
(論文) Gangliosides and chondroitin sulfate desensitize and internalize B2 bradykinin receptors.	共著	2012年3月	Biochemical and Biophysical Research Communications 420:193-8
(論文) Sialidase NEU4 hydrolyzes polysialic acids of neural cell adhesion molecules and negatively regulates neurite formation by hippocampal neurons.	共著	2012年4月	Journal of Biological Chemistry 287:14816-26
(論文) Gangliosides stimulate bradykinin B2 receptors to promote calmodulin kinase II-mediated neuronal differentiation.	共著	2012年7月	Journal of Biochemistry 152:63-72
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウスシアリダーゼNeu3の細胞内輸送		平成26年9月	第7回東北糖鎖研究会
(演題名) 培地交換による細胞からのATPパラ分泌の分子機構		平成26年9月	第86回日本生化学会
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名 諸根美恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年～ 平成23年 平成24年～ 現在	<p>化学演習 I (薬学科1年次必修)</p> <p>無機・有機化学演習 (薬学科1年次必修)</p> <p>一般化学 (薬学科1年次必修) の復習と有機化学 I (薬学科1年次必修) の演習として、講義プリントを用い、講義一演習 (小テスト) 一解説の形式による双方向授業を実施している。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の間に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させている。特に分子の立体構造の理解を深めるために、巨大分子モデルを利用し板書を工夫している。</p> <p>化学演習 I の23年度後期授業評価における「科目の満足度 (5段階)」は4.10 (学年平均3.56)、無機・有機化学演習の25年度後期授業評価における「科目の満足度 (5段階)」は4.12 (学年平均3.63) であり、いずれも高い評価を得ている。この他に、独自に自由記述式 (無記名) の授業アンケート調査を行い改善に努めている。</p>	
	平成21年～ 平成24年	<p>薬局体験見学実習 (薬学科2年次希望者対象)</p> <p>夏期休暇を利用した故郷実習の企画運営を行った。実習施設の調整の他、学生に対して心構え等を徹底的に指導した。実施後はSGDを行い体験を共有させるとともに、次年度初めに1学年下の学生オリエンテーションで、体験紹介の発表をさせた。</p>	
	平成22年～ 現在	<p>症例解析 I～IV、処方解析 I～IV、処方実務演習 I・II (薬学科5年次必修)</p> <p>PBLチュートリアルにより実施している。企画運営を担当し、学生に対する導入講義や教員に対するチューター説明会を行い、チューターも担当している。実務実習と同様、1～3期に分割して実施しているため、各期終了毎に学生アンケート調査を行っている。アンケート結果をもとに、各期毎に科目担当者による検討会を開き、教材や学習環境の改善・充実に努めている。</p>	
	平成23年～ 現在	<p>一般化学演習 (薬学科1年次選択)</p> <p>一般化学 (薬学科1年次必修) の演習として、講義プリントを用い、講義一演習 (小テスト) 一解説の形式による双方向授業を実施している。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の間に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させている。特に濃度計算では、考え方を理解させるために、図を板書しながら計算過程を詳細に説明している。25年度前期授業評価における「科目の満足度 (5段階)」は4.31 (学年平均3.77) であり高い評価を得ている。この他に、独自に自由記述式 (無記名) による授業アンケート調査を行い改善に努めている。</p>	
	平成23年～ 現在	<p>臨床薬剤業務演習 (薬学科6年次必修)</p> <p>プリントとパワーポイントを活用し、有機化学に関連させた内容で講義・演習を行っている。</p>	

	平成24年～ 現在	基礎実習Ⅱ（薬学科1年次必修） 無機イオンの定性反応と医薬品の純度試験に関する実験を通して、実験器具の名称や化学実験の基本操作を習得させている。学生を分割し、グループ毎に教員が配置され、担当したグループ内で演示しながら学生を指導している。
	平成25年～ 現在	分析化学Ⅰ（生命薬科学科1年次必修） 化学分析の基盤となる化学平衡や代表的な定量法について、理解をより深められるよう現象を図示しながら板書を中心とした講義を行っている。学期の中間で課題レポートを提出させ、添削して返却している。25年度後期の授業評価における「科目の満足度（5段階）」は4.41（学年平均4.11）であり高い評価を得ている。この他独自に自由記述式（無記名）による授業アンケート調査を行い、改善に努めている。
	平成26年	リメディアル授業（新入生指定者対象） 入学直後の学力確認試験において、理解が不十分だった内容を中心に演習問題を取り入れた授業を行っている。ポストテストを行い理解度を確認している。また、記述式アンケート（無記名）により、本授業に対する意識調査を行っている。
		化学（生命薬科学科1年次必修） 高等学校で履修した化学の基礎知識を確認しながら、原子の構造から分子の成り立ちなどに関して、埋め込み式の講義プリントを用い板書を中心とした授業を行った。特に混成軌道を立体的に理解できるよう巨大分子モデルや風船を利用し板書を工夫した。中間試験や課題レポートにより学生の理解度を確認しながら講義を進めた。レポートはすべて添削して返却した。独自に行った自由記述式（無記名）の授業アンケートでは、授業の進め方や説明の仕方について概ね好評を得た。
		化学演習（生命薬科学科1年次選択） 化学（生命薬科学科1年次必修）の演習として、講義プリントを用い、講義－演習（小テスト）－解説の形式による双方向授業を実施した。小テストの解答をマークシートで回収することにより、個々の問に対する理解度を毎回確認し、次回の講義に反映させた。特に濃度計算では、考え方を理解させるために、図を板書しながら計算過程を詳細に説明した。少人数（39名）の演習であったので早期に全員の名前を覚え、指名せずに学生が自主的に挙手して解答を発表しようとする雰囲気を作った。
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年～23年 平成22年～毎年 平成23年～毎年 平成24年～毎年 平成25年～毎年 平成26年	化学演習Ⅰ 講義プリント・小テスト作成 PBLフューリアル授業実施要領(教員用)、 (期毎) PBLフューリアルを進め方(教員用)、 (期毎) PBLフューリアル授業実施要領(学生用)作成 臨床薬剤業務演習 講義プリント、パワーポイント作成 一般化学演習 講義プリント・小テスト作成 無機・有機化学演習 講義プリント・小テスト作成 分析化学Ⅰ 講義プリント作成 リメディアル授業 講義プリント作成 化学 講義プリント・小テスト作成 化学演習 講義プリント・小テスト作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第4回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (日本薬剤師研修センター主催) 第15回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 2月21日、22日 平成21年 3月14日、15日	タスクフォース タスクフォース

第16回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 3月21日、22日	タスクフォース
平成20年度 第2回ワークショップタスクフォースのスキル・アップ集会 In 京都	平成21年3月25日	タスクフォース
第17回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 5月5日、6日	タスクフォース
第3回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 6月13日、14日	企画運営・タスクフォース
第16回北海道認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 7月4日、5日	タスクフォース
第18回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 7月19日、20日	タスクフォース
第19回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 8月29日、30日	タスクフォース
第5回茨城県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 9月22日、23日	タスクフォース
第20回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 9月26日、27日	タスクフォース
第4回群馬県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 11月22日、23日	タスクフォース
第23回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 11月28日、29日	タスクフォース
第18回北海道地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 12月12日、13日	タスクフォース
第9回埼玉県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成21年 1月10日、11日	タスクフォース
第24回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 3月6日、7日	タスクフォース
シンポジウム「新しい薬学教育へー若手教員の取り組みと現状」(日本薬学会第130年会)	平成22年3月30日	オーガナイザー・シンポジストとして演題「東北薬科大学における基礎学力向上のための取り組み」の講演
平成22年度第5回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 7月18日、19日	タスクフォース
第4回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 9月11日、12日	企画運営・タスクフォース
平成22年度第10回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 9月25日、26日	タスクフォース
平成22年度第12回関東地区調整機構実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 10月23日、24日	タスクフォース
第26回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成22年 12月11日、12日	タスクフォース
平成22年度第14回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 1月9日、10日	タスクフォース
平成23年度第1回関東地区調整機構実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 4月16日、17日	タスクフォース
第27回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 7月17日、18日	タスクフォース
第1回岩手医科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 8月6日、7日	タスクフォース
第5回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 9月18日、19日	企画運営・タスクフォース
平成23年度第10回関東地区調整機構実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成23年 9月24日、25日	タスクフォース
第29回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成24年 9月8日、9日	企画運営・タスクフォース
第13回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成24年 9月16日、17日	タスクフォース
第65回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿	平成25年 3月9日、10日	タスクフォース

第1回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）	平成25年 4月27日、28日	タスクフォース	
第30回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年 7月20日、21日	タスクフォース	
第31回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年 8月10日、11日	企画運営・タスクフォース	
第25回北海道地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年 9月15日、16日	シニアタスクフォース	
第26回北海道地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成26年 6月7日、8日	シニアタスクフォース	
第36回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成26年 7月26日、27日	タスクフォース	
第38回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成26年 9月6日、7日	企画運営・タスクフォース	
平成26年度第12回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）	平成26年 11月2日、3日	タスクフォース	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第14回東北薬科大学生涯教育講演会	平成21年5月30日	企画運営	
東北薬科大学創立70周年記念生涯教育講演会	平成21年10月31日	企画運営	
平成21年度 第1回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年11月16日	企画運営・タスクフォース	
平成21年度 第2回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年12月3日	企画運営・タスクフォース	
平成21年度 第3回PBLチューター養成ワークショップ	平成21年12月14日	企画運営・タスクフォース	
平成21年度 第4回PBLチューター養成ワークショップ	平成22年2月4日	企画運営・タスクフォース	
平成21年度 第5回PBLチューター養成ワークショップ	平成22年2月15日	企画運営・タスクフォース	
平成22年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成22年4月19日	企画運営・タスクフォース	
第16回東北薬科大学生涯教育講演会	平成22年6月12日	企画運営	
第17回東北薬科大学生涯教育講演会	平成22年10月30日	企画運営	
第1回東北薬科大学主催認定実務実習指導薬剤師養成講習会（ビデオ講習会）	平成23年2月20日	企画運営	
平成23年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成23年5月27日	企画運営・タスクフォース	
第18回東北薬科大学生涯教育講演会	平成23年11月5日	企画運営	
平成24年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成24年6月15日	企画運営・タスクフォース	
第19回東北薬科大学生涯教育講演会	平成24年6月23日	企画運営	
第20回東北薬科大学生涯教育講演会	平成24年10月27日	企画運営	
平成25年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成25年6月13日	企画運営・タスクフォース	
第21回東北薬科大学生涯教育講演会	平成25年6月29日	企画運営	
第22回東北薬科大学生涯教育講演会	平成25年11月16日	企画運営	
第23回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年7月12日	企画運営	
平成26年度 PBLチューター養成ワークショップ	平成26年8月26日	企画運営・タスクフォース	
第24回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年9月20日	企画運営	
第25回東北薬科大学生涯教育講演会	平成26年11月8日	企画運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）新入生の化学の基礎学力向上を目的とした追跡調査	共著	平成22年8月	Yakugaku Zasshi (vol.130 No. 8)
（論文）薬学部5年生へのProblem-based Learning チュートリアル導入による効果と今後の課題	共著	平成23年9月	Yakugaku Zasshi (vol.131 No. 9)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新入生に対する化学の基礎学力向上の取り組みと結果		平成27年3月	日本薬学会第135年会

宮城県病院薬剤師会フィジカルアセスメント研修の成果と課題	平成27年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年5月～平成24年3月	宮城県病院薬剤師会薬学教育委員会委員	
平成24年10月～現在	宮城県病院薬剤師会薬学教育・研修特別委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 創薬化学教室	職名 講師	氏名 太田公規
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業プリント、過去の試験問題などの電子ファイルを共有フォルダに入れ、学生がいつでも学習できるようにしている 授業は、かならず前回までの復習から入る 授業アンケートの実施および定期試験問題の公開
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	授業アンケートの内容を踏まえ、プリントおよびパワーポイントの改訂 定期試験問題の公開
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Novel Estrogen Receptor (ER) Modulators Containing Various Hydrophobic Bent-Core Structures	共著	2014	Bioorg. Med. Chem. 22
(論文) Enhanced Estrogen Receptor Beta (ERβ) Selectivity of Fluorinated Carborane-containing ER Modulators	共著	2013	Bioorg. Med. Chem. Lett. 23
(論文) Development of Androgen Receptor Ligands by Application of Ten-vertex p-Carborane as a Novel Hydrophobic Core Structure	共著	2012	Med. Chem. Commun. 3
(論文) Estrogenic Activity of B-Fluorinated o-Carborane-1,2-bisphenol Synthesized via SNAr Reaction	共著	2012	Bioorg. Med. Chem. Lett. 22
(論文) RXR-γ is Implicated in Docosahexaenoic Acid Modulation of Despair Behaviors and Working Memory in Mice	共著	2011	Biol. Psychiatry 69
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) エストロゲン代謝物を基にデザインした新規抗腫瘍性化合物の探索		2013年5月	創薬研究センターシンポジウム
(演題名) キサンチンオキシダーゼ阻害活性を有するトリアジン誘導体		2013年11月	メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題名) カルボラニルフェニルグリセロール誘導体におけるカルボラン環上炭素の位置異性と抗アンドロゲン活性の関係		2013年11月	メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題名) 眼球摘出マウスの認知障害に対する新規化合物BE360の改善効果		2013年8月	活性アミンに関するワークショップ
(演題名) 眼球摘出マウスのうつ様行動に対する新規化合物BE360の改善効果		2013年8月	生体機能と創薬シンポジウム2013
(演題名) 化合物ライブラリーの構築とランダムスクリーニングからの創薬展開		2013年5月	創薬研究センターシンポジウム
(演題名) カルボランの特性を利用したtripodalホスト化合物の創製		2013年5月	次世代を担う有機化学シンポジウム

(演題名) アダマンタンを疎水性骨格とするエストロゲン受容体リガンドの探索: 疎水性構造の変換による活性制御	2013年10月	日本薬学会東北支部大会
(演題名) 疎水性構造の変換によるジフェニルメタン誘導体のERサブタイプ選択性	2013年10月	日本薬学会東北支部大会
(演題名) 新規キサントキシダーゼ阻害剤の創製	2014年3月	日本薬学会第133年会
(演題名) 新規カルボラン含有ARアンタゴニストの開発: カルボラン環上炭素の位置異性と活性との関係	2014年3月	日本薬学会第133年会
(演題名) Design and synthesis of artificial molecular receptors with 1,3,5-tris(o-carboranyl)arene structure	Oct, 2013	Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医薬合成化学教室	職名 講師	氏名 渡邊 一弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学生が理解しやすいように教科書をまとめたプリントを作成し、それらを活用した講義を行っている。さらに、質問のある学生はオフィスアワー以外の時間でも可能な限り対応するようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年3月 毎年度	「基礎有機化学問題集」(廣川書店)(共著) (第7章担当) プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 海外研修留学		平成25年4月 ～平成26年3月	米国 オレゴン州立大学(OSU) 化学科 Rich G. Carter 研究室に1年間の研究および 教育に関する海外留学を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Total Synthesis of Spiruchostatin B, a Potent Histone Deacetylase Inhibitor, from a Microorganism	共著	2008年2月	<i>Chem. Commun.</i> , 2008, 1677-1679
Enantioselective Total Synthesis of (-)-Candelalides A, B and C:	共著	2009年2月	<i>Chem. Eur. J.</i> , 2009, 15, 2826-2845.
Total Synthesis of (+)-Stachyflin: A Potential Anti-Influenza A Virus Agent	共著	2010年4月	<i>Chem. Commun.</i> 2010, 46, 4055-4057
Effective Chemoselective Deprotection of 3,4-Dimethoxybenzyl (3,4DMB) Ethers in the presence of Benzyl and p-Methoxybenzyl (PMB) Ethers by Phenyliodine(III) Bis(trifluoroacetate) (PIFA)	共著	2011年8月	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 2011, 52, 5395-5397.
Deprotection of 3,4-Dimethoxybenzyl (3,4DMB) Group on γ -Lactam Nitrogen Using Phenyliodine(III) Bis(trifluoroacetate) (PIFA): Application to Isoindolinone Compounds	共著	2012年8月	<i>Heterocycles</i> , 2012, 84, 1355-1361.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Synthesis of Dihydropyran Derivatives Using Ag(I)-Catalyzed Cyclization: Model Study Towards Southern Half of Mandelalide A		July, 2013	68th ACS Northwest Regional Meeting (NORM13) Corvallis, OR, USA
Ag(I)-Catalyzed Cyclization of Propargylic Benzoates to Access Polysubstituted THP Rings		March, 2014	247th ACS National Meeting & Exposition Dallas, TX, USA
Synthetic Studies Toward C15-C24 Northern Half of Mandelalide A		March, 2014	247th ACS National Meeting & Exposition Dallas, TX, USA
III 学会および社会における主な活動			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物治療学教室	職名 講師	氏名 蓬田 伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年9月 毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
仙台西高等学校 (出前講義)		平成25年3月19日	「処方せんとは」
佐沼高等学校 (出前講義)		平成26年7月17日	「生体防御と生体破壊-1枚のコインの裏と表？」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Recent aspects of the anti-inflammatory actions of glucosamine.	共著	2011年	Carbohydrate Polymers Vol. 84
(論文) Acacetin induces apoptosis in human T cell leukemia Jurkat cells via activation of a caspase cascade.	共著	2012年	Oncol Rep. Vol. 27
(論文) Papuamine causes autophagy following the reduction of cell survival through mitochondrial damage and JNK activation in MCF-7 human breast cancer cells.	共著	2013年	Int J Oncol. Vol. 43
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Doxorubicin耐性K562細胞を用いたグアニンヌクレオチド交換タンパク質 (guanine nucleotide-exchange protein:GEP) のP-糖タンパク質発現における役割の検討		2014年5月	日本生化学会東北支部
(演題名) Involvement of a guanine nucleotide-exchange protein, ARF-GEP100, in the anticancer agent resistance of K562 human leukemia cells		2014年10月	日本生化学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年12月～	未病システム学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 講師	氏名 勝山 壮
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・演習を行うよう工夫している。板書も大きく文字を書くように努めている。講義と演習を組み合わせ問題の解くこととしている。講義プリントに問題プリントを添付作成し学生の理解度を確認している。
2 作成した教科書 作成した教材、参考書		平成24年4月	標準薬剤学改訂第3版(南江堂)(共著)(第IV章4担当)
		平成21年	機能形態学Ⅲプリント作成(2年生)
		平成21年	薬理学実習実習書作成(3年生)
		平成21年	実務事前学習実習(コミュニケーション)実習書作成(4年生)
		平成21年	臨床薬学英語Sプリント作成(4年生)
		平成22年～毎年度	実務模擬実習(無菌調製)実習書作成(4年生)
		平成22年～毎年度	実験実習Ⅸ(TDM)実習書作成(4年生)
		平成22年～毎年度	PBLアドバイザー講義資料・症例作成(5年生)
		平成23年～毎年度	実務実習講義Ⅰプリント作成(4年生)
		平成23年～毎年度	医療管理業務演習(実務)、臨床薬剤業務演習(病態)プリント作成(6年生)
		平成24年～毎年度	統合講義ⅥⅠプリント作成(4年生)
		平成24年～毎年度	薬学専攻博士課程実践薬物治療学特論(肝疾患)プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
白石高等学校(出前講義)サマーカレッジ		2012年7月	「鎮痛薬の基礎から臨床まで」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The cannabinoid 1 receptor antagonist AM251 produces nociceptive behavior via activation of ERK signaling pathway	共著	平成22年11月	Neuropharmacology Vol. 59
(論文) Antinociceptive effects of spinally administered nociceptin/orphanin FQ and its N-terminal fragments on capsaicin-induced nociception	共著	平成23年7月	Peptides Vol. 32

(論文) Intraplantar injection of linalool reduces paclitaxel-induced acute pain in mice	共著	平成24年6月	Biomed Res Vol. 33
(論文) Involvement of peripheral cannabinoid and opioid receptors in β -caryophyllene-induced antinociception	共著	平成25年6月	Eur J Pain Vol. 17
(論文) Spinal ERK2 activation through $\delta 2$ -opioid receptors contributes to nociceptive behavior induced by intrathecal injection of Leucine-enkephalin	共著	平成26年4月	Peptides Vol. 54
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ミルナシبرانおよびフルボキサミンによるビンクリスチン誘発性末梢神経障害抑制効果の検討		平成25年7月	日本薬学会
Bergamot essential oil及び含有成分Linalool局所投与によるモルヒネの抗侵害併用効果について		平成25年7月	日本薬学会
ミルナシبرانおよびフルボキサミンによるパクリタキセル誘発性末梢神経障害抑制効果の検討		平成25年7月	日本薬学会
セチプチリン足蹠内投与による抗侵害刺激作用		平成25年7月	日本薬学会
腎障害患者におけるアムホテリシンBリポソーム製剤の使用に関する研究		平成25年9月	日本医療薬学会
カルバペネム系抗菌薬の使用量と緑膿菌耐性率との関連に関する調査		平成25年9月	日本医療薬学会
CB1 受容体拮抗薬AM251 はERK の活性化を介して疼痛関連行動を起こす		平成25年10月	日本薬学会
薬学生を対象にした専門薬剤師・認定薬剤師に関する調査		平成25年10月	日本薬学会
腎疾患患者におけるリフィーディング症候群のリスク因子の分析		平成25年10月	日本腎臓病薬物療法学会
医薬品の臨床検査妨害に関する研究—尿試験紙法に及ぼす医薬品の影響—		平成26年3月	日本薬学会
抗うつ薬によるオキサリプラチン誘発性末梢神経障害抑制効果の検討		平成26年6月	日本薬学会
アロマセラピー精油局所投与によるパクリタキセル誘発性末梢神経障害性疼痛抑制効果の検討		平成26年6月	日本薬学会
Lavender l oil局所投与による抗侵害作用の検討		平成26年6月	日本薬学会
セチプチリンの抗侵害刺激作用におけるNO-cGMP 経路とATP 感受性K ⁺ チャネルの役割		平成26年6月	日本薬学会
セチプチリンの末梢性抗侵害刺激作用機構の解明		平成26年6月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成26年3月	宮城県病院薬剤師会生涯教育特別委員会委員		
平成26年4月～	宮城県病院薬剤師会広報委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床分析化学教室	職名 講師	氏名 大野賢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義を行うよう工夫している。 演習問題を活用して学生の理解を深めるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成26年3月 毎年度	「よくわかる薬学分析化学」(廣川書店) (共著)(第4章担当) プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 福島県立安積黎明高等学校(出前講義)		平成25年11月6日	演題「ホタルの光で病気を診る」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Low-Cost Fluorimetric Determination of Radicals Based on Fluorogenic Dimerization of the Natural Phenol Sesamol	共著	2010年2月	Anal. Chem., vol. 82 No. 4
Development of RNA aptamer and its ligand binding assay on Microchip Electrophoresis	共著	2012年1月	Curr. Chem. Genomics, vol. 6
New fluorimetric assay of horseradish peroxidase using sesamol as substrate and its application to EIA	共著	2012年4月	J. Pharma. Anal., vol. 2 No. 2
イムノアッセイのための前処理法	共著	2013年9月	ぶんせき(第465巻第9号)
Development of a highly sensitive chemiluminescent assay for hydrogen peroxide under neutral conditions using acridinium ester and its application to an enzyme immunoassay	共著	2014年6月	Luminescence, vol. 29 No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アンドロゲンの高感度質量分析法の開発と唾液試料への応用		平成25年10月	日本薬学会東北支部大会
(演題名) 質量分析による生体試料中アンドロゲンの高感度分析法の開発		平成26年8月	日本臨床化学会東北支部総会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年3月～	「分析化学」編集委員(日本分析化学会)		
平成23年7月～	日本分析化学会都北支部幹事		
平成24年4月～	薬学共用試験CBT問題管理委員		
平成26年4月～	日本薬学会東北支部幹事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医薬情報科学教室	職名 講師	氏名 川上 準子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートを基に、わかりやすい講義と薬学の実践的な演習を行い、スタッフ、TAが演習中は巡回してサポートし、個々のレベルアップと理解度の向上につながるよう工夫している。さらに、複数回の課題に取り組むことで、反復復習となり達成感の向上をねらっている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年3月 平成25年4月 毎年度	「Windows Vistaによるコ・メディカルのための情報リテラシー」 (共立出版) (共著) (3, 5-14章担当) 「Windows7によるコ・メディカルのための情報リテラシー」 (共立出版) (共著) (3, 5-14章担当) Word, Excel, PP, PDF形式などのデジタル教材を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第131年会 日本医療薬学会第21回年会		平成23年3月 平成23年10月	演題: 京都薬科大学一東北薬科大学間遠隔授業での学習支援システム (LMS) を活用した初年度教育における取り組み 演題: 初年度教育における大学間合同遠隔授業での学習支援システムを活用した取り組み
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 抗菌薬サークル図データブック 第2版	共著	平成22年11月	じほう社
(著書) 薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方～病院・薬局に活かせる新しい取り組み	共著	平成25年12月	医薬ジャーナル社
(論文) 副作用情報のSOMを用いたビジュアル化と解析～降圧薬を用いて～	共著	平成22年7月	医薬ジャーナル (Vol. 46, No. 7)
(論文) 副作用情報を用いたビジュアル化と解析～糖尿病治療薬を用いて～	共著	平成25年2月	医薬ジャーナル (Vol. 49, No. 2)
(論文) データマイニング手法を用いた医薬品副作用発現情報のビジュアル化と解析、臨床応用	単著	平成26年1月	薬学雑誌 (Vol. 134, No. 1)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) パターン認識手法による基本的検査を用いた甲状腺機能異常症の診断支援～東北公済病院人間ドックにおけるスクリーニングの結果		平成25年8月	日本人間ドック学会
(演題名) パーキンソン病治療薬副作用情報のインフォマティクスを用いたビジュアル化と解析、臨床応用		平成25年10月	日本薬学会東北支部大会
(演題名) 複数の基本的検査項目セットによる甲状腺機能異常症の診断支援～東北公済病院におけるスクリーニング結果と検査値時系列解析の試み		平成25年11月	日本甲状腺学会
III 学会および社会における主な活動			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名；機能形態学教室	職名；講師	氏名 渡辺 千寿子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		他教科との関連性を視野にいれ講義を行うようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 高校生実験講座 宮城県石巻好文館高等学校（出前講義） アカデミックインターンシップ	平成23年10月15日 平成25年11月14日 平成26年9月2日	「痛みと鎮痛薬」 「薬学への招待」 「実験動物を用いて鎮痛薬の効果を試してみよう」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
New therapy for neuropathic pain.	共著	平成21年6月	Int. Rev. Neurobiol., 85,
Characterization of intrathecally administered hemokinin-1-induced nociceptive behaviors in mice.	共著	平成22年4月	Peptides, 31
Lack of a rewarding effect and a locomotor-enhancing effect of the selective μ -opioid receptor agonist amidino-TAPA.	共著	平成22年10月	Psychopharmacology, 212
New vistas in opioid control of pain.	共著	平成24年2月	Curr. Opin. Pharmacol., 12
The involvement of the spinal release of glutamate and nitric oxide in perioheral noxious stimulation-induced pain-related behaviors-Study in mouse spinal microdialysis-	共著	平成24年2月	Neurosci. Lett., 515
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
μ 受容体作動薬ADAMBの脊髄における抗侵害作用発現機序		平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
Phosphorylation of mu opioid receptor reduced morphine analgesia in inflammatory pain state		平成25年7月	International Narcotic Research Conference
Effectiveness of amidino-TAPA against morphine-resistant neuropathic pain		平成25年7月	International Narcotic Research Conference
多発性硬化症疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果		平成25年9月	第33回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
脊髄疼痛伝達機構に対する μ 受容体サブクラスの多様の制御の解析		平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
デルモルフィン誘導体TAPAの脊髄鎮痛作用発現機構		平成25年10月	第52回日本薬学会東北支部大会

神経絞扼性癌性疼痛における麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
神経障害性疼痛における末梢性TRPV1受容体及びNMDA受容体の関与	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
神経障害性疼痛における各種麻薬性鎮痛薬の効果	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
CB1受容体拮抗薬AM251はERKの活性化を介して疼痛関連行動を起こす	平成25年10月	第52回日本薬学会 東北支部大会
脊髄における疼痛伝達とその制御機構の解明	平成25年11月	第35回東北薬学セミナー
Antinociceptive effect of narcotic analgesics against mechanical allodynia in inflammatory pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
The antinociceptive effect of opioid analgesics in neuropathic cancer pain	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antinociceptive effect of narcotic analgesics in neuropathic pain state	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
Antipruritic effect of kappa-opioid receptor agonist in mice	平成26年3月	第87回日本薬理学会年会
炎症性疼痛下における麻薬性鎮痛薬の鎮痛効果減弱機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬 研究センターシンポジウム
Hemokinin-1誘発性疼痛関連行動の発現機構	平成26年6月	平成26年度東北薬科大学創薬 研究センターシンポジウム
各種難治性疼痛に対する麻薬性鎮痛薬の効果	平成26年9月	第65回日本薬理学会北部会
神経障害性疼痛に対するmethadoneの脊髄鎮痛作用	平成26年10月	第126回日本薬理学会 近畿部会
多発性硬化症疼痛に対するオピオイド性鎮痛薬の効果	平成26年10月	第126回日本薬理学会 近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成21年4月～	日本薬理学会学術評議委員	
平成24年5月～	仙台市立病院治験審査委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬物動態学教室	職名 講師	氏名 森本 かおり
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学生による授業評価は高いとはいえないため、話し方、説明方法、等工夫している段階である。			授業で学ぶ内容が実際の創薬や薬物治療において、どのように応用されるのか、臨床上の問題を示し、SB0sに加え、成功例からも学べるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年9月 毎年度	「エピソード薬物動態学—薬物動態学の解明」(京都廣川書店) (共著) (第7章担当) 授業プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Involvement of hepatocyte nuclear factor 4 alpha in transcriptional regulation of the human pregnane X receptor gene in the human liver.	共著	2008年 2月	<i>Drug Metab Pharmacokinet.</i> Vol. 23 No. 1
(論文) Oseltamivir (Tamiflu) efflux transport at the blood-brain barrier via P-glycoprotein	共著	2008年 1月	<i>Drug Metab Dispos.</i> Vol. 36 No. 1
(論文) Functional analysis of a mutation in the SLC01B1 gene (c.1628T>G) identified in a Japanese patient with pravastatin-induced myopathy.	共著	2009年 6月	<i>Pharmacogenomics J.</i> Vol. 9 No. 3
(論文) Genetic Marker of Statin-induced Rhabdomyolysis	共著	2011年 2月	<i>YAKUGAKU ZASSHI</i> Vol. 131 No. 2
(論文) Developmental changes of brain distribution and localization of oseltamivir and its active metabolite Ro 64-0802 in rats.	共著	2012年	<i>J Toxicol Sci.</i> Vol. 37 No. 6
(論文) 消化管吸収過程におけるペプチドトランスポーター・PEPT1を介した薬物-食物間相互作用の解析	単著	2013年 3月	薬学研究の進歩 研究成果報告集 第29巻
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 土壌常在菌によるセシウム取込機構の解析		2013年3月	2013年度日本農芸化学会年会
(演題名) アルギン酸はストロンチウムおよびセシウムの吸収を抑制し、排泄を促進する		2013年3月	2013年度日本農芸化学会年会
(演題名) グルコースとPEPT1基質薬物の消化管吸収過程における相互作用		2013年5月	日本薬剤学会第28年会
(演題名) 土壌常在菌によるカリウムトランスポーターを介したセシウムの取り込み		2013年6月	第8回トランスポーター研究会

(演題名) Evaluation of the pharmacokinetic profile of a thiopeptide, Ψ -Phe-Ala, as a probe substrate of PEPT1 in rats	2013年10月	日本薬物動態学会第28回年会
(演題名) Contribution of radixin to P-glycoprotein expression and transport activity in mice small intestine in vivo	2013年10月	日本薬物動態学会第28回年会
(演題名) キノロン系抗菌薬のペプチドトランスポーターPEPT1を介した薬物相互作用	2013年10月	日本薬学会関東支部会
(演題名) The possible role of glucose and Ca ²⁺ in the internalization of intestinal peptide transporter, PEPT1 by sweet taste receptor, T1R2/3	2013年11月	AFPS2013
(演題名) キノロン系抗菌薬はペプチドトランスポーターPEPT1を阻害する	2014年6月	第9回トランスポーター研究会
(演題名) 尿毒症物質によるMRP2ならびにBCRP介在輸送の阻害	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
(演題名) 必須不飽和脂肪酸によるP-糖タンパク質の機能ならびに構造変化	2014年7月	第30回日本DDS学会
(演題名) 炎症性腸疾患栄養療法における必須不飽和脂肪酸のP-糖タンパク質発現量および機能に及ぼす影響	2014年10月	第53回日本薬学会東北支部大会
(演題名) 尿毒症物質インドキシル硫酸の消化管粘膜透過機構の解析	2014年10月	第53回日本薬学会東北支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月～	トランスポーター研究会幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 医薬情報科学教室	職名 講師	氏名 星 憲司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			情報科学センターで学生に実際に操作を体験させながら講義を進めている。講義の進度に遅れそうな学生には、個別に対応している。 課外時間に情報科学センターで課題や復習を行う学生が多いため、常に質問に対応できる体制で指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月 毎年度	Windows7によるコ・メディカルのための情報リテラシー(共立出版、共著、2,3,4,13章担当) プリント、パワーポイント、情報教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会第131年会 第21回日本医療薬学会年会		2011年3月 2011年10月	京都薬科大学-東北薬科大学間遠隔授業での学習支援システム(LMS)を活用した初年度教育 初年度教育における大学間合同遠隔授業での学習支援システムを活用した取り組み
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 抗菌薬サークル図データブック 点眼剤編	共著	2009年9月	じほう
(論文) Assisting the diagnosis of Graves' hyperthyroidism with pattern recognition methods theirrelations with free T4 levels: Extension to male patients	共著	2011年3月	Biomedicine & Pharmacotherapy, 65(2)
(論文) Compliance monitoring system using screen printing technology based on conductive ink	共著	2012年9月	Technology and Health Care, 20(6)
(著書) Windows7によるコ・メディカルのための情報リテラシー	共著	2013年4月	共立出版
(論文) Real-time wireless compliance monitoring system using calendar-type pill organizer	共著	2013年9月	Technology and Health Care, 21(5)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
血液の基本的検査データからクッシング症候群を予測する診断支援システム～術後のステロイド補充と副腎皮質機能低下症の解析		2013年4月	日本内分泌学会
パターン認識手法による基本的検査を用いた甲状腺機能異常症の診断支援～東北公済病院人間ドックにおけるスクリーニングの結果		2013年8月	日本人間ドック学会
基本的検査データ複数組み合わせによる甲状腺機能異常症の診断支援～東北公済病院人間ドックにおけるスクリーニング結果データベース構築と時系列解析への応用		2013年10月	日本薬学会東北支部大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 講師	氏名 薄井 健介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 病院薬剤部における薬剤師を兼務しているため、医療現場で得られた最新情報を基に、将来的に必要な知識を含めた講義を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会129年会 (京都)		平成21年3月28日	演題 「3年次医療施設見学の教育効果」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 東北薬科大学生涯教育講演会 (講演)		平成26年7月12日	演題 「循環器疾患の処方解析」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Comparison of oxidative stress markers in type 2 diabetes: basal bolus therapy versus twice daily premixed insulin analogs	共著	2010年3月	Internal Medicine Vol. 49 No. 5
Two-way crossover comparison of insulin glargine and insulin detemir in basal-bolus therapy using continuous glucose monitoring	共著	2011年7月	Diabetes, metabolic syndrome and obesity : targets and therapy Vol. 4
薬剤師のためのドーピング防止データベースの構築	共著	2012年3月	医薬品情報学13巻4号
スポーツファーマシストによるドーピング防止教育と医薬品管理の効果	共著	2013年6月	医療薬学39巻6号
全身麻酔導入時の血圧変動におけるレニン・アンジオテンシン系作用薬剤の影響に関するレトロスペクティブ調査	共著	2013年12月	日本病院薬剤師会雑誌49巻12号
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
東京国体でのアンケート調査から得られたドーピング防止に関する選手および来場者の意識		平成26年10月	日本薬剤師会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年1月～平成23年1月	日本薬学会 関東支部市民講座企画委員会 委員		
平成23年1月～平成26年3月	日本医薬品情報学会 JASDI-NET企画委員会 世話人		
平成23年4月～平成26年3月	東京都薬剤師会 東京国体対策特別委員会 委員		
平成24年7月～平成25年5月	東京都病院薬剤師会 医薬情報部会 委員		
平成26年7月～現在	宮城県病院薬剤師会 生涯教育委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子薬化学教室	職名 助教	氏名 若松 秀章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			必要最低限の知識を身につけることを基本とし、薬学の専門家としての将来を見据えた講義を行うようにしている。講義一回毎に関する内容の練習問題を課題として提示している。(医薬品化学) 合成化学の専門的な内容を基本とし、有機合成への興味をより深めることを意識している。後半、医薬品の製造に関する基礎事項を学んでもらっている。(医薬品合成化学) 高校化学で学んだこととの繋がりを交えながら、大学での有機化学へ移行することを重要視している。(有機構造化学) 講義開始時小テストを行い、講義内容の理解度向上を図っている。(有機反応化学Ⅱ) 質問は可能な限り随時受け付けることで、理解を深めるようにしている。(全科目)
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	講義用パワーポイント資料、練習問題プリント、小テスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Copper-Free Sonogashira Cross-Coupling of Ynamides: Easy Access to Various Substituted Ynamides from Nonsubstituted Ynamides	共著	2010年8月	Synlett 2010, 2322-2324.
(論文) Ring-opening metathesis and ring-closing metathesis of bicyclo[4.2.0]octenyynes: Application to the synthesis of tricyclic compounds	共著	2011年2月	Arkivoc 2011, (iv), 104-114.
(論文) A Facile Synthesis of Fully Protected meso-Diaminopimelic Acid (DAP) and Its Application to the Preparation of Lipophilic N-Acyl DAP	共著	2013年1月	Molecules 2013, 18(1), 1162-1173.
(論文) Design and Synthesis of A Nucleoside and A Phosphonate Analogue Constructed on A Branched-threo-tetrofuranose Skeleton	共著	2013年5月	Tetrahedron Lett. 2013, 54(30), 3949-3952.
(論文) Synthesis of a Dihydropyranonucleoside Using an Oxidative Glycosylation Reaction Mediated by Hypervalent Iodine	共著	2014年2月	Synthesis, 2014, 46, 879-886.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Synthesis of 6-Methyl-1,2,3,6-tetrahydropicolinic Acid As A Potential Organocatalyst		2013年4月	UK/Japan Conference in Catalytic Asymmetric Synthesis

Transition Metal Catalyzed Carbon-Carbon Bond Forming Reaction of Ynamides	2013年7月	The 20th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry
Palladium Catalyzed Three-Component Coupling of Ynamides	2013年10月	International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan
遷移金属錯体を用いたイナミドに対する位置選択的炭素鎖導入法の開発	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会
イナミドを基質としたパラジウム触媒による炭素炭素結合形成反応	2014年3月	日本薬学会第134年会
ルテニウム触媒を用いたエンイナミドを基質とする閉環反応	2014年9月	第44回複素環化学討論会
イナミドを用いた三成分連結反応におけるボロン酸及びハロゲン化アリールの効果	2014年10月	第53回日本薬学会東北支部大会
イナミドを基質としたパラジウム触媒による三成分連結反応	2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成 5年 5月～現在	日本化学会会員	
平成 6年 9月～現在	日本薬学会会員	
平成15年 3月～現在	アメリカ化学会会員	
平成19年 1月～現在	有機合成化学協会会員	
平成22年10月～現在	ISRN Organic Chemistry 編集委員	
平成23年4月～平成24年3月	第50回記念日本薬学会東北支部大会 事務局	
平成24年 8月～現在	Dataset Papers in Chemistry 編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子認識学教室	職名 助教	氏名 菅原 栄紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ①明確な到達目標の提示 ②復習テストの実施 ③確認問題の配付 ④授業アンケートの実施		平成26年4月～	①授業開始時に当日行う授業の到達目標を学生に示し学ぶべき重点ポイントを明らかにした。②授業開始時に前回は行った授業内容のテストを行い、講義内容の理解を深めた。③7回および14回授業終了までの確認問題および解答解説プリントを配付することで更なる知識の定着を行った。④6回目の講義終了時にアンケートを行い、学生からの要望・改善点を早い時点で汲上げ授業内容に反映させ一定の効果が得られた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①講義プリントの作製 ②パワーポイントの作製		平成26年4月～	①講義プリントは、毎時間作製し授業が進めやすいように重要な点を空欄にした書き込み式にし、また学生が復習しやすいように教科書のページ数などを記載した。②プリントに書き込む語句やプリント中の図表はスライドを使い効果的に説明するようにした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
東北薬科大学高校生実験講座		平成23年10月	「癌細胞の特徴をつかめ！」細胞表面にある糖鎖の解析
仙台市立加茂中学校職場体験		平成23年10月	加茂中2年生3名
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Marine Proteins and Peptides	共著	平成25年4月	Wiley & Blackwell Co. Ltd
(論文) A lectin from the mussel <i>Mytilus galloprovincialis</i> has a highly novel primary structure and induces glycan-mediated cytotoxicity of globotriaosylceramide-expressing lymphoma cells.	共著	平成24年12月	J. Biol Chem, 287
(論文) MRP1 expressed on Burkitt's lymphoma cells was depleted by catfish egg lectin through Gb3-glycosphingolipid and enhanced cytotoxic effect of drugs	共著	平成24年1月	Protein J., 31
(論文) Domain composition of rhamnose-binding lectin from shishamo smelt eggs and its carbohydrate-binding profiles	共著	平成25年12月	Fish Physiol. Biochem., 39
(論文) Binding profiles and cytokine-inducing effects of fish rhamnose-binding lectins on Burkitt's lymphoma Raji cells	共著	平成26年3月	Fish Physiol. Biochem., doi: 10.1007/s10695-014-9948-1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年月	学会名
ナマズ卵レクチンはバーキットリンパ腫Raji細胞のTCA回路を停止させるか?		平成25年9月	東北糖鎖研究会
EMARS法を用いたGb3近傍に存在する分子の探索		平成25年9月	東北糖鎖研究会
ナマズ卵レクチンで誘導されるバーキットリンパ腫細胞の増殖抑制機構の解析		平成25年9月	東北糖鎖研究会

Silurus asotus lectin (SAL) depresses citric acid cycle in Gb3-expressing Burkitt' s lymphoma cells	平成25年9月	日本生化学会
ナマズ卵レクチンは膜結合型TNFaの発現量を増加させる	平成25年9月	日本生化学会
RYKIはGb3近傍に存在する細胞膜分子である	平成25年9月	日本生化学会
Magmasの機能解析	平成25年12月	日本分子生物学会
キュウリウオ卵ラムノース結合性レクチンの構造と組換え体の発現	平成26年3月	日本薬学会
Raji細胞に発現するGb3にナマズ卵レクチンが結合することの重要性	平成26年8月	日本糖質学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
該当なし		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生体膜情報学教室	職名 助教	氏名 中川哲人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業開始時に前回の内容を簡単におさらいするなど、大事な事項は何回も繰り返し教えている。 授業アンケートや小テストで理解が不足している点を把握して授業に活かすようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	パワーポイント、授業プリント、小テスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Gangliosides stimulate bradykinin B2 receptors to promote calmodulin kinase II-mediated neuronal differentiation.	共著	2012/7/1	J. Biochem. 152(1)
Gangliosides and chondroitin sulfate desensitize and internalize B2 bradykinin receptors.	共著	2012/3/1	Biochem. Biophys. Res. Commun., 420(1)
The mucin box and signal/anchor sequence of rat neutral ceramidase recruit bacterial sphingomyelinase to the plasma membrane.	共著	2011/5/1	Biosci. Biotechnol. Biochem., Vol. 75(5)
Purification, molecular cloning, and application of a novel sphingomyelin-binding protein (clamysin) from the brackishwater clam, Corbicula japonica	共著	2011/3/1	Biochimica et Biophysica Acta (Molecular and Cell Biology of Lipids)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
GM3とカルジオリピンに特異的に結合する溶血因子PV2		2012/9/1	生化学会
キメラタンパク質の作製によるマウスシアリダーゼNEU3およびNEU2の性質解析		2009/10/1	生化学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 天然物化学教室	職名	氏名 鵜飼 和代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業開始時に、前週の質問なども踏まえた話を盛り込む
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Echinoderms: Proceedings from the 12th International Echinoderm Conference	共著	2010	Taylor & Francis, 547-549
Lissoclibadins 8-14, polysulfur dopamine-derived alkaloids from the colonial ascidian <i>Lissoclinum</i> cf. <i>badium</i>	共著	2009	Tetrahedron, 65, 9598-9603
Two Unprecedented Cembrene-Type Terpenes from an Indonesian Soft Coral <i>Sarcophyton</i> sp.	共著	2010	Tetrahedron, 66, 641-645
A new dibenz[b,e]oxepine derivative, 1-hydroxy-10-methoxy-dibenz[b,e]oxepin -6,11-dione, from a Marine-derived Fungus <i>Beauveria bassiana</i> TPU942.	共著	2012	Marine Drugs, 10, 2691-2697
A polybromodiphenyl ether from an Indonesian marine sponge <i>Lamellodysidea herbacea</i> and its chemical derivatives inhibit protein tyrosine phosphatase 1B, an important target for diabetes treatment	共著	2013	J. Nat. Med, 67, 730-735
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒトデの自切誘起因子とslow autotomy機構		2013年6月	化学生態学研究会
ヒトデの自切におけるキサントンの影響		2014年3月	日本薬学会第134年会
巻貝コナガニシに付着するカイメンが含有するヒトデ摂餌忌避物質		2014年6月	化学生態学研究会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 細胞制御学教室	職名 助教	氏名 伊左治知弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年	授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。
		毎年	ビデオ教材やweb演習を通じた個別化授業によって理解が深まるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年	パワーポイント、授業プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
N-glycosylation of the I-like domain of beta 1 integrin is essential for beta 1 integrin expression and biological function	共著	2009	J. Biol. Chem.284
An N-glycosylation site on the beta-propeller domain of the integrin alpha5 subunit plays key roles in both its function and site-specific modification by beta1,4-N-acetylglucosaminyltransferase III.	共著	2009	J. Biol. Chem.284
Functional roles of the bisecting GlcNAc in integrin-mediated cell adhesion.	共著	2010	Methods Enzymol. 480
Roles of N-acetylglucosaminyltransferase III in epithelial-to-mesenchymal transition induced by TGF-β1 in epithelial cell lines.	共著	2012	J. Biol. Chem. 287
An Oncogenic Protein Golgi Phosphoprotein 3 Up-regulates Cell Migration via Sialylation.	共著	2014	J. Biol. Chem. 289
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬剤学教室	職名 助教	氏名 林 貴史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートを実施して、授業の改善をはかっている。 授業・科目に関する質問を受け付け、最新の薬剤師実務と関連づけできるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第18回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (東北地区調整機構主催)		平成21年 7月19, 20日	タスクフォース
第29回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (東北地区調整機構主催)		平成24年 9月8, 9日	タスクフォース
第31回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (東北地区調整機構主催)		平成25年 8月10, 11日	タスクフォース
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第404回集談会 (講演)		平成20年12月22日	演題「専門薬剤師の認定と今後の可能性」
山形県職員薬剤師会研修会 (講演)		平成24年7月7日	演題「薬学部6年制課程教育の状況と今後の課題について」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文)東北薬科大学薬学部6年制実務実習進捗ネットワークツールの活用	共著	平成22年12月	医薬品相互作用研究 Vol. 34, No. 2
(論文)Enhanced behavioral response to 5-HT-related agonists in postweaning protein malnourished mice	共著	平成24年10月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Vol. 35
(論文)Compatibility of Heparin Sodium in Intravenous Line with Nicardipine Injected from a Side Tube via T-shape Stopcock	共著	平成24年12月	Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, Vol. 38
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)長期実務実習生に対する一次救命救急実習への取り組みとその評価		平成26年5月	日本病院薬剤師会東北ブロック第4回学術大会
III 学会および社会における主な活動			
(なし)			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬理学教室	職名 助教	氏名 八百板富紀枝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年度	アンケートをもとに、学生が苦手意識を持ち範囲には、図を工夫するなど、特にわかりやすい講義を行うようにしている。(講義) 自己学習をするように促し、ノートの作り方など具体的な方法を提示している。(講義) 真面目に出席している学生のため、カードで出席を管理している。(講義) 各項目の目的を果たせるように、事前に教科書を読ませ、技術面でのコツなども指導し、準備万端の体制を心掛けている。(実習) 勉強をしないと質問は出ないと思うので、実際にやってみて、わからないことがあったら質問するようにと伝えている。(講義・実習)	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年度	プリント作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Long-term feeding on powdered food causes hyperglycemia and signs of systemic illness in mice	共著	平成26年5月	Life Sciences, 103巻, 1号, 8-14頁
(論文) Roles played by histamine in strenuous or prolonged masseter muscle activity in mice	共著	平成25年12月	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology, 40巻, 4号, 848-855頁
(論文) Influence of a long-term powdered diet on the social interaction test and dopaminergic systems in mice	共著	平成25年10月	Neurochemistry International, 63巻, 309-315頁
(論文) Roles of histamine in exercise-induced fatigue: favouring endurance and protecting against exhaustion	共著	平成23年1月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, 35巻, 1号, 91-97頁
(論文) Effects of atomoxetine on levels of monoamines and related substances in discrete brain regions in mice intermittently deprived of rapid eye movement sleep	共著	平成22年4月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, 33巻, 4号, 617-621頁

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）断続的断眠ストレスによる過敏性腸症候群動物モデルの作製	平成26年3月	日本薬理学会
（演題名）断続的断眠ストレス負荷誘発性マウス腸管輸送能亢進状態における $\alpha 2$ アドレナリン受容体の関与	平成25年9月	第64回日本薬理学会北部会
（演題名）粉末食飼育はマウスの糖代謝機構を障害し、行動異常を誘発する	平成25年6月	日本老年歯科医学会第24回学術大会
（演題名）粉末食飼育マウスにおけるSocial interactionの障害について	平成25年5月	平成25年度東北薬科大学創薬研究センターシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～	日本薬理学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 機能病態分子学教室	職名 助教	氏名 永福正和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			初回に授業アンケートを取り、それをもとに英語力がレベルアップするような講義行うよう工夫している。 毎回、課題およびそれに関する小テストを課すことにより英語学習の習慣が身に付けられるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 腸間膜脂肪細胞の生理的分化成熟法の確立	共著	2009年12月	Tiss. Cult. Res. Commun. Vol. 28, 145-157
(論文) 「CD4+T細胞とCD8+T細胞の活性化におけるラフトガングリオシドの相違	共著	2011年4月	科学評論社, 臨床免疫・アレルギー科 460-469
(論文) CD4 and CD8 T cells require different membrane gangliosides for activation	共著	2012年2月	Proc Natl Acad Sci U S A, 109 (6), 336-342
(論文) The physiological significance of ganglioside species selectively expressed on individual T cell subsets	共著	2013年7月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology., 25, 159-169
(論文) Heterogeneity of gangliosides among T cell subsets	共著	2013年9月	Cell. Mol. Life Sci., 70(17), 3067-3075
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Rearrangements of lipid raft constituents during thymocyte development		2014年12月	日本免疫学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬剤学教室	職名 助教	氏名 佐藤 祥子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 授業で使用するプリントはアンケート結果、新薬の情報や制度の変更に対応するため毎年度見直している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年度 毎年度	パワーポイント作成 プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)Executive functions of postweaning protein malnutrition in mice.	共著	2011年9月	Biol Pharm Bull. Vol.34 No.9
(論文)Enhanced behavioral response to serotonin-related agonists in postweaning protein malnourished mice.	共著	2012年10月	Biol Pharm Bull. Vol.35 No.10
(論文)Combined low calcium and lack magnesium is a risk factor for motor deficit in mice.	共著	2013年2月	Biosci Biotechnol Biochem. Vol.77 No.2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)夜間・休日用医師向けSAE対応ファイルの作成とその有効活用の検討		2013年9月	CRCと臨床試験のあり方を考える会議
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬剤学教室	職名 助教	氏名 及川 淳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業講義内容の確認問題を数多く取入れ、確実に理解・把握できるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	講義内容プリント・パワーポイント作成 講義内容確認問題プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Enhanced behavioral response to serotonin-related agonists in postweaning protein malnourished mice.	共著	2012	Biol. Pharm. Bull., 35,
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 助教	氏名 奥山 祐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義開始時に毎回小テストを行い、前回の講義内容を復習することでより理解を深められるよう工夫している。また理解不足と思われる項目については補足説明を行い理解向上に努めた。学生からの質問には常時対応し、丁寧に説明するよう心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23～26年度 毎年度	講義プリントの作成 実習書の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Organocatalytic activity of 4-hydroxy-prolinamide alcohol with different noncovalent coordination sites in asymmetric Michael and direct aldol reactions		共著	平成21年2月
(論文) A highly enantioselective Diels-Alder reaction of 1,2-dihydropyridine using a simple β -amino alcohol organocatalyst for a practical synthetic methodology of oseltamivir intermediate		共著	平成23年4月
(論文) New hydrazine-based organocatalyst for asymmetric Diels-Alder reaction of 1,2-dihydropyridines		共著	平成24年2月
(論文) キラルオキサゾリジン類を用いた触媒的不斉合成反応の開発		共著	平成24年2月
(論文) Chiral Oxazolidine Catalyst for Asymmetric Synthesis		共著	平成26年1月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Amino alcohol catalyzed enantioselective Diels-Alder reaction of 3-hydroxy-2-pyridones		平成25年6月	23th International Symposium Synthesis in Organic Chemistry
アミノアルコール有機分子触媒を用いる1,2-ジヒドロピリジン類の不斉Diels-Alder反応		平成25年10月	第43回複素環化学討論会
ブレンステッド塩基としてアミノアルコール有機分子触媒を用いる3-ヒドロキシ-2-ピリドン類の不斉Diels-Alder反応		平成25年10月	第43回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成24年3月	日本薬学会東北支部幹事		
平成23年4月～平成24年3月	日本薬学会東北支部大会事務局		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生薬学教室	職名 助教	氏名 小林匡子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			プリントを作成し、実習・講義内容をより深く理解してもらうよう工夫している。 記述式の授業アンケートを取り、わかりやすい講義になるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Inhibitory effect of Myrica Bark on lipase activity in mouse plasma and gastrointestinal tract	共著	2008年4月	J. of Med. Food, vol.11, No. 2
Investigation of decoction procedure of Maoto described in Shokan-ron using mouse amylase inhibitory activity	共著	2008年6月	Kampo Med., vol.59, No. 3
Triterpens of Callistemon rigidus showing inhibitory activity on mouse pancreatic lipase	共著	2011年2月	Shoyakugaku Zasshi, vol. 65
Influence of the digested products of Royal Jelly on insulin levels in KK-Ay mice	共著	2011年3月	Food Science and Technology Research, vol.18
Lipase inhibitory and LDL anti-oxidative triterpenes from Abies sibirica	共著	2013年1月	Phytochemistry, vol. 86
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
防己黄耆湯の効果と腎脂肪酸代謝との相関性		2014年3月	日本薬学会第134年会
Lipase inhibitory activity and phytochemical studies of polygonum sericeum		2013年9月	Society for medicinal plant and natural product research
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名	氏名 河野 資
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Contribution of CD4+ T cells and dendritic cells to female-dominant antigen-induced Th2 cytokine production by bronchial lymph node cells.	共著	2013・5	Int. Arch. Allergy Immunol., 16
Higher sensitivity of male CD4+ T cells to suppressive effects of CD8+ T cells on IL-5 production compared with female CD4+ T cells.	共著	2012・5	Int. Arch. Allergy Immunol., 158
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
免疫寛容に対する精神的ストレスの影響と喘息の病態発症		2013・11	第63回日本アレルギー学会
精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症		2013・6	アレルギー・好酸球研究会2013
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子薬化学教室	職名 助教	氏名 名取 良浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年度		講義では、毎回アンケートを行い、学生の理解出来なかった点や質問を書いてもらっている。次回の講義の際に出た質問をプリントで解答している。また、プリントは穴埋め形式とし、講義を聴いているだけにならない様にしている。
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年度		プリント、パワーポイント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The synthesis and biological evaluation of 1-C-alkyl-L-arabinoiminofuranoses, a novel class of α -glucosidase inhibitors	共著	2011年11月1日	Elsevier Bioorg. Med. Chem. Lett. 2011, 21, 738-741.
(論文) Asymmetric Synthesis of 1-Alkyl-2-deoxyiminofuranoses via The Iridium-catalyzed Intramolecular Cyclization of an Allylic Carbonate	共著	2012年9月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry Publications Heterocycles, 2012, 86, 1401-1417.
(論文) α -1-C-Butyl-1,4-dideoxy-1,4-imino-L-arabinitol as a Second-Generation Iminosugar-Based Oral α -Glucosidase Inhibitor for Improving Postprandial Hyperglycemia	共著	2012年10月	American Chemical Society Publications J. Med. Chem. 2012, 55, 10347-10362.
(論文) Asymmetric Synthesis of 2,5-Disubstituted 3-Hydroxypyrrolidines Based on Stereodivergent Intramolecular Iridium-catalyzed Allylic Aminations	共著	2014年1月1日	Royal Society of Chemistry Org. Biomol. Chem., 2014, 12, 1983-1994.
(論文) Synthesis and biological evaluation of α -1-C-4'-arylbutyl-1-arabinoiminofuranoses, a new class of α -glucosidase inhibitors	共著	2014年6月1日	Elsevier Bioorg. Med. Chem. Lett., 2014, 24, 3298-3301.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
1-C-n-ブチル-L-イミノ糖誘導体の触媒的不斉合成と α -グルコシダーゼ阻害活性評価 発表者: 佐久間 俊嘉、名取 良浩、加藤 敦、足立 伊佐雄、中川 進平、吉村 祐一		2014年6月1日	平成26年度 東北薬科大学 創薬研究センターシンポジウム
クリックケミストリーを用いたD-イミノフラノース誘導体の合成と酵素阻害活性評価 発表者: 名取 良浩、盛 友莉恵、加藤 敦、足立 伊佐雄、吉村 祐一		2014年6月1日	平成26年度 東北薬科大学 創薬研究センターシンポジウム
1-C-n-ブチル-L-イミノフラノース誘導体の不斉合成とその酵素阻害活性評価 発表者: 佐久間 俊嘉、名取 良浩、中川 進平、加藤 敦、足立 伊佐雄、吉村 祐一		2014年9月1日	第44回 複素環化学討論会

C1位に4-アリアルブチル基が置換したイミノ糖誘導体の不斉合成とその α -グルコシダーゼ阻害活性評価 発表者：名取 良浩、佐久間 俊嘉、加藤 敦、足立 伊佐雄、吉村 祐一	2014年10月1日	第53回 日本薬学会東北支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 放射薬品学教室	職名 助教	氏名 斎藤 陽平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学習意欲を引き出すような講義・実習になるよう工夫を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント・パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effect of aging on norepinephrine-related proliferative response in primary cultured periportal and perivenous hepatocytes.	共著	2012年	Am. J. Physiol. Gastrointest. Liver Physiol. Vol. 303(7)
The cell adhesion and proliferation activities of a peptide derived from human tenascin-C are dependent on two Ile residues	共著	2012年	Bioorg. Med. Chem. Vol.20(15)
Eukaryotic translation elongation factor 1A induces anoikis by triggering cell detachment.	共著	2012年	J. Biol. Chem. Vol. 287(19)
Chapter 34 :Cell regulation through membrane raft/caveolae (Electrical Phenomena at Interfaces and Biointerfaces)	共著	2010年	John Wiley & Sons, Inc.
Apoptotic death of hematopoietic tumor cells through potentiated and sustained adhesion to fibronectin via VLA-4.	共著	2010年	J Biol Chem. Vol. 285
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Synthesis and initial evaluation of radioiodine labeled A3B-type Lactosome as an imaging probe of tumor and/or inflammation		2014年6月	The Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 61th Annual Meeting
肝癌細胞株HepG2の放射線耐性獲得に対するTransglutaminase 2の関与		2014年7月	第33回 分子病理学研究会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 体育学教室	職名 助教	氏名 深瀬 友香子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
教育管理システム「moodle」を用いた独自の授業アンケートの実施		毎年度	「健康スポーツ」では、独自の授業アンケートを作成・実施し、それを基に授業の改善に努めている。
学生からの授業に対するコメントの回収・活用		毎年度	「健康科学」では、毎回の授業終了時に、各受講生からのコメントを回収し、それを授業に内容に活かしている。
教育管理システム「moodle」を用いた健康・身体活動調査の実施		毎年度	両科目において、受講生の健康・身体活動調査を行い、その結果を基に授業内容を工夫したり、調査結果を受講生に還元するなどして活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 独自の資料（「健康科学」）		毎年度	プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
平成24年度 三重県津市教育研究会 中ブロック 体育保健部会・講師		平成24年8月24日	講習内容「体育授業で実践できるラート」
津市中学校教員及び三重大学教育学部学生対象ラート研修会・講師		平成25年8月19日	講習内容「中学体育授業で実践できるラート」
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第61回高等共通教育研究会（秋田）参加		平成23年9月1,2日	全体テーマ「学士課程教育における教養教育の意義を問う」
第62回高等共通教育研究会（北海道）参加		平成24年8月31日, 9月1日	全体テーマ「誰のための学士課程教育か？-学生・教職員・大学それぞれの自己実現の観点から-」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
（論文）総合型地域スポーツクラブヘラートを導入させる際に生じる諸課題の考察		共著（筆者筆頭）	平成22年3月
（論文）ラート初心者に対する指導上の留意点の提案—粗形態獲得前後に現れる特徴を基に—		単著	平成22年9月
（論文）ラート競技の跳躍における踏切動作のバイオメカニクス的研究		共著（筆者筆頭）	平成24年3月
（論文）総合型地域スポーツクラブへのラート導入の試み：導入交渉事例の考察		単著	平成24年3月
（論文）本学1年次における生活習慣の実態について—体育実技選択者と体育講義選択者の特性の違い—		共著（筆者筆頭）	平成26年3月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	日本ラート協会 技術部 委員		
平成25年6月～現在	日本ラート協会 理事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 機能病態分子学教室	職名 助教	氏名 郷 慎司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬学英語II (授業評価等を含む) 毒性学実習		23年度9月～1月 毎年度 23年度9月～1月 毎年度	アンケートを基に内容改善、スライド使用した説明のわかりやすさ、アニメーション・写真を用いた興味を引く演出を行う。 質問を積極的に受け付け、考え方のヒントを示す
2 作成した教科書、教材、参考書		23年度～毎年度	パワーポイント、プリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Expression machinery of GM4	共著	2014. 02	Glycoconj J. 31(2):101-8.
(著書) Map3 Biosynthetic pathway of Glycosphingolipids	共著	2014	Handbook of Glycosyltransferase and Related Gene Springer JAPAN
(論文) Possible association of Neu2 with plasma membrane fraction from mouse thymus exhibited sialidase activity with fetuin at pH 7.0 but not at pH 4.5.	共著	2013. 08	Microbiol Immunol. 57(8):569-82
(論文) Detection of N-glycosylated gangliosides in non-small-cell lung cancer using GMR8 monoclonal antibody.	共著	2013. 01	Cancer Sci. 104(1):43-7
(著書) Human KDN (deaminated neuraminic acid) and its elevated expression in cancer cells: mechanism and significance.	共著	2011	Adv Exp Med Biol. 705:669-78
(論文) Glycoconjugates in hearing.	共著	2011. 03	生化学
(論文) Glycoconjugates in the mammalian auditory system.	共著	2011. 03	J Neurochem. 116(5):756-63
(論文) Zebrafish and mouse alpha2, 3-sialyltransferases responsible for synthesizing GM4 ganglioside	共著	2009. 1	J Biol Chem. 284(44):30534-46
(論文) Mice lacking ganglioside GM3 synthase exhibit complete hearing loss due to selective degeneration of the organ of Corti.	共著	2009. 06	Proc Natl Acad Sci U S A. :106(23):9483-8

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
0-GlcNAc化を介したスフィンゴ糖脂質代謝制御機構	2014. 10.	日本分子生物学会
0-GlcNAc化を介したスフィンゴ糖脂質代謝制御機構	2014. 08.	日本糖質学会
Ganglioside play Pivotal role for auditory sense	2014. 01.	新学術領域神経糖鎖国際会議
Ganglioside play Pivotal role for auditory sense	2013. 10.	5th ACGG Conference
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年度～平成26年度	日本糖質学会グライコトピックレポーター	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 生薬学教室	職名 助教	氏名 村田 敏拓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		通年	前期は14回の講義全てにおいて、終了前に学生からの意見や質問などを記入させる用紙を配布し、次回講義の際に回答する時間を設けている。 学生にとって生薬学に興味を少しでも持ってもらいたい狙いがあったが、学生が積極的に講義に参加する双方向性の意味も出てきたように思う。
2 作成した教科書、教材、参考書		通年	プリント、パワーポイント資料の作成 生薬標本や香り、実物見本 (実際に野外で採取)の準備。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		年3-5回程度	講師として薬用植物園見学会やオープンキャンパスなどを通し、薬用植物や身近な植物について説明する
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Diastereomers of lithospermic acid and lithospermic acid B from <i>Monarda fistulosa</i> and <i>Lithospermum erythrorhizon</i>	共著	2013. 8. 23	Fitoterapia (91) 51-59
Flavone tetraglycosides and benzyl alcohol glycosides from the Mongolian medicinal plant <i>Dracocephalum ruyschiana</i>	共著	2013. 1. 28	Journal of Natural Products (76) 186-193
Triterpene saponins from <i>Clethra barbinervis</i> and their hyaluronidase inhibitory activities	共著	2012. 12. 3	Chemical and Pharmaceutical Bulletin (61) 134-143
Hyaluronidase inhibitors from <i>Keiskea japonica</i>	共著	2011. 11. 4	Chemical and Pharmaceutical Bulletin (60) 121-128
Larval feeding stimulants for a Rutaceae-feeding swallowtail butterfly, <i>Papilio xuthus</i> L. in <i>Citrus unshiu</i> leaves	共著	2011. 9. 30	Journal of Chemical Ecology (37) 1099-1109
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
モンゴル産 <i>Dracocephalum</i> 属植物の成分薬効解析		2014・3	日本薬学会年会
モンゴル産シソ科伝統薬用植物 <i>Caryopteris mongolica</i> に含まれる抗菌活性ジテルペン		2014・9	日本生薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 臨床分析化学教室	職名 助教	氏名 加藤 創
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			毎週の講義時にアンケートを行い、わかりにくいと学生が感じている部分を翌週フォローするようにしている
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	プリント、スライド作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Microbial Degradation of Cyclic Peptides Produced by Bacteria	共著	2009	<i>J. Antibiotics</i> , 62
(論文) Blue Color Formation of Cyanobacteria with β -cyclocitral	共著	2010	<i>Chem. Res. Toxicol.</i> , 22
(論文) ラン藻類が産生するmicrocystinを分解する菌、B-9に対する種々の抗生物質の抗菌活性	共著	2011	名城大学総合研究所総合学術研究論文集, 10
(論文) Biomonitoring of Microcystin and Aflatoxin Co-Occurrence in Aquaculture Using Immunohistochemistry and Genotoxicity Assays	共著	2012	<i>Braz. Arch. Biol. Technol.</i> , 55
(論文) Simultaneous enantiomeric determination of MDMA and its phase I and phase II metabolites in urine by liquid chromatography-tandem mass spectrometry with chiral derivatization	共著	2012	<i>Anal. Bioanal. Chem.</i> , 404
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ピコリル誘導体化による生体内微量胆汁酸の高感度分析法の確立		2013・10	第52回日本薬学会東北支部大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 微生物学教室	職名 助教	氏名 岩井 健太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業アンケートをもとに、わかりやすい講義・実習を行うよう工夫している。 最新の知見を分かりやすく興味を持ってもらえるよう心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年	実習書、プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
高校生実験講義		平成24年10月	「生きた細胞の蛋白質の動きを観察してみよう」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Peroxiredoxin Ahp1 acts as a receptor for alkylhydroperoxides to induce disulfide bond formation in the Cad1 transcription factor.	共著	2010年4月	American Society for Biochemistry and Molecular Biology, J Biol Chem 285(14).
活性酸素種の感知とシグナル伝達機構 Sensing of reactive oxygen species and its signal transduction	共著	2010年12月	東北薬科大学 研究誌第57号
HSC90 is required for nascent hepatitis C virus core protein stability in yeast cells.	共著	2012年3月	ELSEVIER, FEBS Lett. 586(16)
Requirement of peroxiredoxin on the stationary phase of yeast cell growth.	共著	2013年2月	日本毒性学会、JTS(39-1)
毒性の科学	共著	2014年2月	東京大学出版会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
酸化ストレスによる翻訳制御はHSP70コシャペロンBAG1により感知・誘導される		平成25年9月	第12回生物化学若手研究者セミナー、平成25年度日本薬学会東北支部
酸化ストレスによる翻訳制御はHSP70コシャペロンBAG1により感知・誘導される		平成25年9月	フォーラム2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー
A novel mammalian sensing system for hydroperoxide to induce phospho-eIF2 α and cell growth under restrictive conditions		平成26年7月	Gordon Research Conferences Thiol-Based Redox Regulation & Signaling
コシャペロンタンパク質BAG1のレドックス制御が腫瘍形成に与える影響		平成26年8月	2014 日本細菌学会東北支部会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 3 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 4 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 天然物化学教室	職名 助教	氏名 山崎 寛之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			簡単な具体例を交えて、理解しやすい講義・指導を行うように工夫している。 最新のトピックスを紹介することで自然科学に興味を持たせ、能動的な学習を促すような指導に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	授業プリント、レポート、パワーポイントの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) In vitro metabolism of pyripyropene A and ACAT inhibitory activity of its metabolites.	共著	平成 26 年 7 月	Journal of Antibiotics in press
(論文) A polybromodiphenyl ether from an Indonesian marine sponge <i>Lamellodysidea herbacea</i> and its chemical derivatives inhibit protein tyrosine phosphatase 1B, an important target for diabetes treatment.	共著	平成 25 年 10 月	Journal of Natural Medicines, Vol.67, No.4
(論文) Euryspongins A-C, three new unique sesquiterpenes from a marine sponge <i>Euryspongia</i> sp.	共著	平成 25 年 4 月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, Vol.23, No.7
(論文) Synthesis and structure-activity relationship of pyripyropene A derivatives as potent and selective acyl-CoA:cholesterol acyltransferase 2 (ACAT2) inhibitors: part 1.	共著	平成 25 年 3 月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, Vol.23, No.5
(論文) A new dibenz[b,e]oxepine derivative, 1-hydroxy-10-methoxy-dibenz[b,e]oxepin-6,11-dione, from a marine-derived fungus, <i>Beauveria bassiana</i> TPU942.	共著	平成 24 年 12 月	Marine Drugs, Vol.10, No.12
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)パラオ産海洋糸状菌 <i>Trichoderma</i> sp. TPU199株のDMSO添加培養による新規epitriithiodiketopiperazineの生産誘導		平成 25 年 6 月	第8回化学生態学研究会
(演題名)パラオ産海洋糸状菌 <i>Trichoderma</i> sp. TPU199株による新規epidithiodiketopiperazine類の生産誘導		平成 25 年 9 月	第55回天然有機化合物討論会
(演題名)西表島産海洋生物資源からの抗結核物質の探索		平成 25 年 10 月	第52回日本薬学会東北支部大会
(演題名)宮城県産海洋糸状菌 <i>Penicillium</i> sp. TPU1205株が生産する新規ポリケタイドの構造		平成 25 年 10 月	第52回日本薬学会東北支部大会
(演題名)インドネシア産海洋糸状菌 <i>Aspergillus</i> sp. TPU011株の海水培地による物質生産の検討		平成 25 年 10 月	第52回日本薬学会東北支部大会

(演題名)天然成分の有効利用	平成 26 年 1 月	産学官連携フェア2014
(演題名)パラオ産海洋糸状菌 <i>Trichoderma</i> sp. から単離した epipolythiodiketopiperazine類の抗結核活性	平成 26 年 3 月	第124回日本薬学会
(演題名)青森県で採集した水圏由来糸状菌からの protein tyrosine phosphatase 1B 阻害剤の探索	平成 26 年 3 月	第124回日本薬学会
(演題名)海洋糸状菌によるクルクミンの微生物変換	平成 26 年 10 月	第53回日本薬学会 東北支部大会
(演題名)西表島産海洋放線菌が生産する新規抗結核物質の構造と生物活性	平成 26 年 10 月	第53回日本薬学会 東北支部大会
(演題名)Isolation and structures of new indole derivatives from a marine sponge collected at Iriomote Island.	平成 26 年 10 月	第53回日本薬学会 東北支部大会
(演題名)インドネシア産海洋生物資源から単離した新規PTP1B阻害物質の構造と生物活性	平成 26 年 10 月	第56回天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 3 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 4 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名 助教	氏名 宮坂 智充
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年7月20日	授業時間内の質疑応答を活発に行い、学生の理解度を押し量るとともに、次回講義に向けた教材作りに反映させた。 オフアワーを有効に活用し、学生の質問に答えるような体制を整えた。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	生命薬学科3年次の講義に使用するパワーポイント資料作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記なし			特記なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 特記なし			特記なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 肺炎球菌感染防御とDectin-2	共著	2013年6月	科学評論社 臨床免疫・アレルギー科 59(6)
(論文) The involvement of glucocorticoids in psychological stress-induced exacerbations of experimental allergic asthma.	共著	2014年4月	Int Arch Allergy Immunol, 2014;163(4)
(論文) Dectin-2-dependent NKT cell activation and serotype-specific antibody production by pneumococcal polysaccharide vaccine.	共著	2013年6月	PLoS ONE 8(10): e78611. doi:10.1371/journal.pone.0078611
(論文) A possible relationship of natural killer T cells with humoral immune response to 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine in clinical settings	共著	2012年10月	Vaccine., 30(22)
(論文) TLR9-dependent activation of bone marrow-derived dendritic cells by URA5 DNA from Cryptococcus neoformans.	共著	2012年10月	Infect Immun., 80
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 気管支喘息におけるストレス誘発性気道炎症の悪化に対する中枢性ヒスタミン受容体の関与		2013年11月	第17回日本ヒスタミン学会
(演題名) 中枢神経系1型および2型ヒスタミン受容体を介した精神的ストレスによるアレルギー性気道炎症の悪化		2013年11月	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2014年6月～	宮城県臨床検査技師会 微生物部門精度管理部員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子薬化学教室	職名 助教	氏名 斎藤有香子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			(英文論文講読について) 薬学英語特有の英単語や文献の補足プリントを配布している。パワーポイントも活用している。(実習について) 積極的に声かけをして、理解度を深めるとともに安全に実習が進むよう心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書			プリント、パワーポイント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Synthesis of a Dihydropyranonucleoside Using an Oxidative Glycosylation Reaction Mediated by Hypervalent Iodine	共著	2014年2月	Synthesis, 46, 879-886.
(論文) A Facile Synthesis of Fully Protected meso-Diaminopimelic Acid (DAP) and Its Application to the Preparation of Lipophilic N-Acyl iE-DAP	共著	2013年1月	Molecules 18, 1162-1173.
(論文) A New Route to N1-Substituted Uracil Derivatives Using Hypervalent Iodine	共著	2012年3月	Synthesis, 44, 1163-1170.
(論文) Chemoselective O-tert-Butoxycarbonylation of Phenols using 6,7-Dimethoxyisoquinoline as A Novel Organocatalyst	共著	2010年10月	Tetrahedron Lett, 51, 6915-6917.
(論文) Synthesis of 1-(5,6-Dihydro-2H-thiopyran-2-yl)uracil by a Pummerer-type Thioglycosylation Reaction: The Regioselectivity of Allylic Substitution	共著	2009年9月	Tetrahedron, 65, 9091-9102.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規酸化的グリコシル化反応を利用したヌクレオシド誘導体の合成		2014年3月	日本薬学会第134年会 (全国学会)
イリジウム触媒を用いた分子内環化反応を基盤とする置換ピロリジン体の立体選択的合成		2013年11月	第39回反応と合成の進歩シンポジウム
超原子価ヨウ素試薬を利用したグリコシル化反応の開発と応用		2013年5月	創薬研究センターシンポジウムー合成化学と創薬研究のクロスオーバーー
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 分子認識学教室	職名 助教	氏名 立田 岳生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	パワーポイント・スライドを用い、効率の良い授業を心がけている。また、学生の反応を見ながら板書を利用し、わかりやすい講義を心がけている。 積極的に質問を受け付け、考察を深めるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
第5回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(本学主催)		平成23年9月	受講
東北薬科大学高校生実験講座		平成23年10月	「癌細胞の特徴をつかめ！」細胞表面にある糖鎖の解析
仙台市立加茂中学校職場体験		平成23年10月	加茂中2年生3名
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Involvement of ER stress in apoptosis induced by sialic acid-binding lectin (leczyme) from bullfrog eggs	共著	2013年12月	<i>Int. J. Oncol.</i> , 43
Down-regulation of Hsp70 inhibits apoptosis induced by sialic acid-binding lectin (leczyme)	共著	2014年1月	<i>Oncol. Rep.</i> , 31
Sialic acid-binding lectin (leczyme) induces apoptosis to malignant mesothelioma and exerts synergistic anti-tumor effect with TRAIL	共著	2014年3月	<i>Int. J. Oncol.</i> , 44
Leczyme: A New Candidate Drug for Cancer Therapy	共著	2014年4月	<i>Biomed Res Int.</i> , doi: 10.1155/2014/421415
Cancer-Selective Induction of Apoptosis by Leczyme	共著	2014年6月	<i>Front Oncol.</i> , doi: 10.3389/fonc.2014.001392 014
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ナマズ卵レクチンで誘導されるパーキットリンパ腫細胞の増殖抑制機構の解析		2013年9月	東北糖鎖研究会
RYKIはGb3近傍に存在する細胞膜分子である		2013年9月	生化学会大会
レクザイムによる悪性中皮腫細胞に対するアポトーシス誘導効果とTRAILとの併用効果について		2013年10月	癌学会学術総会
Magmasの機能解析		2013年12月	分子生物学会年会
キュウリウオ卵ラムノース結合性レクチンの構造と組換え体の発現		2014年3月	日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東北薬科大学	講座名 薬品物理化学教室	職名 助教	氏名 真鍋 法義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			当日に取扱う範囲をまとめたプリントを配布し、教科書ではフォローしきれない範囲を補足している。また、教科書では理解が難しい部分の補足も同時に掲載している。 また、FD委員会による授業評価を参考に、学生参加型になるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎授業	授業のまとめプリント作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) High-Definition Slit Lamp Video Camera System.	共著	2010年	Ophthalmic Surgery, Lasers & Imaging vol.41 No.2
(論文) Instant and supersaturated dissolution of naproxen and sesamin (poorly water-soluble drugs and supplements) nanoparticles prepared by continuous expansion of liquid carbon dioxide solution through long dielectric nozzle.	共著	2012年	Journal of Nanoparticle Research Vol. 14 No. 11
(論文) Flocculation and Re-dispersion of Colloidal Quantum Dots.	共著	2012年	Journal of Chemical Engineering of Japan vol. 45 No. 11
(論文) Evaluation of Anti-Inflammatory Drug-Conjugated Silicon Quantum Dots: Their Cytotoxicity and Biological Effect.	共著	2013年	International Journal of Molecular Sciences vol. 14 No.1
(論文) Roles of Intramolecular and Intermolecular Hydrogen Bonding in a Three-Water-Assisted Mechanism of Succinimide Formation from Aspartic Acid Residues.	共著	2014年	Molecules vol. 19 No.8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Peptide-assisted immobilization and surface functionalization for carbon nanotubes based nano-assembling devices.		2013年12月	Frontier 2013
Antibody engineering as biointerface molecules for composition of heterogeneous nanoparticles.		2014年1月	Korea-Japan smart biodesign workshop
A computational study of succinimide formation in Asp-Asp motif.		2014年9月	The 2nd International Conference of D-Amino Acid Research
III 学会および社会における主な活動			